

2 開港 150 周年記念事業の実施報告

(1) 横浜開港”ハッピーバースデー”プロジェクト	10
ア 横浜開港 150 周年記念式典	10
イ 開港 150 周年記念 新春 安全安心フェスティバル	10
ウ 第 20 回全国「みどりの愛護」のつどい	11
エ H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会	12
オ 日本大通りフラワーアートフェスティバル	13
カ 海のエジプト展～海底からよみがえる、古代都市アレクサンドリアの至宝～	14
キ 海フェスタよこはま	14
ク 2009 横浜国際トライアスロン大会等	15
ケ 関連集客イベント	17
コ 横浜グランドミュージアム	18
サ 横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン	19
シ 野毛地区インフォメーションセンターオープン	20
(2) 横浜の新たな顔づくり ・まちづくり推進プロジェクト	21
ア 象の鼻地区再整備事業	21
イ マリインタワー再整備	22
ウ アメリカ山公園整備	23
エ 日本丸メモリアルパークリニューアル	24
オ ナショナルアートパーク構想	24
カ ヨコハマ国際映像祭 2009	25
キ 創造界限形成	26
ク 創造の担い手育成	27
ケ 横浜駅周辺大改造計画	29
コ みなとみらい 21 環境整備	29
サ 戸塚駅周辺地区整備	30
シ まちのバリアフリー推進	31
ス 市内米軍施設の返還と跡地利用の推進	31
セ 歴史的・文化的資産を活用した魅力ある公園づくり	31
ソ 羽田空港の国際化	32
タ 都心臨海部・インナーハーバー整備構想	33

(3) 市民力・地域力発揮プロジェクト 34

ア	クラシック・ヨコハマ推進事業	34
イ	文化芸術の創造性を活かした地域づくり	34
ウ	横浜あかりアーツコラボレーション 2009	35
エ	横浜アートサイト 2009	35
オ	市民参加プラットホーム推進委員会	36
カ	横浜開港の歴史を振り返る様々な記念出版	38
キ	横浜開港の歴史を体験できる様々な事業の実施	39
ク	150万本植樹行動と開港150周年の森づくり	42
ケ	「たまくすプロジェクト」樹勢回復記念植樹事業	42
コ	コラボレーションフォーラム横浜 2009	43
サ	開港5都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会	44
シ	開港150周年記念障害者スポーツ文化事業	45
ス	横浜ライフデザインフェア 2009	45
セ	「はまっ子どうし」事業	46
ソ	横浜18区紹介デー	46
タ	各区の取組	47
チ	マザーポートエリア	62
ツ	地域や民間主体の取組	65

(4) 次世代育成・人材育成プロジェクト 67

ア	小中一貫英語教育の推進	67
イ	横浜開港150周年記念副読本発行事業	67
ウ	横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備	68
エ	子育て家庭応援事業「ハマハグ」	69

(5) さらなる国際的な発信力を高めていくための 都市戦略の取組 70

ア	横浜クリエイティブシティ国際会議 2009	70
イ	2009年シティネット横浜大会	71
ウ	2010年日本APEC首脳会議の横浜開催の決定	72

(6) 横浜開港150周年記念テーマイベント 「開国博 Y150」 73

※ この実施報告は平成18年6月2日に公表された「横浜開港150周年～市政120周年～基本計画」に掲載された事業をもとに作成しており、民間主催の記念事業や地域で行われた記念事業の全てを掲載してはおりません。

(1) 横浜開港”ハッピーバースデー”プロジェクト

先人の業績や歴史を知る機会にするとともに、「チャンスあふれるまち」の創造に向けて、横浜全体がお祭ムードあふれるような、記念式典や記念イベントを多くの市民や企業とともに開催しました。

ア 横浜開港 150 周年記念式典

- ・ 開催日 平成 21 年 5 月 31 日 (日)
- ・ 会場 パシフィコ横浜国立大ホール
- ・ 参加者数 3,478 人

開港 150 周年を多くの市民とともに祝い、日本の近代化を牽引してきた横浜の歴史を再認識し、先人の業績に感謝するとともに、未来への希望を共有し、さらなる発展への契機とするため式典を開催しました。

式典当日には、天皇皇后両陛下の御臨席を仰いだことをはじめ、三権の長、開港 5 か国の大使、姉妹友好都市の首長など国内外から 1,690 人の来賓にお越しいただくとともに、御招待した 1,788 人の市民が出席し、パシフィコ横浜国立大ホールを会場に、開港 150 周年の節目にふさわしい大規模で格調の高い式典となりました。

第 2 部として式典のプロデューサーである演出家宮本亜門氏の作・演出による、オリジナルショー「ヴィジョン！ヨコハマ」が上演され、感動のフィナーレでは大ホールが満場の拍手に包まれました。

また、式典の様様をテレビ神奈川が同時中継し、多くの市民が自宅で感動を共有しました。

<ヴィジョン！ヨコハマ>

アンケートで寄せられた市民の「横浜に対する想い」をもとに練り上げられたシナリオに、歌・ダンス・パフォーマンスを織り込みながら、開港以来の横浜の歴史と、これから紡ぎ出していく未来を表現した、この日限りの特別なショーを上演しました。

ナビゲーターの谷原章介さん、飯島直子さんをはじめ、草笛光子さん、五大路子さんなど横浜ゆかりの俳優やタレントなど 9 人をメインキャストに迎え、オーディションで選考された約 500 人の市民が演技、合唱などでショーを盛り上げました。また、ラストシーンでは、横浜出身の人気デュオ「ゆず」が登場し、自身の作である開港 150 周年のテーマソング「みらい」を熱唱し、会場を感動でつつみました。



イ 開港 150 周年記念 新春 安全安心フェスティバル

～明るいヨコハマの未来に向かって新たな船出～

開港 150 周年を迎えた新春に、明るいヨコハマの未来に向かって新たな船出となるよう、その根底にある「安全・安心」について市民の皆さんと共に考え、実感できるよう、新しいスタイルの市民参加型イベントとして開催したものです。

- ・ 開催日 平成21年1月10日(土)
- ・ 会場 横浜赤レンガ倉庫 イベント広場
- ・ 参加者数 約20,000人

- ① オープニングセレモニー
(市長、局長、中丸雄一「RESCUE～特別高度救助隊」ドラマ出演者)
- ② 獅子舞(六ツ川大池囃子保存会)
- ③ 古式消防演技 木遣り・纏振り込み・はしご乗り(横浜市鳶工業連絡会)
- ④ 災害救助犬演技(NPO法人神奈川救助犬ネットワーク)
- ⑤ 人命救助ロボット展示(長岡科学技術大学・(株)プロジェクトアイ)
- ⑥ 地震防災教育(東京工業大学都市地震工学センター)
- ⑦ 緊急地震速報PR(横浜地方気象台)
- ⑧ TBSドラマ「RESCUE 特別高度救助隊」出演者によるトークショー
- ⑨ 新人消防職員演技・消防音楽隊演奏・救命連携活動演技・陸海空放水演技・特別高度救助部隊(スーパーレンジャー)展示・訓練
- ⑩ 安全・安心広報(住宅用火災警報器、横浜型新救急システム、こども安全の日、木造耐震化促進、消防団の活動、開国博Y150PR等)
- ⑪ 参加体験コーナー(震度体験、AED・救命処置訓練、はしご搭乗、ヘリ搭乗、防火衣試着、防災クイズラリー等)

横浜市鳶工業連合会の皆さんによる「はしご乗り」や消防隊・消防艇・消防ヘリコプターによる陸海空からの放水、特別高度救助部隊(スーパーレンジャー)の迫力ある訓練などを披露するとともに、震度体験や横浜型新救急システム「コールトリアージ」の紹介など、大勢の来場者を迎え、開催しました。

また、「KAT-TUN(カトゥーン)」の中丸雄一さんが登場し、本市の全面協力により撮影されたテレビドラマの紹介も行いました。

人命救助に日夜取り組む消防の仕事への理解とともに、地震などの災害に対する備えを家庭や地域で確認し、安全・安心を実感する機会となりました。



ウ 第20回全国「みどりの愛護」のつどい

- ・ 開催日 平成21年4月19日(日)
- ・ 会場 横浜動物の森公園(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)
- ・ 来場者数 約1,500人

全国みどりの愛護団体関係者等が一堂に集い、広く都市緑化意識の高揚を図り、緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりを推進するため、第20回全国「みどりの愛

護」のつどいを開催しました。

式典には、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、国土交通大臣、神奈川県知事、横浜市長、神奈川県議会議長、横浜市会議長をはじめとする方々が一堂に会しました。

式典では、開式の辞、国歌斉唱の後、国土交通大臣、神奈川県知事、横浜市長から主催者あいさつをいたしました。続いて、みどりの愛護活動事例紹介では、美しが丘公園愛護会会長、美しが丘小学校及び美しが丘中学校の生徒が、日ごろの活動発表を行いました。



次に、花と緑の愛護に顕著な功績のあった団体に対して国土交通大臣表彰を行い、さらに今回のつどい開催を記念して、神奈川県都市緑化功労者知事表彰、横浜市 150 万本植樹行動市長表彰を行いました。

表彰の後、皇太子殿下からは、「緑を守り、創り出していくには、多くの人々がその大切さを理解し、幅広く運動に参加することが重要」とのお言葉を賜りました。

最後に、タケカワユキヒデさん親子や赤い靴記念文化事業団の方々が歌う、今回のつどいの応援ソング「ビューティフルネームアゲイン」に乗せて、中山緑の少年団の方から誓いの言葉を宣言していただき、閉式の辞で幕を閉じました。

式典終了後の受賞団体代表御会釈やパネル展示御覧を経て、皇太子同妃両殿下には主催者及び各都道府県・政令市の受賞者代表の方々と一緒に、記念植樹を行っていただきました。

神奈川県議会議長の開式の辞に続き、皇太子殿下にはシダレザクラを、皇太子妃殿下にはベニシダレザクラを、国土交通大臣はじめ神奈川県知事や横浜市長などにはオカメザクラとリョクガクバイを、その他の方々にはエゴノキ、ナツツバキ、ヤマボウシ、タブノキを植樹していただき、横浜市会議長の閉式の辞で記念植樹を終えました。

なお、このつどいと同時期に、神奈川県内の公園で開催された緑に関するイベントを関連イベントとして、広報等で連携を図り、つどいが開催された当日及び前日には、横浜動物の森公園内において「緑あるライフスタイルまつり」を開催し、緑を守り・つくり・育て・楽しむライフスタイルを紹介するイベントを行いました。

エ H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会

- ・ 開催日 平成 21 年 4 月 28 日（火）～5 月 5 日（火・祝）
- ・ 会場 横浜アリーナ
- ・ 来場者数 64,829 人

国際卓球連盟が主催する世界最高峰の大会。団体戦と個人戦を隔年開催し、横浜大会では個人戦 5 種目（男女シングルス・男女ダブルス・混合ダブルス）を実施しました。

今大会には、145 の国と地域から男子 326



名、女子 218 名の選手が参加し、日本人選手では、男子ダブルスの岸川聖也選手、水谷隼選手のペアが、12 年振りに銅メダルを獲得いたしました。大会の総入場者数も 64,829 人にのぼり大盛況の大会となりました。

オ 日本大通りフラワーアートフェスティバル

- ・ 開催日 平成 21 年 5 月 2 日（土）～5 月 4 日（月・祝）
- ・ 会場 日本大通り（横浜公園交差点～港郵便局前交差点）
- ・ 参加人数 約 1,800 人（花絵制作関連）
- ・ 来場者数 約 52 万人

横浜開港の地である象の鼻地区から横浜公園に向かって一直線に伸びる日本大通りは、日本初の西洋式街路であり、銀杏並木や歴史的建造物に囲まれた美しい通りとして親しまれています。その大通りを花絵で飾り、楽しみながら横浜の歴史と道路の大切さを再認識してもらうため、日本大通りフラワーアートフェスティバルが開催されました。

車道部分をキャンバスに見立てて制作された花絵は、「横浜絵」10 枚と市民公募による「私の好きな横浜」10 枚、「ディズニーの仲間たち」1 枚の計 21 枚です。花絵には横浜市の花であり開港時に上陸したといわれるバラ 18 万本と、開港 5 都市の 1 つである新潟市で横浜市民 53 人が摘んできたチューリップ 6 万本、そして 9 色のカラーサンドが使用されました。花絵制作に集まった約 1,800 人の市民ボランティアたちは 5 月 2 日午前、パシフィコ横浜において花ほぐしを行い、午後「大通りでの作業を開始しました。通りを埋め尽くした市民ボランティアたちは、楽しみながらも真剣に花絵と向き合いました。

定期的にメンテナンスを行ったことで、常に緻密で美しい状態を保つことができ、道行く人々からは「きれい」という賛辞の言葉が飛び交いました。歩道上に設置された新潟市や協賛企業等の PR ブースでは、アグリクラフトの制作体験やミニハンギングバスケット教室も開催され、また夜間はライトアップにより、昼間とは一味違う幻想的な雰囲気に包まれました。

3 日間の来場者数は約 52 万人と、盛況のうちにイベントは終了しました。本イベント周知のために平成 20 年 11 月にはプレイベントが実施され、ボランティア募集においても定員をはるかに上回る応募が寄せられるなど、開催前から市民の関心が高く、また多くのマスコミに報道され、晴天にも恵まれたことが、50 万人を越す来場者数につながりました。



カ 海のエジプト展～海底からよみがえる、古代都市アレクサンドリアの至宝～

- ・ 開催日 平成21年6月27日（土）～9月23日（水・祝）
- ・ 会場 パシフィコ横浜 展示ホールD
- ・ 来場者数 約70万人

「海のエジプト展 ～海底からよみがえる、古代都市アレクサンドリアの至宝～」は、開港150周年記念事業として、6月27日から9月23日までの89日間にわたって開催されました。来場者は69万7,222人にのぼり、会場となったパシフィコ横浜で開催されたイベントの最多来場者数を記録しました。

本展は古代エジプトがテーマの大規模な国際巡回展で、ヨーロッパに続いて横浜でアジア初公開されました。クレオパトラの宮殿があったと言われるエジプト・アレクサンドリア沖の海底遺跡から発掘された、約5メートルものファラオなど3体の巨像やステラ（石碑）、金や宝石で彩られたアクセサリー、クレオパトラの横顔が彫られたコインなど、約490点すべてが日本初公開されたほか、日本独自のコンテンツとして、海底探査の疑似体験や再現された古代都市を空から見られるバーチャル体験シアターや古代の香りの再現展示、映像による発掘体験コーナーなども加わり、エンターテインメント性の高い展覧会として好評を博しました。また、本展を記念して、発掘者である海洋考古学者フランク・ゴディオ氏を招いたシンポジウムも開催されました。



なお、本展には、横浜市民1,500組（3,000名）が招待されるとともに、市内の小学4年生から中学3年生までの児童・生徒には料金が割引となるスペシャルリーフレットが配布され、多くの市民が来場しました。

横浜市は、開国博 Y150 やマザーポートエリアを紹介するブースを展覧会場に設置し、回遊性を高めました。

キ 海フェスタよこはま

- ・ 開催日 平成21年7月18日（土）～26日（日）
- ・ 会場 みなとみらい地区及び大さん橋周辺地区
- ・ 来場者数 約55万人

「海フェスタよこはま」は、「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識し、海に親しむ環境づくりを進めることを目的として、みなとみらい地区や大さん橋周辺を中心に7月18日（土）から7月26日（日）までを集中期間として開催し、期間を通じて約55万人の方にご来場いただきました。

記念式典（7月23日）では、秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、海事功労者表彰及び中学生海の絵画コンクール表彰等を行いました。

7月22日に行われた世界港湾セミナーでは、横浜港の姉妹港、友好港、貿易協力港6港に加え、昨年横浜で開催された第4回アフリカ開発会議（TICADIV）のフォローアップとしてアフリカ8か国の参加も得て、環境問題やコンテナターミナルの運営などの港湾の現代的課題についての議論が行われ、傍聴した市民とも活発に質疑が交わされました。最後に各港の参加者が「世界港湾セミナー2009宣言書」へ署名し、各港間の相互理解と連携の強化を確認しました。

また、期間中は開港150周年と「海フェスタよこはま」の開催をお祝いするために、帆船、調査船、砕氷艦、護衛艦など12隻の様々な船舶が、毎日のように一般公開を行いました。なかでも7月20日の「海の日」には、大型帆船3隻による総帆展帆を行い、18万人もの多くの皆様にお越しいただきました。

他にも、国や港湾関係団体が海や港のPRを行った海の総合展（7月18日～26日）では、直接海の生き物に触れることができるタッチングプールや葦船体験、操船シミュレーターなど、日頃接する機会の少ない様々な「海」に関する展示があり、子どもたちをはじめ来場者が海や港に親しみました。

6月に新しく完成した象の鼻パークでも、官公庁の音楽隊による海フェスタコンサート（7月25日、26日）やセグウェイの体験試乗（7月19日開催）を行なったほか、コンテナ展やみなと探検ツアーなど、多彩な催しを展開しました。

最終日には、来年の開催地である長崎市・五島市・新上五島町を代表して、田上長崎市長へ海フェスタフラッグを引継ぎました。



(参考URL)

<http://www.umifesta2009.jp/>

ク 2009 横浜国際トライアスロン大会等

(2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会・世界キッズトライアスロン大会
・世界こどもスポーツサミット in 横浜)

- ・ 開催日 平成21年8月21日（金）～8月23日（日）
- ・ 会場 山下公園周辺等
- ・ 来場者数 約27万2千人

開港150周年記念するスポーツイベントとして、「2009横浜国際トライアスロン大会」、「世界キッズトライアスロン大会」、「世界こどもスポーツサミット in 横浜」の事業を実施しました。

(7) 2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会

国際的なトライアスロン大会の最高グレードの「世界選手権シリーズ」の第7戦目の大会として開催しました。

- ① 開催日・参加者数 等
21の国から101人が参加

開催日	区分	年齢	参加者数
平成21年 8月22日(土)午前	ユース女子	16歳～19歳	7人
	エリート女子	18歳以上	29人
平成21年 8月23日(日)午前	ユース男子	16歳～19歳	23人
	エリート男子	18歳以上	42人
合 計			101人

② 開催場所

山下公園をスタート・フィニッシュ地点とし、関内・山下地区、赤レンガ倉庫周辺の横浜開港に縁のある特別コースで実施

(イ) 世界キッズトライアスロン大会

子ども達にスポーツを通じた国際交流の場を提供するために開催しました。

① 開催日時 平成21年8月23日(日) 13:00 から

② 開催場所

山下公園をスタート・フィニッシュ地点とし、山下ふ頭を自転車競技の会場とする特別コースで実施

③ 参加者数

13の国と地域から257人が参加(うち横浜市在住者は20人)

区分	年齢	参加者数		
		女子	男子	合計
キッズ1	6歳～9歳	31人	54人	85人
キッズ2	10歳～15歳	81人	91人	172人
合 計		112人	145人	257人

(ウ) 世界こどもスポーツサミット in 横浜

未来を担う国際性を持った青少年の人材育成の一環として、世界キッズトライアスロン大会に参加した海外からの子ども達と日本の子ども達とが参加して実施しました。

① テーマ

「フェアプレーの精神で、よりよい未来をつくろう！」

—私たちが、スポーツを通じてよりよい未来づくりのためにできること—

② 開催日時 平成21年8月21日(金) 10:00～16:15

③ 会 場 パシフィコ横浜 会議センター

④ 参加者数等

16の国と地域から927人が参加

区分	海外	国内	合計
子ども	89人	384人	473人
大人	33人	421人	454人
合 計	122人	805人	927人

⑤ 「世界こどもスポーツ横浜宣言」

日本及び海外の各代表キャプテン達が、「環境」「健康」「友情・平和」「努力・挑戦」「フェアプレー」の5つのテーマについて公開討論し、宣言文を発表しました。

⑥ 国際オリンピック委員会への訪問

この宣言文を世界中に広げていくことを目指し、平成21年9月22日に、子ども達の代表2名が国際オリンピック委員会本部（スイス・ローザンヌ）を訪問し、同委員会のジャック・ロゲ会長に手渡しました。



(エ) 大会を支えたボランティア

8月19日から24日までの6日間で、観客誘導、コース整理、スポーツサミットでの通訳等に延べ1,381名のボランティアの方々に協力いただきました。

ケ 関連集客イベント

(ア) 大道芸

	日程	会場	集客
野毛大道芸	4月25・26日	野毛地区	約18万2千人
ヨコハマ大道芸	4月18・19日	伊勢佐木、吉田町、馬車道	約107万人
みなとみらい21大道芸	4月18・19日	みなとみらい地区	約60万人

4月18日、19日には伊勢佐木町、馬車道、吉田町を会場としているヨコハマ大道芸と、みなとみらい地区を会場としている、みなとみらい21大道芸が、4月25日、26日には野毛地区を会場としている野毛大道芸が開催され、マジック、ダンス、パントマイム、ジャグリング、アクロバット芸など、多岐にわたる演目で、路上を歩きかう観客を魅了しました。

野毛大道芸では、開港150周年を記念し、「野毛に黒船来航」をテーマに海外からも芸人が参加しました。

(イ) ザよこはまパレード（国際仮装行列）

- ・ 開催日 平成21年5月3日（日）
- ・ 参加者 約39万人
- ・ 主催者 国際仮装行列実行委員会

開港150周年記念開催の今年は、「開港への道～出航（たびだち）のシンフォニー～」をテーマとし、開港から現在までの歴史を表現したパレードとなり、過去最多の39万人の観客を集めました。

パレード参加者数：4635人（78団体）

(ウ) 横浜開港祭

- ・ 開催日 平成21年6月1日・2日（5月31日前夜祭）
- ・ 参加者 約100万人
- ・ 主催者 横浜開港祭協議会

開港 150 周年記念となる今年は、～開港 150 周年！横浜市民で創る最大の祭典！！～と銘打ち、臨港パークを中心に、ステージイベントや、体験乗船会、模擬店の出展などがあり、中でも 6 月 2 日に開催される光と音・水と花火のショーが人気を集めました。

ステージイベントの中では、地元神奈川を拠点とする逗子育ちの 2 人組のアーティスト「キマグレン」のライブが開催され、横浜出身の 2 人組アーティスト「ゆず」がライブ中に特別出演するパフォーマンスもありました。

【開港祭での代表的な既存イベント】

- ・ 横浜市民コーラス ドリームオブハーモニー
制定 100 周年を迎える「横浜市歌」や「ゆず」による開港 150 周年テーマソング「みらい」などを、市民約 1500 名が合唱しました。
- ・ ビームスペクタクル in ハーバー
光と音・水と花火のショーが横浜港を美しく彩りました。

【開港 150 周年記念で開催された新規のイベント】

- ・ 「風の船～みらいへ～」
一般公募のカップル（家族・友人・恋人）150 組が、未来への願いをこめて風船を飛ばしました。
- ・ 「150 周年記念植樹」
一般公募のカップル（家族・友人・恋人）150 組が夫婦櫻 2 本を植樹しました。
- ・ 「タイムカプセル 50th」
一般公募のカップル（家族・友人・恋人）150 組が 50 年後、開港 200 年の横浜市民にメッセージカードを作成し、タイムカプセルに収めました。
- ・ ブルーインパルス展示飛行
航空自衛隊「ブルーインパルス」による華麗な飛行が披露されました。

コ 横浜グランドミュージアム

市内の美術館・博物館・資料館等が、各館で個性を発揮しつつ、開港 150 周年を記念した特別展の開催のほか、パンフレットの配布やホームページ、統一のフラッグの掲出による共同広報やスタンプラリー等により、各館が互いに連携・協力し、PR等を行うことで、今ある観光資源を活用した横浜の魅力と回遊性の向上を図りました。

横浜グランドミュージアム参加館数：100 館

（うち統一デザインのフラッグの設置：30 館）

- ① 「ミュージアムガイドブック」80,000 部の発行
- ② JRDC との連携
 - ・『DC ガイドブック』（50 万部）を全国主要駅に配布）に特集記事掲載
 - ・交通新聞社『別冊 旅の手帖 6 月号』（10 万部）にグランドミュージアム特集記事（2 ページ）を掲載
 - ・JRびゅう等旅行会社パンフレット（43 万部）に GM ガイドブックの紹介記事
 - ・JR「小さな旅」グランドミュージアム特集スタンプラリー企画

- ③ ホームページの作成（H20年度 計 14,812 ページビュー）
 - ・ミュージアムマップとミュージアム検索機能を付加
 - ・展覧会等イベント検索機能を付加
- ④ 横浜市北部エリアの13館園が自主的な独自のネットワークを形成し、共同PR、スタンプラリーを実施。

サ 横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン

- ・開催日 平成21年6月1日（月）～8月31日（月）

横浜・神奈川デスティネーションキャンペーンでは、JR東日本をはじめとするJR6社と横浜市、横浜開港150周年協会、横浜観光コンベンション・ビューロー、近隣5都市、さらに観光関連事業者等が一体となって、横浜の観光資源を全国に集中的に宣伝し、観光客の誘客を図りました。

2009年（平成21年）の開港150周年という節目の年を好機ととらえ、横浜の持つ地域資源・特性を最大限に活かすとともに、新たな賑わいや魅力を創出し、開港150周年記念事業を核とした大規模集客プロモーションを展開するため、本キャンペーンに取り組みました。

キャンペーンの実施にあたっては、横浜観光のイメージアップを図り、多くの観光客誘致を実現し、横浜経済の活性化を図りました。

- (ア) テーマソングについて
 - 横浜出身の歌手「ゆず」にテーマソングの制作を依頼し、「みらい」が完成
- (イ) 広報宣伝について
 - 全国約3,000のJR駅等において掲出される広報印刷物を制作
- (ウ) 5枚連続のポスター
 - 市内観光地を背景とした5種類のポスターを制作（6,000組）
- (エ) 観光ガイドブック
 - ・開国博Y150等のキャンペーン期間における観光情報を集約した冊子
 - ・発行部数 50万部（JR駅、びゅうプラザ、旅行代理店等向け）
 - ・簡易版 15万部（JR駅、びゅうプラザ、民鉄駅等）
- (オ) JRグループのメディア媒体による集中宣伝
 - JR駅構内や電車の車内広告、スポンサー番組での横浜特集やCM放映等
- (カ) 観光開発について
 - ① 旅行商品化促進対策
 - 平成21年度上期の旅行商品化に向け、モデルコースを開発。全国の旅行代理店に対し、商品の造成を依頼
 - ② 事業誘発対策
 - 市内観光事業者等に対して、キャンペーンを契機とした観光事業の開発を働きかけ
 - ③ 観光客の受入対策について
 - 市民ボランティアガイドによる「まち歩き」のコース検討や、運営体制の整備等を実施
 - ④ 「ヨコハマまち歩き150事業」の実施（「開国博Y150」の開催期間）
 - ガイド付きの「まち歩き」ができる受入体制を整備。開国博Y150赤レン

ガ会場に「まち歩き総合ステーション」を設置

(キ) 開幕式典の実施

6月1日 オープニングセレモニー（JR桜木町駅前広場）

(ク) 誘客の促進対策

全国主要都市のJR駅構内において、横浜の観光PRイベントを実施

6/13・14 仙台、6/27・28 名古屋、7/4 千葉、7/5 新潟、

7/11 品川・渋谷・新宿・池袋



シ 野毛地区インフォメーションセンターオープン

- ・ 開設日 平成20年5月13日
- ・ 場所 中区桜木町駅前

平成20年5月13日にJR桜木町駅前（東横線桜木町駅舎跡地）にオープンし、桜木町を訪れる来街者を対象に、野毛地区周辺で行われる各種イベント情報や開港150周年記念事業の案内を行い、地域と横浜の魅力をアピールしました。



(2) 横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト

これまで蓄積されてきた横浜ならではの歴史的資産を活かしながら、新たな横浜の魅力づくりを進めました。みなとまちとして生まれ、発展してきた横浜の持つ個性をいっそう磨き、横浜港発祥の地の再整備や文化芸術の創造性を活かした都市づくりなど、次世代の横浜の再発展に向け、その基盤となるようなまちづくりに取り組みました。

《新たな顔づくり》

ア 象の鼻地区再整備事業

- ・ 平成 21 年 6 月 2 日（火）オープン

開港 150 周年記念事業として整備を進めてきた象の鼻パークは、開港記念日である 6 月 2 日にオープンしました。



■歴史と未来をつなぐ

安政 6 (1859) 年の開港時、横浜には 2 本の直線状の突堤（波止場）がつけられました。慶応 3 (1867) 年には東側の突堤が湾曲した形に変更されて防波堤となり、その形から「象の鼻」と呼ばれるようになりました。

象の鼻地区は、この東西の突堤に囲まれた水域に面し、みなとみらい 21 地区から山下公園へ続く「ウォーターフロント軸」と、横浜公園から大さん橋国際客船ターミナルへ続く「都市軸」とが交差する結節点に位置しています。

象の鼻パーク整備の基本理念は「時の港」です。横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間づくりに向け、開港の場としての歴史性を活かしながら、横浜の新時代を拓く文化・観光・交流の拠点となることを目指し整備を行いました。

■歴史性を活かして

パークの名前の由来である象の鼻防波堤は、明治中期の弓形に湾曲した形状に復元しています。更に、工事中に関東大震災で沈んだ明治期の防波堤の石積みが発見されたため、そのままの状態で開催しています。

開放的な広場「開港波止場」では、工事中に発見された「鉄軌道と転車台」が展示されています。また、象の鼻地区の歴史や港の遺構を紹介する解説板を設置し、横浜港発祥の地としての歴史性を表現しています。

■スクリーンパネルで港の夜景を演出

防波堤の曲線を活かして配置された「スクリーンパネル」は、地区全体にわたる大きなサークルを描き、開港の地としてのシンボル性を表現しています。スクリーンパネルは、夜間には照明施設として地区全体を美しく魅力的な夜景空間として演出します。

■港を見渡す「開港の丘」と文化観光交流の拠点「象の鼻テラス」

横浜港を見渡すことができる開港の丘の一角には、カフェを併設した休憩施設「象の鼻テラス」があります。テラスでは、海を眺めながら休憩することができるほか、アート作品の展示や音楽等のパフォーマンスの開催ができる文化観光交流の拠点としても活用しています。

■象の鼻パークのこれから

象の鼻地区は、ふるいものと新しいものとが共存し、横浜の新時代を拓く「時の港」象の鼻パークとして生まれ変わりました。未来の横浜の発展と共に、これからも多くの人々に愛され、親しまれる空間としていきます。

イ マリントワー再整備

- ・平成21年5月23日（土）グランドオープン

<みなと横浜のシンボルとして>

マリントワーは、開港100周年記念事業として、市民の発意により建設された“みなと横浜”のシンボルであり、昭和36年1月の開業以来、長い間市民に親しまれてきました。

マリントワーは、横浜港を一望でき、また中華街や元町・山手地区にも隣接していることから、多くの市民、観光客でにぎわい、平成3年には展望台への入場者数が年間約106万人に達するなど、集客性の高い施設でした。

しかし、みなとみらい21地区といった他の魅力ある地区の誕生や施設の老朽化などにより、入場者数が減少したことなどから、平成17年、当時の民間運営会社はマリントワーの営業終了を表明しました。

<再生事業への取組み>

経済観光局ではマリントワー建設の経緯等に鑑み、平成18年、開港150周年に向けてマリントワーを保存・再生する「マリントワー再生事業」として開港150周年記念事業に位置づけ、横浜の新たな顔づくり・街づくりの推進に取り組んできました。

平成19年にマリントワーを取得、平成20年3月から改修工事に着手し、平成21年3月末にしゅん工、5月23日にグランドオープンしました。

また、マリントワーの再生に当たっては、民間の企画力、経営資源を活用し、より魅力ある事業を継続的に実施するための運営事業者を公募。平成19年に事業者を決定し、提案内容の具体化に向け、改修工事と併せて協議を進めました。

<リニューアルの特長>

リニューアルの特長ですが、タワー建設から約50年が経過していることもあり、耐震補強や低層部のエレベーター設置といったバリアフリー対応など、遵法性の向上を図るとともに、内外装や設備を全面的に改修しました。

展望台は従前より広大なガラスサッシを採用し内装も新しくするなど、ダイナミックな港の風景を体感していただけるよう生まれ変わりました。またアトラクションとして、床の一部をガラス張りにしています。

塔体の色彩は、横浜博覧会を機に塗り替えた赤白のグラデーションでしたが、開港150周年に向け、新たに生まれ変わることを印象づけるために、鋼材で作られたタワーの形状を美しく見せ、街並みとも調和した色彩として、外側をシルバー、内

側をブラウンオーブにしています。また運営事業者がLEDを活用した照明装置を設置し、基本色の白色だけでなく、赤や青など様々な色でライトアップが可能となりました。

低層部の外装は、タワーが持つ円形の形状を活かし、山下公園側のガラスカーテンウォールが新しい表情をつくり出しています。

また、低層部の施設として、1階には気軽に立ち寄ることができるカジュアルなカフェレストラン、2階には横浜の文化や歴史、情報を紹介するスペース、3階には市民利用や各種コンベンションイベントなど多目的な利用が可能なマリントワーホールなどが設置されました。



<地域全体の活性化に向けて>

新生マリントワーの展望台には、オープンから4か月で18万人を超える方が来場しています。

開港の地である横浜の中でも山下公園周辺地域は、長きにわたり横浜観光の中心的役割を果たしてきた場所です。

この「新生マリントワー」が新たな観光交流拠点となり、施設そのものの集客力の高まりにより、地域のにぎわいを創出するとともに、市民、来街者の回遊性を向上し、地域全体の活性化を図ることができるものと考えています。

ウ アメリカ山公園整備

- ・平成21年8月7日（金）開園

アメリカ山公園は、横浜を代表する観光地である「港の見える丘公園」や「外国人墓地」、「山手西洋館」などのある山手地区と、独自のブランドを多く展開する商店街のある元町地区とを結ぶ場所に位置しています。しかし、この両地区の間は、急坂や急階段での行き来となるため、アクセスルートの改善が求められていました。

そこで、平成16年の都市公園法の改正により創出された立体都市公園制度を活用して、みなとみらい線「元町・中華街駅」駅舎の上部空間と、隣接する用地を公園として一体的に整備して、エスカレーターとエレベーターによりバリアフリー化されたルートを作るとともに都心部の緑地とオープンスペースを確保しました。また、今後予定される飲食店や物販店などの便益施設の設置とあわせて、観光客や地域の利便性を向上させ、元町・山手地区の活性化を図ることも目的としています。

具体的には以下の整備を行いました。

- ・既存駅舎を2階建てから4階建てに増築（公園施設）
- ・公園用地内に駅舎3F・4Fと一体となる地下建物を新築（公園施設）
- ・屋上部分を含め、全体を公園として整備

《アメリカ山公園概要》

- (1) 所在地 : 横浜市中区山手町 97 番地 1
- (2) 公園種別 : 風致公園
- (3) 公園面積 : 全体 5,520 m² (園地部分 4,630 m²、駅舎敷地部分 890 m²)
- (4) 建築面積 : 1,154 m²
- (5) 延べ床面積 : 3,954 m² (うち便益施設 3階 887 m²、4階 837 m²、計 1,724 m²)
- (6) 名称の由来 : 当該地は、明治期初頭の米国公使館ゆかりの土地であり、戦後は、米軍の施設用地として利用された等の歴史を持つことから、山手地区の「フランス山」「イタリア山」などと同様に「アメリカ山」と命名しました。
- (7) 整備スケジュール
建築工事 平成 19 年 6 月～平成 21 年 4 月
造園工事 平成 21 年 1 月～平成 21 年 8 月
一部開園 平成 21 年 8 月 7 日
- (8) 開園時間 午前 6 時～午後 11 時



エ 日本丸メモリアルパークリニューアル

- ・ 平成 21 年 4 月 24 日 (金) リニューアルオープン

横浜みなと博物館が誕生し、帆船日本丸がリニューアルオープンしました。

「横浜みなと博物館」は、横浜港をテーマにした初めての博物館として、常設展示の「横浜港の歴史ゾーン」では横浜港 150 年の歩みを、「横浜港の再発見ゾーン」では横浜港の仕組みや働きを紹介しています。

なかでも、横浜港をリアルに再現した臨場感あふれる操船シュミレーターなどは、お客様が参加し、体感しながら楽しめます。

また、帆船日本丸は、当時の姿をそのままにし、新たに現在の活動内容を紹介する映像や、航海時の乗組員のインタビュー映像が加わったほか、航海当時の船内の写真も展示しています。



《文化芸術創造都市形成》

オ ナショナルアートパーク構想

ナショナルアートパーク構想は、都心臨海部を今以上に市民に親しまれる場とするとともに、開港都市としての歴史や文化等の資源を生かしながら、文化芸術活動の積極的な誘導により新しい産業の育成や観光資源を発掘し、まちの魅力を高め、都市の活性化、横浜経済の発展を図る構想です。

都心臨海部の一定のエリアを国際的な文化観光交流ゾーンと設定し、文化芸術活動と連携してエリア整備を行うもので、ナショナルプロジェクトとして整備するこ

とが望まれています。都心部地域でのまちづくりとも連動し、横浜の資源、横浜らしさを生かし、世界に発信する発展的な魅力を付加する具体的なプロジェクトの成果も上がっています。

開港 150 周年を記念する象徴的な事業である象の鼻地区の再整備もその一つです。「象の鼻パーク」については、横浜港発祥の地であり、横浜の歴史と未来をつなぐ、賑わいや交流の場を生み出す空間として、プロポーザル方式により設計が進められ、平成 21 年 6 月にオープンしました。パーク内の「象の鼻テラス」では、カフェを併設したレストハウスとしての機能と合わせて、「文化観光交流拠点」として、横浜の歴史や文化芸術の展示・公演などを開催しています。

これまでに、象の鼻地区とみなとの歴史的な変遷を美しい映像とグラフィックスで辿る展覧会「文化交易 象の鼻 150 年史」や、象の鼻テラス内にあるカフェで使用するスツールを横浜の子供たちがフィンランドのアーティスト、カティア・トゥキアイネン氏と一緒に制作するワークショップ、また、横浜出身のダンサー安藤洋子氏によるスタンダード・新作フォークダンスをみんなで踊るプログラム「安藤洋子とダンスパーティー」など、質の高い文化芸術を展開し、創造都市としての魅力を発信しています。



カ ヨコハマ国際映像祭 2009

- ・ 開催日 平成 21 年 10 月 31 日（土）～11 月 29 日（日）
- ・ メイン会場 新港ピア、BankArt Studio NYK、東京藝術大学馬車道校舎
- ・ サテライト会場 野毛山動物園、黄金町バザール 1 の 1 スタジオ
- ・ 主催 横浜国際映像祭 2009 実行委員会

クリエイティブシティの取組を継続的に国内外に発信するとともに、「映像文化都市・横浜」の新たな取組として、メディアアート・CG・アニメーション・映画・写真など様々な映像を対象とした国際的な映像フェスティバル「ヨコハマ国際映像祭 2009」を開催しました。

(ア) ディレクター

住友文彦氏（元東京都現代美術館学芸員）

(イ) テーマ

CREAM (Creative for Arts and Media)

(ウ) 内容

- ・ 展示会（新港ピア、BankART Studio NYK）
- ・ 映像上映（東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校他）
- ・ 関連イベント
- ・ フォーラム
- ・ その他屋外展示、パフォーマンス、公募コンペ等

キ 創造界限形成

馬車道、日本大通り、桜木町・野毛を中心とした都心部の歴史的建造物や倉庫、空きオフィス等の地域資源を活用し、アーティストやクリエイターが創作・発表・滞在する創造界限の形成を進めました。

(7) 創造界限 ART WEEKS ～横浜で芸術まち歩き～

- ・ 開催日 平成21年9月1日(火)～9月29日(火)
- ・ 会場 ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター、Bank ART Studio NYK、ZAIM、創造空間9001、急な坂スタジオ、野毛山動物園など横浜都心部の“関内”“関外”エリアに集積する建築家・デザイナー、アーティストなどのスタジオ約40か所 等々

『クリエイティブシティ・ヨコハマ』の取組として、横浜都心部の倉庫、空きビル、下町の一軒家などをコンバージョンし、アーティスト・クリエイターの皆さんに活用してもらう取組を進めており、日々新しい何かが生み出されている『創造界限』が形成されてきています。この『創造界限』の拠点を中心に、街中でさまざまなプロジェクトを展開しました。

★ 関内外 OPEN! 【9/4～9/6】

“関内”“関外”エリアに集積する建築家、デザイナー、アーティストなどのスタジオを期間限定で公開するプロジェクトで、約40の“民間”スタジオが参加。ヨコハマ・クリエイティブシティ・センターを総合案内窓口として、普段あまり馴染みのないクリエイターたちのスタジオを市民の方に開放する『オープンスタジオ』のほか、公開講座やさまざまな展示、街歩きを兼ねたガイドツアー、海から横浜を見る都市体験ツアー(ボートクルーズ)など、多彩なメニューを開催しました。

★ 集まれアートイニシアティブ part2 【9/4～9/5】

横浜の創造界限を代表する『BankART Studio NYK』を会場に、国内外のアートイニシアティブ約50チームが一堂に会しての会議並びに活動を紹介する展示などを実施しました。

★ ZAIM ギャラリー ZAIM 【9/1～9/27】

『ZAIM』に入居するアーティスト&クリエイター33組のコラボレーションにより“ZAIM発”を発信。展示・パフォーマンス・音響空間・シンポジウムなどを実施しました。

★ Zoo Zoo Scene<ずうずうしい> 【9/25～9/27】

舞台芸術を中心とした創造活動の拠点『急な坂スタジオ』発。現代演劇の傑作・オールビーの「動物園物語」を、急な坂スタジオのレジデントアーティスト中野成樹が野毛山動物園内・ひだまり広場にて上演しました。

★ MIRRORBOWLER 【9/3～9/29】

ミラーボールを使って「宇宙と和式美」をテーマに光と反射の空間作品を作り出すアート集団「MIRRORBOWLER」が、旧東横線桜木町駅舎を活用したアートスペース『創造空間9001』を占拠しました。

(4) 黄金町バザール 2009

- ・ 開催日 平成21年9月1日(火)～9月27日(日)
- ・ 会場 日ノ出町～黄金町エリア

初黄・日ノ出町地区は、かつて違法飲食店が多数立地していましたが、数年に及ぶ地域、行政、警察等、多くの人たちの努力によって、大きく変化しました。そして、黄金町は現在、街の再生という新たなテーマに取り組んでいます。

「黄金町バザール 2009」は、地元を中心に発足した NPO 法人「黄金町エリアマネジメントセンター」によって企画・運営されています。「まちあるき」をテーマに、地域の人たちと入居アーティストが一体となって、アートイベント、ワークショップ、まちなみプランの展示等を行なうことにより、変わりつつある現在の街の姿を伝える仕掛けを展開しました。

▼会期中は土日祝日を中心にイベント・ワークショップを開催

▼参加：19組の入居アーティスト及び約10組のゲストアーティスト

ク 創造の担い手育成

文化芸術と社会をつなぐ市民や NPO 等の創造の担い手育成に取り組みました。

(7) アーティスト・クリエイターの創造的活動の支援・発信

★芸術創造活動推進事業

・横浜オペラ未来プロジェクト

オペラという分野で、制作過程や舞台裏を公開しつつ比較的安価な鑑賞機会を提供するとともに、新進の芸術家に積極的に発表の機会を提供し、優れた人材を海外のオーディション等に派遣する人材育成に取り組みました。

公演：平成 21 年 7 月 17 日（金）、
18 日（土）「フィガロの結婚」

（会場：横浜みなとみらいホール）



・横浜未来演劇人シアター

著名な演出家・脚本家等の助力を得て、横浜発の演劇の発信、人材育成を行うプロジェクトです。多数の公演を実施しながら、集客力の高い劇団として成長し、横浜発の人材の育成・発信において着実な成果を上げました。

公演：平成 21 年 7 月 18 日（土）～20 日（月・祝）

「モダン太陽傳～汁屋餡掛～」(会場：横浜にぎわい座)

・平成 21 年 10 月 3 日（土）「新光電影館」、10 月 4 日（日）

「夢のマニマニ」(会場：それぞれスペース・オルタ)

★横浜音楽空間事業

ストリートミュージシャンへ活動の場を提供するとともに、地域と連携してまちの賑わいにも貢献するというコンセプトのもと、商店街から協賛を得た開催や、著作権団体とのコラボレート開催などにも取り組みました。

平成 21 年開催：

8 月 22 日（土）：伊勢佐木町 1・2 丁目商店街

9 月 23 日（水祝）：伊勢佐木町 1・2 丁目商店街、馬車道商店街

10 月 17 日（土）：伊勢佐木町 1・2 丁目商店街

11 月 7 日（土）～8 日（日）：パシフィコ横浜

(4) マザーポート・アート・フェスティバル 2009

「街からアートがあふれ出す！ アートは社会のソコヂカラ！」を合言葉に、様々なアートイベントをまちなかで展開しました。また、まちなかで気軽に文化芸術に触れ合える機会を提供しました。

【主なコンテンツ】

- ・「アーバン・オペラ YOKOHAMA」
 - 平成 21 年 8 月 8 日（土）：ドックヤードガーデン
 - 15 日（土）：横浜美術館グランドギャラリー
- ・「ラ・ベル・ザンカ 月夜、そして能の息吹」
 - 平成 21 年 8 月 29 日（土）：元町ショッピングストリート
 - 30 日（日）：グランモール公園
- ・開港 150 周年記念&開国博 Y150 スペシャルステージ
 - 平成 21 年 8 月 27（木）～29 日（土）、
 - 9 月 3 日（木）、19 日（土）、20 日（日）
 - ：開国博 Y150 トゥモローパークステージ
- ・ストリートワイズ・オペラ「マイ・シークレット・ハート」
 - 平成 21 年 9 月 5 日（土）～9 日（水）：赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール
- ・「JAZZ meets JAPAN ジャズと邦楽の出会い 山下洋輔・山本邦山」
 - 平成 21 年 9 月 13 日（日）：山下公園特設会場
- ・「都市の記憶 in 日本大通り ホッチポッチミュージックフェスティバル」
 - 平成 21 年 9 月 5 日（土）、13 日（日）、26 日（土）、27 日（日）：
 - 日本大通り周辺エリア
- ・「大地のジョイントパフォーマンス」
 - 平成 21 年 10 月 3 日（土）：赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール

《まちづくり》

ケ 横浜駅周辺大改造計画

横浜駅周辺大改造計画の策定につきましては、横浜駅周辺における概ね 20 年後のあるべき姿を、学識経験者や地元の協議会・事業者、関係行政機関などで構成される「横浜駅周辺大改造 計画づくり委員会」などで議論を重ね、「横浜の玄関口としてふさわしいまちづくり」の指針となり、行政と民間が連携して実現を図っていく計画として、開港 150 周年の本年、とりまとめを行いました。

大改造計画は、「まちの将来像」とその実現に向けた戦略及びまちづくりの進め方など、まちづくりの考え方を示した『まちづくりビジョン』、「まちの将来像」の実現に向けて重要となる基盤施設の整備を進めていくための基本的な方針となる、『基盤整備の基本方針』、民間と行政が協働して地区の魅力向上を図るため、建て替え等を行う際の基本的な考え方を示した『まちづくりガイドライン』の 3 部構成となっています。



とりまとめにあたっては、委員会での議論のほか、6 月には、「大改造計画素案」を多くの市民、駅利用者に知っていただき将来像と一緒に共有すべく、横浜駅周辺の魅力について再認識し、まちづくりへの機運の醸成をはかるためのシンポジウムを開催しました。

横浜駅周辺大改造計画シンポジウムー創造的大改革に向けてー

日 時：平成 21 年 6 月 14 日（日）13 時から 17 時
場 所：横浜新都市ホール（横浜新都市ビル（そごう）9F）
内 容：市長あいさつ、素案説明、パネルディスカッション、大学生トークセッション、市民アンケート等
来場者数 560 名

コ みなとみらい 21 環境整備

(7) 開港 150 周年記念植樹（150 万本植樹行動）

- 平成 21 年 2 月～3 月

開港 150 周年を契機に、みなとみらい 21 地区の緑化促進事業への取組を進めることとし、地区の玄関口となる桜木町駅前広場において、150 万本植樹行動の象徴となるシンボルツリーの植樹を実施しました。

実施に当たっては、民間との協同事業として取り組み、シンボルツリーの設置場所、樹種、本数等について横浜市が設計を行い、樹木の設置（植樹）



の整備、低木の配置等)については横浜農業協同組合女性部(JA横浜女性部)の施工により整備を行いました。

なお、今後の緑化活動への取組を継続するため、記念植樹を含む桜木町駅前広場周辺の清掃・美化活動等については、ハマロードサポーターとしてJA横浜女性部の協力をいただきます。

(イ) 動く歩道屋根ソーラーパネル設置

- ・ 施工期間：平成20年10月15日～21年3月6日

「環境モデル都市・横浜」は、『CO-DO30』に掲げる再生可能エネルギー10倍拡大に向け、太陽エネルギー率先導入の一環として、動く歩道の屋根にソーラーパネルを設置しました。更に発電量の表示板を設置し、環境への取組をPRすることにより、環境意識の醸成にも貢献しています。

動く歩道は平成元年の供用から20年が経過し、老朽化が進んでいました。今回ソーラーパネルを設置するにあたって、曲面の屋根に設置できる建材一体型を採用することによって屋根の補修も兼ねています。

年間発電量は約75,000kWhで、一般家庭21世帯分の年間消費量に相当します。発電した電力は、「動く歩道」の動力や照明等に使用しており、これにより「動く歩道」で使用する年間電気料金の約2割をまかなうことができます。

なお、地区内の事業者などから広く寄附を募るとともに、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究費などを導入し、官民共同で整備しました。



サ 戸塚駅周辺地区整備

戸塚駅西口においては、道路や交通広場などの基盤施設及び区役所や区民文化センターなどの公益施設の整備を行うとともに、商業機能の強化を図るため、第二種市街地再開発事業を進めています。

本事業は、平成6年10月に都市計画決定を行い、平成9年3月の事業計画決定により、事業に着手しました。しかし、商業環境の変化や地価動向など事業を取り巻く状況の変化が予想以上に大きかったため、平成15年10月に計画を再検討することとし、平成16年3月に発表した再検討案を基に、計画の具体化を進めました。平成18年5月に都市計画変更、同年7月に事業計画変更を行い、平成19年2月に管理処分計画を決定しました。平成19年6月に仮設店舗をオープンし、10月に第1交通広場、12月に商業施設のうちの共同ビルに着工し、平成20年10月には個別ビルの工事に着手しました。

開港 150 周年にあたる平成 21 年は、さらなる魅力アップに向け、デザイン・環境・情報を三本柱とする「とつかトータルデザイン」の取組を推進するとともに、平成 22 年春の商業施設・第 1 交通広場完成に向けて、引き続き工事を着実に進めています。

平成 24 年度には、第 2 段階として公益施設（区役所・区民文化センター・第 2 交通広場など）が完成する予定です。



シ まちのバリアフリー推進

誰もが安心、安全に行動できる人にやさしい福祉のまちづくりを推進しました。

- 鉄道駅舎へのエレベーター、多目的トイレの設置
- ノンステップバスの導入促進
- 福祉のまちづくり条例に基づく、建築物等の新設、改修時におけるバリアフリー化整備の推進

ス 市内米軍施設の返還と跡地利用の推進

開港 150 周年を契機に、市内米軍施設の返還が促進されるよう、国への要請を行ってきました。そのような中で、平成 16 年 10 月に、日米合同委員会で返還の方針が合意されていた富岡倉庫地区の全面返還が平成 21 年 5 月 25 日に実現しました。

また、開港 150 周年記念事業として実施した、深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）には、353 件の応募があり、国内外から様々なアイデアが寄せられました。今後、寄せられたアイデアを参考に、市民意見等を踏まえながら、跡地利用の具体化を進めていきます。

さらに、平成 17 年 12 月に返還された旧小柴貯油施設は、都市公園「開港 150 周年の森」としての整備を進めることとしており、平成 21 年 6 月及び 10 月に開催した植樹祭には、地元小学生をはじめとする約 800 人の参加者により約 11,200 本のドングリ等の苗が植えられました。



セ 歴史的・文化的資産を活用した魅力ある公園づくり ～野島公園「旧伊藤博文金沢別邸」復元～

- ・ 見学会 平成 21 年 1 月 21 日 平成 21 年 3 月 20 日 約 400 名
- ・ 体験学習会 平成 21 年 6 月 19 日 約 90 名
- ・ 完成記念式典 平成 21 年 10 月 31 日 約 70 名
- ・ 完成記念企画展 平成 21 年 11 月 1 日～11 月 29 日
- ・ 完成記念講演 平成 21 年 11 月 3 日 約 100 名

野島公園「旧伊藤博文金沢別邸」は、明治憲法草案と深く関わる金沢の地に愛着を抱いた伊藤博文公により、明治 31 年建築され、昭和 34 年に野島公園の施設として横浜市の所有になりました。

「金沢」の地が東京近郊の当時の別荘地であったことを物語る、明治期の田舎風の意匠を持つ海浜別邸建築のほぼ唯一の遺構であることから、平成 18 年に横浜市指定有形文化財に指定されており、建築的歴史的価値は極めて高いものと言えます。建物は 5 つの棟からなっており、居間棟、客間棟及び台所棟を修復復元するとともに、焼失していた玄関棟及び湯殿棟についても残っていた図面を基に復元しました。

復元工事中に見学会を 2 回開催し、約 400 名の市民が、普段見ることのできない茅葺き作業や木造建築の技法を作業に従事する職人から直接説明を受けるなどして、文化財に対する関心をより深めました。

また、体験学習会においては、金沢小学校 6 年生約 90 名に「土壁塗り」などの作業を体験してもらい、伝統的な工法、家屋の構造などを楽しく学んでもらいました。

10 月 31 日に完成記念式典を開催し、現在、一般公開しています。



ソ 羽田空港の国際化

羽田空港では、平成 22 年 10 月の供用開始を目指して 4 本目の滑走路となる「D 滑走路」(L=2,500m)を整備中です。また、これと並行して国際線ターミナル等の空港施設が集積する「国際線地区」も整備され、羽田空港から世界の主要都市へと国際定期便が就航する予定です。D 滑走路の供用開始後は、一日あたりの昼間発着便数が 405 便(平成 17 年 10 月現在)から、約 1.4 倍となる 557 便に増加し、このうち 40 便が国際定期便として運航されます。また、深夜早朝にも 40 便の国際定期便が運航され、羽田空港における国際定期便数は合計 80 便となります。これは、首都圏に発着する国際定期便の約 1/4 に相当する便数であり、供用開始後も国は国際化を推進するとしています。

横浜市では、この羽田空港の再拡張事業に対して 100 億円の無利子貸付を行うとともに、国に対して羽田空港における「真の国際化」を提案してきました。「真の国際化」とは、羽田空港からの定期国際便の望ましい就航範囲として、少なくとも ASEAN 諸国を含む東アジアの主要都市をカバーすべきとの考え方に基づくもので、国の「骨太の方針 2008」で示された就航距離である約 3,000km 圏域を大幅に上回る約 6,000km 圏域が視野に入っています。横浜市は「真の国際化」について、これまでも機会があるごとに国に対して提案を行いつつ、同じく国に対して無利子貸付を実施している神奈川県や川崎市と共に、再拡張事業が円滑に進捗するよう協力してきました。その努力が実を結び、平成 21 年 8 月現在までの航空交渉において、ソウル、釜山、北京、上海、香港、クアラルンプール、台北、シンガポールなどの東アジア主要都市への就航に加え、パリ、ロンドン、アムステルダム、ミュンヘンなどの欧米便まで設定され、羽田空港がより広い世界への玄関口として大きな役割を果たすための原動力となることができました。平成 21 年秋には、政権交代により羽田空港のハブ空港化構想が浮上してきましたが、現状では昼間時間帯は韓国や香港などの近距離便のみの設定となっており、今後も昼間時間帯を含めた ASEAN 諸国への就航が行われるよう、引き続き国に対して提案していきたいと考えています。

タ 都心臨海部・インナーハーバー整備構想

開港 150 周年を契機とし、次の 50 年を見据えて、横浜の過去のまちづくりを振り返り、未来を展望するとともに、長年のまちづくりにより都市の骨格が形成されてきた都心臨海部・インナーハーバーを横浜の象徴としてとらえ、新たなビジョンを策定していきます。

＜都心臨海部・インナーハーバー整備構想懇談会開催実績＞

第 1 回懇談会 平成 20 年 8 月 26 日

第 2 回懇談会 平成 20 年 12 月 18 日

第 3 回懇談会 平成 21 年 4 月 14 日

※懇談会では、過去のまちづくりを振り返り、整備構想の検討にあたっての着眼点や留意点などについて、幅広く意見交換しました。

平成 21 年 6 月に、「基本理念」や「都市構造」などの基本的な考え方を「都心臨海部・インナーハーバー整備構想（骨子案）」としてとりまとめました。

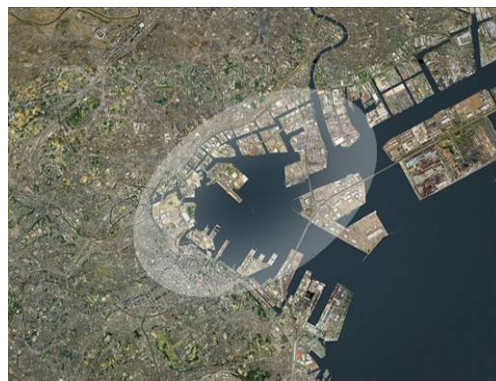
今後は検討委員会により、骨子案をもとに、提言としてとりまとめる予定です。

＜横浜市インナーハーバー検討委員会開催実績及び予定＞

第 1 回委員会 平成 21 年 7 月 30 日

第 2 回委員会 平成 21 年 11 月 27 日

第 3 回委員会 平成 22 年 3 月開催予定



(3) 市民力・地域力発揮プロジェクト

子どもから高齢者まで、また市民活動団体や企業など、多くの市民が力を発揮し、芸術やスポーツ、環境、福祉活動など多様な事業を展開しました。

市民レベルの交流や市内各地域の歴史や風土、個性を活かした地域への愛着を深める取り組みを市民とともに進めました。

《創造都市の地域展開》

ア クラシック・ヨコハマ推進事業

全日本学生音楽コンクール全国大会の横浜での開催をきっかけに始まったクラシック音楽の音楽祭「クラシック・ヨコハマ」は、今年3回目の開催となります。

人と人、地域と人の絆をより深めるイベントとするために、クラシック・ヨコハマの今年のテーマは、「音でつながるコミュニティー」。

市民には、身近な場所で、気軽に良質な音楽に親しむ機会を提供し、コンクール関係者には、若手演奏家を支援する街として、横浜での演奏機会を提供します。



11月26日～12月1日 第63回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜

11月21日～23日 みなとスペシャル3デイズ

11月8日～2010年1月17日 サロンコンサート・ブリッジ

11月～2010年1月 スクールコンサート

11月20日～2010年1月16日 ミュージアムコンサートシリーズ

12月13日 室内楽マラソンコンサート

12月26日 横山幸雄とエトワールたち

2010年1月23日 生きる～2010若い命を支えるコンサート

イ 文化芸術の創造性を活かした地域づくり

(瀬谷区)

三ツ境駅に隣接する三ツ境商店街は、経営者の高齢化が進み空き店舗が目立っているため、地域住民とのふれあいや賑わいづくりに繋がるきっかけを創出し、魅力ある商店街づくり及び商店街の活性化を図ることが期待されています。

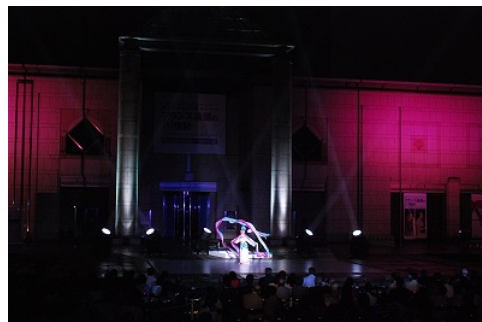
平成21年は横浜開港150周年・瀬谷区制40周年の年であり、これを記念し長屋門公園及び長屋門プロムナードで七夕灯籠祭りが開催されることとなりました。

このイベントを契機に、長屋門プロムナードに面する三ツ境商店街を活性化するため、文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業として、七夕灯籠祭りの一環で長屋門公園において光と影を生かした手影絵パフォーマンスを実施することにより、長屋門公園に続く長屋門プロムナードに一層の賑わいをつくり、プロムナードに面する三ツ境商店街の活性化と地域住民とのふれあいを創出しました。

ウ 横浜あかりアーツコラボレーション 2009「春霞金港夢—Asian Dream—」

- ・ 開催日 平成 21 年 6 月 14 日 (日)
- ・ 会場 横浜美術館前・グランモール公園特設会場
- ・ 出演 水木佑歌(日本舞踊「藤娘」から藤娘)、藤間恵都子(日本舞踊「水仙丹前」から若衆)、李美英(韓国舞踊「太平舞」から韓国の王女)、王潤菁(京劇「天女散花」から天女)、野村小三郎(某)
- ・ 照明・美術デザイン：石井幹子

永い歴史に培われてきた「古典芸能」と最先端技術に裏打ちされた「あかり」のコラボレーションによる新しい「都市型アート」。今年は、日中韓を代表する舞踊家によるオムニバス形式の新作舞踊劇を上演しました。



エ 横浜アートサイト 2009

- ・ 開催日 平成 21 年 7 月 18 日 (土) ~ 12 月 23 日 (水・祝)
- ・ 開催場所 栄区、緑区、金沢区、青葉区、都筑区、南区
- ・ 参加者数 約 52,000 人

都心臨海部における先進的なアート活動を全市的に展開し、市内のアート NPO 等の団体が地域特性を活かして実施するアート活動を「アート発信の現場＝アートサイト」として位置付け、アート活動の発掘・育成とネットワーク化、各団体相互の連携を図ったうえで、全体を「横浜アートサイト 2009」として開催し、一体的なプロモーションにより対外的な発信力を高めました。

【アートサイトの活動】

- 栄区：さかえ de つながるアート 2009
(日程) 7/18, 9/6, 10/11~12
(場所) 上郷・森の家、栄区内各地 (JR 本郷台駅前広場ほか)
(アーティスト) 北川純ほか
- 緑区：創造と森の声 2009 横浜の森美術展 3
(日程) 8/23~10/3
(場所) 横浜動物の森公園予定地
(アーティスト) クリスチアン・ロスマン、アリ・カイズ、ヘディ・ハリヤント、パット・ホフィー、小宮伸二、安部大雅ほか
- 金沢区：第 11 回金沢文庫芸術祭「こどもの未来は地球の未来」
(日程) 1 DAY イベント 9/20
街角アトラリー 10/1~11/30
(場所) 1 DAY イベント 海の公園
街角アトラリー 金沢区内および近郊各所
(アーティスト) ロコ・サトシ、アイヌ・アートプロジェクトほか

- 青葉区：A O B A + A R T 2009
 (日程) 10/10～11/3
 (場所) たまプラーザ駅周辺の住宅街(美しが丘)、公園、学校
 (アーティスト) 池田晶紀、小粥丈晴、森本美絵、江口宏志(ユトレヒト)
- 都筑区：都筑アートプロジェクト 2009 ニュータウン・ピクニック～遺跡をめぐるアート～
 (日程) 10/11～11/7
 (場所) 横浜市歴史博物館、大塚・歳勝土遺跡公園、都筑民家園
 (アーティスト) 今井紀彰、三宅光春、リンダ・デニス、岡本敦生、
 奥野美果、フランシス真悟、開発好明、文殊の知恵熱、
 塩谷良太ほか
- 南区：大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなあと 2009」
 (日程) 12/19～23
 (場所) 南区蒔田公園、蒔田公園周辺の大岡川流域、高速道路高架橋、
 吉野町市民プラザほか
 (アーティスト) 中村敬、ビッグバンドNAZCA、ジェリクルーYほか

《市民イベントの展開》

オ 市民参加プラットフォーム推進委員会

開港 150 周年に、市民自らが参加し、様々な市民イベントの展開を応援する仕組みとして「Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会」が設立されました。

「Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会」では、市民が主役となった「横浜らしい、横浜ならではの」イベントを市内全域で展開することを目的に様々な事業を展開しました。

「Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会」(委員長：作家・山崎洋子)

(7) 横浜のイベントをエコにするネットワーク

横浜で行われるイベントを、エコ・コンシャスな(環境に優しい)ものにし、“横浜のイベントではゴミを捨てる人がいない、環境への負荷をかけない”という文化をつくることを目的に様々な事業を実施しました。

- 横浜のイベントをエコにするガイドラインの作成
 イベント主催者向けのガイドラインを平成 20 年 12 月に作成し、Web サイト上 (<http://eco.yokohama150.jp/>) で公開しました。
- エコ活動を実践し、ノウハウを蓄積
 横浜開港祭でのエコアクション ・臨港パーク
 国際花火大会後の山下公園清掃活動 ・山下公園
 神奈川新聞花火大会でのみなとみらいクリーン大作戦・臨港パーク
 資源循環公社による区民まつりなどにおけるリユース食器導入 ほか
- 環境タウンミーティング ～イベントをエコにする～
 会場 赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール
 日時 平成 21 年 5 月 13 日(水) 16:00～18:20
 参加人数 92 人
- ベイサイド市民協催「エコイベントでCSR」
 会場 赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール
 日時 平成 21 年 9 月 10 日(木) 14 時～20 時
 参加人数 116 人(交流会には 30 人が参加)

- エコボラ講座…Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会主催事業
会場 ヒルサイド Y150 つながりの森
日時 平成 21 年 9 月 12 日(土) 10 時～14 時
参加人数 15 人

(イ) 道志村間伐材・横浜の技プロジェクト

「道志村間伐材・横浜の技プロジェクト」は、横浜市の水源地である道志村の間伐材を活用して、開港時から伝承する「横浜家具」の技術に触れる「ものづくり」の体験を通じ、「自然」と「生活」のつながりと「横浜の歴史」を知ってもらうことを目的に、ベンチ作りのワークショップを実施しました。

ベンチは、「開国博 Y150」の会場へ設置し、開国博 Y150 会期終了後は、ベンチをお持ち帰りいただくこととしました。

- ・ 応募者数：166 名 内訳 一般公募 大人 17 名、小学生 7 名
学校参加 横浜市立鉄小学校 5・6 年生 51 名
横浜市立元街小学校 5 年生 91 名
- ・ ベンチ作りワークショップ
第 1 回 平成 21 年 2 月 19 日 (木)・20 日 (金) 9 時～15 時
第 2 回 平成 21 年 2 月 23 日 (月)・24 日 (火) 9 時～15 時
第 3 回 平成 21 年 3 月 7 日 (土)・8 日 (日) 10 時～16 時
第 4 回 平成 21 年 3 月 13 日 (土)・14 日 (日) 10 時～16 時

(ウ) 横浜地域 SNS「ハマっち！」

ICT の活用による効率的な市民イベント・プロジェクトや、コミュニティ活性化のための環境づくりを推進するために地域 SNS を構築しました。

- 横浜地域 SNS「ハマっち！」の機能
 - ①プロフィールの書き込み
 - ②トモダチの検索、追加
 - ③コミュニティへの参加
 - ④ハマっち！への招待
 - ⑤ハマっち！への書き込み（ブログ、コミュニティ、トモダチの紹介、動画投稿）
- アクセス・投稿実績（平成 21 年 9 月 30 日時点）
 - ①月間平均ユニークユーザー数：19,686 (AWStats より。平成 21 年 4 月～)
 - ②月間平均ページ：(同上) 962,227
 - ③ハマっち！の登録ユーザー数：2,910

(エ) 市民参加プラットフォーム窓口

2009 年の開港 150 周年に、参加したいという市民の方々に、開国博 Y150 の多様な市民参加の情報と参加の機会をワンストップで「わかりやすく」、「一元的に」提供する窓口を設けました。

- (財)横浜開港 150 周年協会事務所 1 階
- 業務内容
開国博 Y150 市民参加関連イベントの情報をイベントナビ等を使って積極的に提供・発信するとともに、市民からのボランティア等への参加問合せに、窓口や電話、Eメール等で対応しました。
- 受付（相談）期間・時間
平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 27 日
午前 10 時～午後 5 時（月曜休み）

※平成 21 年 4 月 26 日（開国博 Y150 開幕前日）までは、土・日・祝日休み

● 受付（相談）体制

窓口・電話等での問い合わせ対応や市民参加事業間の連携を図るために、嘱託職員 2 名を公募・採用し、常駐しました。

● 受付（相談）件数

合計 1,629 件（月平均 136 件）

《歴史を学び、体験できる様々な事業の展開》

カ 横浜開港の歴史を振り返る様々な記念出版

横浜開港の歴史を振り返る様々な出版物が、市だけでなく民間など様々な機関から出版され、多くの市民が横浜や港の発展の歴史に触れる機会が提供されました。

(7) 横浜開港 150 周年記念出版 写真集「昭和の横浜」

昭和期を対象にした「横浜市史Ⅱ」（全 16 冊）の編集成果を引き継ぐ横浜市史資料室が、開港 150 周年を記念し、出版しました。

- ・ 発行者 横浜市行政運営調整局法制課
- ・ 発行日 平成 21 年 6 月 2 日
- ・ 発行部数 3,000 部
- ・ 定価 3,000 円

(4) 横浜開港 150 周年記念図書 横浜港物語～みなとびとの記～

横浜の原点というべき「港」に焦点を当てて、その誕生からの歩みを写真や図書をふんだんに使って振り返るとともに、多くの困難を克服して現在の横浜の礎を築いた先人の業績やエピソードを紹介する記念図書を出版しました。

- ・ 発行者 横浜開港 150 周年記念図書刊行委員会
(社団法人横浜港振興協会内)
- ・ 発行日 平成 21 年 6 月 2 日
- ・ 発行部数 20,000 部
- ・ 定価 2,100 円

(ウ) 横浜開港物語 DVD

「開国博 Y150」で好評を得た横浜開港の歴史を開港時に活躍した人物を通して振り返る映像「横浜開港物語」を DVD 化し、多くの児童生徒及び横浜市民がこの映像を通じて横浜開港の歴史を学べるよう、(財)横浜開港 150 周年協会から横浜市立学校及び横浜市立図書館に寄贈されました。

- ・ 企画制作 財団法人横浜開港 150 周年協会
- ・ 寄贈日 平成 21 年 10 月 22 日
- ・ 寄贈先 横浜開港物語 DVD 合計 2,106 枚
(内訳)横浜市立学校 (513 校) ～各 4 枚
横浜市立図書館 (18 館) ～各 3 枚

(イ) 開港 150 周年記念 横浜 歴史と文化

原始・古代から現代にいたる横浜の歴史を、豊富なカラー図版とともに振り返る図書を発行しました。

- ・ 編集 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- ・ 刊行 平成 21 年 5 月
- ・ 定価 7,350 円

(オ) かながわの開港都市横浜 DVD

横浜開港前後から現在までの発展の歴史を振り返る映像を30分にまとめ、開国博 Y150 の会場内で上映されたほか、多くの児童生徒が学べるよう、神奈川県内の全小・中・高校や図書館に寄贈されました。

- ・ 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団
- ・ 発刊日 平成21年6月1日
- ・ 寄贈先 神奈川県内の小・中・高・特別支援学校 約1,750枚
神奈川県内の図書館等 34枚

(カ) そのほかの記念出版

- 開港150周年記念写真集 横濱みなとの唄「いまも百舟百千舟」
 - ・ 発行者 社団法人横浜港振興協会
 - ・ 発行 平成21年5月20日
- OLD but NEW～イセザキの未来につなぐ散歩道～
 - ・ 編集 伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合
「イセザキ歴史書をつくる会」
 - ・ 発行 神奈川新聞社
 - ・ 発行 平成21年7月1日
- 横濱元町古今史点描
 - ・ 編者 「横濱元町古今史点描」編纂委員会
 - ・ 著者 大澤秀人
 - ・ 発行 平成20年6月2日
- 聞き書き「横濱中華街物語」
 - ・ 語り 林兼正
 - ・ 聞き書き 小田豊二
- ノゲ劇場「野毛界限一」
 - ・ 野毛地区振興事業協同組合
- 横浜タイムトリップ・ガイド
 - ・ 編著者 横浜タイムトリップ・ガイド制作委員会
 - ・ 発行 平成20年9月27日
- ヨコハマ伊勢佐木町復活への道
 - ・ 著者 山田泰造
 - ・ 発行 平成21年7月8日

キ 横浜開港の歴史を体験できる様々な事業の実施

横浜開港の歴史をテーマとした展覧会や講座、公演などが市内各地で展開され、楽しみながら身近に横浜開港の歴史を体験できる機会が提供されました。

(7) 横浜開港150周年記念 横浜能楽堂特別企画公演・特別展 「海を渡った能装束」

日本から流出し、約120年前にドイツでオペレッタ「ミカド」の衣装に転用された江戸時代の能装束を里帰りさせ、修復の後に展示を行いました。また復元された装束を用い、能とオペレッタの公演を行いました。

[公演] 平成21年6月6日(土)・7日(日)

横浜能楽堂本舞台(能)、横浜市開港記念会館講堂(オペレッタ)

[展示] 平成21年5月1日(金)～6月7日(日)

横浜能楽堂二階展示廊

(イ) 横浜開港 150 周年記念展示

横浜開港資料館、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館などで、開港にちなんだ企画展や講座、講演会を開催しました。

● 横浜市歴史博物館

- ・ 海賊～室町・戦国時代の東京湾と横浜 4月4日(土)～5月10日(日)
- ・ 絵地図・浮世絵・写真等にみる幕末・近代の横浜
5月23日(土)～7月5日(日)、7月18日(土)～8月30日(日)
- ・ 博物館収蔵 都筑区・青葉区関係資料展
9月12日(土)～10月4日(日)
- ・ 陸の道と海の道の交差点～江戸時代の神奈川～
10月17日(土)～11月29日

● 横浜都市発展記念館

- ・ 横浜建築家列伝 4月25日(土)～8月30日(日)

● 横浜開港資料館

- ・ 横浜開港と宣教師～翻訳聖書の誕生 1月28日(水)～4月19日(日)
- ・ 港都横浜の誕生～新発見資料に見る近代化の原点
4月22日(水)～7月26日(日)
- ・ ハマの中華街 150年～多文化都市の果実
7月29日(水)～10月25日(日)
- ・ 近代を迎えた横浜の村々
10月28日(水)～12月27日(日)

● 横浜ユーラシア文化館

- ・ 東西交流の証～港が結ぶユーラシア・ネットワーク
9月19日(土)～22年1月11日(日)

(ウ) 横浜開港 150 周年記念 よこはま大学開港塾

開港以来世界への窓口として日本の発展に大きく貢献した横浜の歴史を振り返り、変化する国際社会の中で、横浜から未来の日本・世界を展望し、切り開くことを目的に横浜市内の大学が連携してリレー形式でシンポジウムを実施しました。

- ・ 第1回 横浜市立大学「横浜の課題と挑戦～開港 150 周年を迎えて」
- ・ 第2回 慶應義塾大学「西洋文明との出会い～開港地横浜の衝撃」
- ・ 第3回 桐蔭横浜大学「東洋と横浜Ⅰ～インドと横浜」
- ・ 第4回 神奈川大学「東洋と横浜Ⅱ～中国と横浜」
- ・ 第5回 神奈川大学「多極化時代の都市の競争優位」
- ・ 第6回 横浜国立大学「都市横浜の挑戦Ⅰ～クリエイティブシティ構想」
- ・ 第7回 東京都市大学「都市横浜の挑戦Ⅱ～環境モデル都市の挑戦」
- ・ 第8回 横浜商科大学「都市横浜の挑戦Ⅲ～国際観光コンベンション都市横浜の戦略」
- ・ 第9回 フェリス女学院大学「地域からの国際交流」
- ・ 第10回 横浜市立大学「横浜の課題と挑戦～大学からのメッセージ」

(イ) 横浜開港 150 周年記念・横浜美術館開館 20 周年記念「大・開港展」

開港の前後、国家の体制の大きな変革をはさんで、わが国の美術が、江戸時代から何を受け継ぎ、明治になって新たに何を生み出していったかを見る特別展を開催しました。

- ・ 会期 平成 21 年 9 月 19 日 (土) ～11 月 23 日 (月・祝)
- ・ 内容 第 1 章 徳川時代、第 2 章 開港の時代、第 3 章 明治時代

(オ) みんなでつくる横濱写真アルバム—市民が記録した 150 年—

横浜の歴史を記録した写真をウェブサイト「みんなでつくる横濱写真アルバム」に投稿、活用していただき、歴史や文化、経済や産業振興、地域の発展、市民の生活文化など、横浜を語る「写真」を通して、魅力ある郷土の共有財産づくりに貢献することを目的に実施されました。

- ・ 運営者 : 横浜写真アーカイブ実行委員会
(横浜商工会議所、横浜港振興協会、
横浜市、横浜開港 150 周年協会)
- ・ 公開期間 : 平成 19 年 4 月 1 日(日)～平成 21 年 10 月 31 日(土)
- ・ URL : <http://www.yokohama-album.jp/>
- ・ 写真投稿件数 : 5,947 枚
- ・ 投稿者数 : 229

《市民による人の輪と緑にあふれた街づくり》

ク 150万本植樹行動と開港150周年の森づくり

150万本植樹行動は、平成18年度から開港150周年の平成21年度までの4か年で、市民・事業者・行政が協働して150万本の植樹を目指すものです。

平成19年1月の市長による150万本植樹行動宣言を皮切りとして、市民には暮らしの中に緑を取り入れたライフスタイルを、事業者には緑や環境を大切にされた事業活動を、そして行政は公共施設の緑化による緑あふれる街づくりを、植樹という行動を通して実践してきました。

また、市民や事業者に積極的に行動へ参画していただくために、ロゴマークの制定やリーフレット・ホームページ等様々な広報媒体を活用してPRを展開するとともに、植樹や植樹行動のPRにご協力いただいた市民や事業者を登録し公表する制度を設けました。

20年度末の登録実績は、市民約5,600名、事業者約370社に及んでいます。

そして、18年度から20年度までの3か年の植樹実績は、約128万本となっており、21年度末までに目標としてきた150万本の植樹を達成する見込みです。

150万本植樹行動の一環であり、開港150周年の記念事業として実施している事業に、「開港150周年の森づくり」事業があります。

この事業は、緑豊かな自然環境を次世代に継承するため、市内各所で大小様々な森づくりを市民参加により行うものです。できるだけ多くの市民の方に森づくりに参加していただきたいということから、植樹だけでなく、タネを集め、苗木を育てるところから市民参加で取り組んできました。

樹木のタネとしては、横浜の里山に元々あった樹木であること、市内の樹林地や公園など身近な場所で容易に集められることからドングリを選びました。

平成18年にドングリ集めを公募で実施したところ、個人の方をはじめ、保育園・幼稚園、学校、企業、NPOなど延べ8,000人の方から25万粒のドングリが寄せられました。このうち約10万本が小学校や地元農家の方々の協力により苗木として育てられ、この苗木を活用して、10月末までに市内9か所で市民参加による森づくりを実施し、約14,000本の苗木を植栽しました。



ケ 「たまくすプロジェクト」樹勢回復記念植樹事業

ペリー上陸の図に描かれ、横浜開港のシンボルとなっている、横浜開港資料館中庭にある地域史跡、通称「たまくす」の木を後世まで伝え、残していくために、所管する財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜開港資料館が中心となり、次の事業を行いました。

- ① 市民にたまくすの歴史を紹介し、市民に「育て親」として、たまくすの種を苗木にまで育てていただき、子孫を市内に植樹しました。
- ② 通称「たまくす」の木の樹勢が衰えているため、樹木医の診断により、土壌改良を行うことで、通称「たまくす」の木の樹勢を回復させました。

たまくすの育て親については、小学生から高齢者の方まで、家族ぐるみでご参加いただき、横浜開港とたまくすの歴史について、横浜横浜開港資料館の調査研究員により講座を開催し、種をお渡ししました。

その後、約2年間、育て親の方々の自宅で発芽から苗木までの育成をお願いし、年に数回、成長過程のご報告などを頂きながら、最終的には、合計100苗程度の苗木をご提供頂きました。

苗木は、平成21年6月11日・10月17日の2回に分けて、環境創造局の協力のもと、旧小柴貯油施設（米軍施設返還跡地）に植樹しました。

また、通称「たまくす」の木の樹勢を回復させるために、平成20年度中に横浜開港資料館中庭の土を入れ替え、瓦礫の除去、枝や根の養生を行うことで、たまくすの長寿命化を図りました。

土壌改良の効果もあり、先日の樹木医の診断でも、樹勢が回復傾向にあることが確認されました。



コ コラボレーションフォーラム横浜 2009

「開港150周年に向けた協働の都市づくり」を目指し、身近な地域の課題解決に向けた協働の取組を、多くの市民や行政で共有することにより、行政・市民双方の意識改革や相互理解を深め、市民の活動や本市の施策に活かしていくため、コラボレーションフォーラムを開催しました。

今年のコラボレーションフォーラムは、横浜ライフデザインフェア2009の会場内で開催することにより、団塊の世代等、新たな担い手として期待されている方々を対象に地域活動・社会貢献活動への参加を促すきっかけとなる内容で開催しました。

- ・ 実施日時：平成21年10月26日（月） 19：00～20：30
- ・ 場 所：横浜市市民活動支援センター4階研修室
（横浜ライフデザインフェア期間中、フェア会場にて開催）
- ・ 参加者：44名
- ・ テーマ：「地域がつながる“きっかけ”を探そう！」
- ・ プログラム
 - ① 追浜こみゅに亭&ワイナリーの事例紹介
「ワイン作りが地域のつながりに」
昌子住江さん（NPO 法人アクションおっぱま理事長、元関東学院大学工学部教授）
福島 仁さん（NPO 法人アクションおっぱま副理事長、協同組合追浜商盛會理事長）
 - ② 緑区地域子育て支援拠点 いっぼの事例紹介
「中学生の夏ボラが地域を変える」
松岡美子さん（NPO 法人グリーンママ理事長、緑区地域子育て支援拠点いっぼ施設長）
富岡克之さん（財団法人横浜市青少年育成協会総務企画部企画営業課）

③ 全体意見交換

「地域がつながる“きっかけ”を探そう！」をテーマに、地域の方が活動に参加するきっかけとなった事例として、ワインや中学生が地域をつなぐ要素となった事例を取り上げ、それぞれの地域が「ワイン」や「中学生」を通して、どのようにつながりを持っていったのか、その他にもある地域をつなぐ要素、きっかけを会場全体で探り、身近な地域のネットワークをどう作っていけばいいかなど参加者ととも考え実施しました。

サ 開港5都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会

- ・ 開催日 平成21年9月11日(金)～9月13日(日)
- ・ 会場 横浜情報文化センターホール、NEWS ハーバーほか
- ・ 参加者数 約220人

「開港5都市景観まちづくり会議」は、安政年間の日米修好通商条約によって開港場となった5都市(函館・新潟・横浜・神戸・長崎)で活動する市民団体等が、共通の歴史を持つことを縁に、景観まちづくりに関する交流・意見交換をする会です。第15回大会は、横浜で開催し、メインテーマを「150年の贈りもの～新たな旅立ちへ」とし、3日間にわたり、まち歩きやディスカッションを行いました。

1日目は、各都市代表者からの活動報告の後、海事広報艇「はまどり」に乗船し、海から横浜の街並みを見学。その後の基調講演では、作家の山崎洋子氏から「開港場横浜の華と陰」というテーマで、横浜の開港以来の歴史を支えた市民の活躍について、お話をいただきました。

2日目は、3つのグループに分かれ、午前中は街歩き、午後はテーマ別にディスカッションを行いました。

第1分科会は、「港の資産を生かして新たな魅力づくり」をテーマに、午前中はマリントワーや象の鼻など、最近完成した施設を見学、午後は開港資料館にて各都市の事例紹介と意見交換を行いました。

第2分科会は、「文化の香り豊かなモダンな街～個性を生かして街を元気にしよう～」をテーマに、午前中はBankartNYKや黄金町、伊勢佐木、馬車道を見学、午後は北仲 BRICK にて、商店街や中心市街地の活性化をテーマに、横浜の事例紹介の後、意見交換を行いました。

第3分科会は、「ハイカラ文化と市民の活動」をテーマに、午前中は山手地区の見学と、「ミッションスクールと女子の教育」についての講演、午後は中華街、元町を見学した後、市民参加によるまちづくりについて、事例紹介と意見交換を行いました。

いずれの分科会も、5都市の活動団体に行政関係者も加わり、活発な議論が行われました。

2日目の夜には、各都市代表者会議が開かれ、来年度の開催地が神戸市に決定しました。

最終日は、各分科会の実施報告、各都市代表者から今回の横浜大会について感想と意見をいただいた後、大会宣言を発表し、終了しました。



【開港5都市景観まちづくり会議】は、東洋の歴史を刻む開港5都市(函館・新潟・横浜・神戸・長崎)の共通の歴史を縁に、景観まちづくりに関する交流・意見交換をする会です。第15回大会は、横浜で開催し、メインテーマを「150年の贈りもの～新たな旅立ちへ」とし、3日間にわたり、まち歩きやディスカッションを行いました。

基調講演
「開港場横浜の華と陰」
作家 山崎洋子氏
9月11日(金) 19時～20時
会場 横浜情報文化センターホール
※山崎洋子氏は、小説『開港場横浜の華と陰』の著者です。この講演では、横浜の開港以来の歴史を支えた市民の活躍について、お話をいただきます。

大会スロガラム(9月11日～13日)
9月11日(金) 全日開催 | 基調講演
9月12日(土) 分科会①～③
9月13日(日) 全日開催 | 閉会式
詳細は下記のとおりです。お申し込みは要りません。

お申込みは要りません

シ 開港 150 周年記念障害者スポーツ文化事業

(ア) 趣旨

開港 150 周年記念障害者スポーツ文化事業実行委員会では、障害者と健常者が一緒に楽しめるスポーツ・文化事業を、市民や団体など多くの市民の力と協働して、企画・実施しました。これらの事業を契機として、障害者スポーツ・文化のノーマライゼーションを促進することを目的としました。

(イ) 主な内容

- ・ヨット事業：横浜ベイサイドマリーナ、MM前面海域にてヨット乗艇会を開催しました。障害のある人も安心して乗れるヨット用の座位保持装置を開発し、ヨットハーバーのバリアフリー化、ボランティアの育成も行いました。
- ・ウオーキングイベント：みなとみらい 21 地区にて開催しました。
- ・グラウンドゴルフ大会：横浜みなとみらいスポーツパークにて実施しました。
- ・車いすバスケットボール体験会：横浜ラポールを中心に体験会・練習会を開催しました。平成 21 年 12 月には「High8 選手権大会」においてエキシビジョン・ゲームを実施予定です。
- ・アダプテッドエアロビクスダンス：横浜ラポールで、障害者のエアロビクスの体験会や発表会を開催しました。
- ・知的障害者サッカー：知的障害者サッカーチーム「横浜 F マリノス フトゥーロ」が日産スタジアムで、ナビスコカップ準決勝ゲームの前座試合を実施しました。プロ・スポーツと障害者スポーツの関わりを横浜から発信しました。
- ・字幕付演劇：聴覚障害者も共に楽しめるよう、字幕をつけた演劇を横浜ラポールで実施しました。
- ・コンサート鑑賞：障害者であり、プロのアーティストとして活躍するテノール歌手の新垣勉氏や和太鼓奏者の友野龍士氏によるコンサートを横浜ラポールにて開催しました。
- ・木のおもちゃ展：障害者地域作業所や特別支援学校等と協力して、木のおもちゃづくりのワークショップや展示会を実施しました。
- ・バリアフリーミュージカルコンサート：障害のある方もない方も、楽しむことができる舞台公演を行いました。
- ・「世界の仲間たち」写真展：JICA 横浜との協働事業として、市内の小中学校で、世界の子どもたちの写真展を行いました。
- ・「横浜いろはかるた」（手話の指文字や展示を付記）制作と原画巡回展示会：市民に、横浜をイメージするかるたの読み札を公募しました。絵札を切り絵画家が作成し、原画と読み札の巡回展を市内 8 箇所で開催しました。かるたは開港 150 周年オフィシャル・ショップ他で販売しました。

ス 横浜ライフデザインフェア 2009

本市の市民力発揮推進の一環として開催する「横浜ライフデザインフェア 2009」は、市民活動団体、企業、行政が一体となり、団塊の世代を中心とする幅広い市民に対し、セカンドステージの働き方、健康、趣味、地域・市民活動など、様々な提案を行い、新たな地域の担い手として活動をはじめのきっかけを提供することを目的として開催しました。

- ① サブテーマ：地域への扉をみつけよう～会社から社会へ～
- ② 開催期間：2009年10月24日（土）～11月1日（日）【9日間】
- ③ 開催場所：みなとみらいエリアの5会場（みらいチューブ、横浜市市民活動支援センター、ランドマークプラザ、クイーンズサークル、はまぎんホール）
- ④ 主催：横浜ライフデザインフェア実行委員会、横浜市
- ⑤ 入場料：無料
- ⑥ 出展者数：74団体（市民活動団体：34、企業：13、行政：27）
- ⑦ 参加者：21,302人

各会場では、市民活動団体・企業・行政によるパネル展示のほか、「団塊の世代フォーラム2009」をはじめとするステージイベントやセミナー、コンサート、ワークショップなど、多彩な提案が行われました。

セ 「はまっ子どうし」事業

平成19年5月、水道局では、横浜市のオフィシャルウォーター「はまっ子どうし」について、開港150周年記念ボトルを製造・販売しました。



《地域の魅力を高め、愛着を深める取組》

ソ 横浜18区紹介デー

18区には、歴史的な資産や伝統芸能、区民による芸術活動が行われる等、多様で魅力溢れる資源があります。

そこで、開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」の開催期間中に、開国博Y150の会場の一つである赤レンガ倉庫において、これらの地域の多様性を一堂に集め、パネル展やステージイベント、名産や物産等を紹介する「横浜18区紹介デー」を開催しました。

約12万人の来場者があり、各区の地域の特色をPRすることで、市域全体で開港150周年の盛り上げを図り、港だけではない横浜の魅力を内外に発信するとともに、普段港を訪れる機会のない方にも、開港の地である港の魅力に触れていただきました。



■屋外イベント広場

- ・日時：平成21年5月9日(土)～10日(日) 11:00～18:00
- ・会場：赤レンガ倉庫イベント広場A(海側)
- ・内容：各区ブースでの飲食、物販、ステージイベント
- ・入場者数：113,000人

■2階ギャラリー

- ・日時：平成21年5月9日(土)～13日(水)
11:00～20:00(13日は11:00～17:00)
- ・会場：赤レンガ倉庫1号館2階ギャラリー
- ・内容：各区ブースでのパネル展示
- ・入場者数：7,800人



■ 3階ホール

- ・日時：平成21年5月9日(土)、10日(日)、30日(土)、6月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)
- ・会場：赤レンガ倉庫1号館3階ホール
- ・内容：各区で活動する団体によるステージイベント
入場者：5,000人

タ 各区の取り組み

市内18区において、開港150周年を祝うために各区ならではの個性的で元気あふれるイベントや記念事業のほか、周年事業などを協働で展開し、魅力を高め、愛着を深める様々な事業が展開されました。

区名		イベント名	開催時期	開催場所	開催内容	集客数 (H21年度)
鶴見	1	鶴見区民まつり支援事業 ・三ツ池公園フェスティバル ・つるみ臨海フェスティバル	5月16日 11月1日	三ツ池公園 入船公園	開港150周年をきっかけに、鶴見のふるさと意識を醸成し、区民相互の交流や親睦を深めました。	80,000
	2	鶴見区 開港150周年イベント	4~12月	区内	開港150周年をきっかけに、鶴見区を盛り上げるイベント	50,000
	3	鶴見川サマーフェスティバル	8月22日	鶴見川、佃野公園 周辺	打ち上げ花火で開港150周年をさらに盛り上げる。また、花火大会には、区外の方の集客が多く見込まれることから、区民相互の交流はもちろん、区を越えての交流や親睦を深めました。	45,000
神奈川	1	神奈川台場公園魅力アップ事業 (区局連携:環境創造局)	11~3月 (リニューアル 工事)	神奈川台場公園	平成20年度の神奈川台場公園における神奈川台場の発掘調査の結果及び概略設計を踏まえて、「神奈川台場」を生かした公園の詳細設計及び改修を行います。	—
	2	神奈川台場PR事業	2~3月 (設置工事)	神奈川台場公園	神奈川台場への理解や関心を深めるため、改修工事にあわせて、神奈川台場の当時の絵図や資料、遺構の状況写真などのパネル(屋外用サイン)により、公園内に常設掲示します。	—
	3	神奈川区資産「わが町 かながわ とっておき」活用事業	通年	区内史跡、施設、 各商店街等	H20年度に神奈川区の魅力資源として認定した神奈川区資産「わが町 かながわ とっておき」を、区民・事業者等との協働により、イベント実施等に活用し、区民の地域への関心を高め、さらなるまちの魅力アップに取り組みました。	—
	4	かながわ湊フェスタ	4月29日	環境創造局 神奈川区水再生 センター	神奈川区には800年前からの神奈川湊や、400年前から栄えた神奈川宿がありました。開港期に各国の領事館が置かれた寺や、海上警備のための台場など、横浜開港の舞台であった歴史史跡が多数残っています。開港150周年を契機に、これらの史跡を活用して神奈川区の歴史を学んだり、神奈川区の臨海部で海との関わりや環境問題などにも関心をもってもらえるような事業や、異文化に触れるための国際交流まつり等を行ないました。	5000
	5	かながわ区民力発揮プロジェクト	4月~	区内各所	地域の課題等を区民自らが解決するための取り組みに補助金等の支援を行う「かながわ区民力発揮プロジェクト」の対象を開港150周年を記念する事業にも拡大して支援しました。	—

	6	神奈川県民まつり事業	10月11日	反町公園 及び 神奈川県役所 別館1階	地域まつり事業は、地域住民で構成される実行委員会が主体となって企画運営を行うイベントで、ふるさと意識の醸成と地域の活性化に寄与する事業となっています。また、本年度は、開港150周年記念事業として位置づけを取り組みました。	67,000
	7	開港150周年記念特別企画 ヨコハマ大道芸ステージ ショー	10月10日	神奈川県公会堂	横浜大道芸公演。大道芸人による子供から大人まで楽しめる笑いあり、驚きありの演技を披露。随所に開港150周年であることをPRする台詞などの演出を織り交ぜPRしました。	430
西	1	西区ふれんど ship	5月23日 8月15日	横浜美術館	開港150周年事業のプロデューサーの一人である日比野克彦氏の作成したダンボール船を横浜美術館に展示し、展示期間中、船をテーマにワークショップを展開。	60
	2	西区マザーポートクリーン アップ作戦	5月30日	横浜駅周辺 桜木町駅周辺	開港150周年記念事業の舞台となるマザーポートの清掃活動を行いました。	1150
	3	西区キャンドルアート	12月19日	グランモール公園 (横浜美術館前)	横浜開港150周年協会が開催するキャンドルカフェと連携して、区民に参加を呼びかけてキャンドルで、たねまるを表現したり、もったいない探偵団のエコキャンドルを点灯したり、子ども会によるメッセージシートの作成など、西区らしい演出を行いました。	1,500
	4	西区虫の音を聞く会	8月1日	掃部山公園	横浜開港は大老に就任した当時の彦根藩主「井伊直弼」の功績であり、その銅像が西区の掃部山公園にあります。西区虫の音を聞く会は、この公園で、「井伊直弼」ゆかりのお茶会等を行うお祭りで、ステージ及び万灯により、開港150周年のPRを行いました。	7,000
	5	詩情展	6月8日～14日	みなとみらいギャラリー	西区の詩情をテーマとした絵画・写真・書の展示と詩の発表会	1,000
	6	彦根・横浜友好交流事業	10月31日～ 11月3日	彦根市	横浜開港は大老に就任した当時の彦根藩主「井伊直弼」の功績であり、その銅像が西区の掃部山公園にあることから、これまで西区は彦根市と交流をしてきましたが、交流の輪をさらに深めるため、委員会メンバーが彦根市を訪問し、横浜のPRを行いました。	—
	7	西区民まつり	11月1日	戸部公園、西前小学校等	戸部公園・西前小学校・西区役所等で開催されるお祭りの中で、開港150周年事業をPRしました。	30,000
	8	平沼橋壁画事業	9月9日	平沼橋	開港150周年を記念し、軽井沢中学校及び岡野中学校生徒が壁画を作成し、平沼橋～岡野町歩道に掲出しました。	500
	9	みなとみらい盆踊り	8月21日 ～22日	臨港パーク	みなとみらい地区で盆踊り大会を開催し、地域住民の交流を深めました。	9,000
	10	ヨコハマカーニバル(彦根・ 横浜友好交流)	8月22日 ～23日	横浜駅西口周辺	ヨコハマカーニバルの会場周辺で彦根市の物産展やPRイベントを行いました。	156,500
	11	横浜かもんやま能	11月22日	横浜能楽堂	開港の立役者である井伊直弼ゆかりの能、狂言を上演し、パンフレット等により開港150周年をPRしました。	480
	12	西区ハマのウォーキングフ ェスティバル	12月6日	区内	西区の歴史、文化を再発見し、併せて健康増進を図るため区内を2つのコースに分けて歩きます。ゴールで開港150周年を祝う。	1,800
	13	西区民合唱祭	1月23日	県立音楽堂	西区で活動する合唱団によるジョイントコンサート。テーマは「にじ・ゆめ・みらい」とし、開港150周年の今後の区民交流、連帯を深める契機としました。	1,000
	14	西区歴史街道改訂	平成22年3月 末まで	—	西区内の史跡マップの改訂	—
中	1	吉田町アート&ジャズフェ スティバル	4月26日、27日	吉田町通り・福富 西公園	「アート市場」のほか、会場数箇所でジャズステージを展開。	30,000
	2	チューリップ・アート・プロム ナード	4月24日	山手の西洋館・公園	山手の西洋館と公園に、チューリップの花茎で、開港150周年にちなんだデザインの花絵パネルを作製・展示	20,000

3	マザーポートエリア クリーンアップ作戦	5月30日	中区内	マザーポートエリアのクリーンアップ	2,462
4	中区民ダンスフェスティバル	5月30日	関内ホール	中区民のダンスの発表会	800
5	ステンドグラス完成イベント	4月26日	開港記念会館	横浜開港に深いかかわりのある開港記念会館で市民と共に製作したステンドグラスの完成イベントを開催しました。	2,000
6	区役所 タイムスリップ150	6月1日～5日	中区役所	区職員が明治・大正時代などの時代衣装を身に着け、来庁者に開港150周年をアピールするとともに窓口案内しサービス向上を図りました。	—
7	横濱地図博覧会 2009 vol.1	6月2日～5日	大さん橋ホール	開港150周年にちなみ、横浜の歴史、生活文化に深く関わってきた様々な地図を、今昔交えて展示	—
8	象の鼻パーク トワイライトコンサート	6月3日～5日	創の鼻パーク	コンサート	1,000
9	中区開港ルネッサンス	6月6日・7日	日本大通り、象の鼻パーク	日本大通りタイムストリート、パレード、象の鼻ステージ	245,000
10	多文化フェスティバル	6月6日・7日	なか区民活動センター 日本大通り	多文化共生と共に、国内外からさまざまな人が訪れる横浜の中心地・中区で外国人が快適に滞在・活動し、活発な交流が行われる国際性豊かなまちづくりを進めました。	1,650
11	海を渡った能装束・オペレッタ「ミカド」	6月6日・7日	開港記念会館	オペレッタ	800
12	ジャックまるわかり講座	6月11日、18日、25日	開港記念会館	講演会	100
13	開港記念日記念イベント	6月2日	開港記念会館	開港記念日に関わるイベント(ジャックの塔にのぼってみよう、ステンドグラス教室)	500
14	中区童謡の会	6月12日	開港記念会館	開港150周年を記念する童謡コンサート	300
15	エンドレスドリーム ヨコハマの夜明け	6月1日～15日	大さん橋ホール	五大路子、企画・主演の料亭「富貴楼」お倉の物語	2,000
16	山手プロムナードコンサート	6月13日	山手聖公会	古楽器コンサート	200
17	花と器のハーモニー	6月13日～21日	山手西洋館	開港150周年を記念し、レトロ山手をテーマに開催	
18	開港記念会館一般公開	6月15日	開港記念会館	開港記念日に関わるイベント	500
19	開港から150周年 きものは語る いまむかし	6月19日～21日	開港記念会館	幕末からの服飾の展示、ファッションショー	1,200
20	朗読音楽ライブ 横浜夢語り	6月20日	開港記念会館	朗読コンサート、写真展	450
21	開港記念会館で楽しむバッハの市民音楽	6月21日	開港記念会館	古楽器コンサート	300
22	エディット・ピアフ愛の賛歌コンサート	6月26日	開港記念会館	愛を求める孤独な魂 歌うために生まれてきた一人の女 エディット・ピアフのドラマティックな生涯を歌い、語る音楽物語	442
23	日米交流セミナー	6月27日	開港記念会館	日米関係に関するシンポジウム	300
24	全国童謡サミット in よこはま	7月17日～18日	開港記念会館	講演会、コンサート	505
25	環シルクロード リレートークイベント 横濱、原三溪、インド～そして1枚の写真	7月19日	開港記念会館	農学博士の藤本実也がまとめた『原三溪翁伝』の稿本を読み解くリレートーク、新シルクロード光りのコンサート	300
26	音楽でたどる横浜とフェリス	7月20日	開港記念会館	開港当時から現代までの西洋音楽の系譜、横浜の歴史を、音楽学部教員・学生による演奏と大西教授によるレクチャーコンサートで迎える	400
27	山下会子どもフェスタ	7月26日	山下公園	子供向けイベント	900
28	中区まち・ひと音楽祭	8月18日	大さん橋ホール	中区内の施設を利用している団体、グループの発表会	1,200
29	NHKとの共同事業(ボイス・オブ・アスリート)	8月29日	開港記念会館	子供向けイベント	150
30	第29回YOKOHAMA本牧ジャズ祭	8月30日	本牧市民公園	野外のジャズコンサートの草分け的な存在であり、全国からファンの集まるこのジャズ祭で、開港150周年をアピールしました。	1,500

	31	黒船物見遊山 2009 横浜あきないまちウォーク ラリー	9月6日	市内4コース	大さん橋をゴールに市内4コースのウォーク ラリー	
	32	NHKとの共同事業(ラジオ 深夜便のつどい)	9月8日	開港記念会館	ラジオ公開番組	350
	33	横濱地図博覧会 2009 vol.2	9月22日～25 日	赤レンガ倉庫	開港150周年にちなみ、横浜の歴史、生活文 化に深く関わってきた様々な地図を、今昔交 えて展示	—
	34	文明開化ウォークラリー	10月11日	中区内	誰もが楽しく参加でき、文明開化発祥の地を 歩くウォークラリーを実施	362
	35	中区民祭り ハローよこは ま 2009	10月11日	根岸森林公園	区民の連帯意識を深め、区民相互の交流と 調和を図り、独創性を活かした事業を展開。 今年は開港150周年記念イベントとして 位置づけ区民の総合発表会として展開するこ とにより、開港150周年を盛り上げました。	110,000
	36	開港150周年コンサート 「口琴～音のひろがり」	10月12日	開港記念会館	ヨーロッパ・アジアに広く分布する、世界一 小さな楽器である口琴のコンサート。日本にお いても江戸時代に人気を博し、幕末には幕府 が「風紀のためよろしからず」と禁止したほ ど。	
	37	横浜開港150周年記念舞 踊公演 インド古典舞踊パラタナティ ヤム	10月22日	県民小ホール	南インド古典舞踊パラタナティヤム『舞踊劇ラ ーマーヤナ』の舞踊劇と語りのコラボレーショ ン	
	38	中区民文化祭音楽祭	10月25日	開港記念会館	区民の器楽演奏の発表会。開港時から現在 までの音楽の歴史を織り交ぜた演奏会し、全 体合奏の「かもめの水兵さん」など開港150 周年をアピールしました。	350
	39	野毛大道芸オータムフェス ティバル	10月3日、4 日	野毛地区周辺	大道芸	110,000
	40	中区民文化祭区民の作品 展	11月7日～13 日	市民ギャラリー	区民の美術作品の発表会。開港150周年を 記念して、課題作品として海を取り上げ展示。	1,300
	41	09秋の収穫祭	10月31日・11 月1日	ヨコハマ NEWS ハ ーバー 日本大通り	「かながわワールド～あすの地球と子どもた ち～」を礎に地産地消をテーマとした「食」に ついて考える場を提供し、中区の地域振興に も寄与しました。	100,000
	42	横浜開港150周年/横浜リ ヨン姉妹都市提携50周年 記念 横浜・荷風・リヨン	11月29日	開港記念会館	1907年、横浜正金銀行の行員として『ふらん す物語』の舞台となるリヨンに降り立った若き 日の荷風。その荷風を通して、リヨンの魅力 に迫る。講師は法政大学教授の加太宏邦氏	400
	43	中区民文化祭合唱祭	12月6日	関内ホール	区民の合唱の発表会。	600
	44	横浜ハーバーライトファンタ ジー2009	12月22日・23 日	山下公園	キャンドルイベント	10,000
	45	中区民ミュージカル「象の 鼻のミケ」	1月24日	関内ホール	開港150周年を振り返り、開港当時のエピソ ードを盛り込んだロマン溢れるミュージカルの 上演。	1,000
南	1	みなみ商店街いきいき事業	4月～12月	南区内商店街 他	南区内の魅力を再発見する絵地図を作成し ました。商店街等と協力し150周年などを広 報PRしました。	2,000
	2	第34回南まつり	7月25日～26 日	蒔田公園	南区民相互の交流を深めるまつりを開催し、 まつりの特色である絵どうろで、開港150周 年にちなんだ作品を展示しました。	50,000
	3	寺内タケシとブルージーン ズコンサート～開港150周 年記念イベント～	11月28日	南公会堂	区民が主体のみなみ区民文化振興事業実行 委員会が主催し実施。開港150周年を記念 し、曲目に市歌等を取り入れました。	550
	4	開港150周年記念誌「みな みの歴史探検」	8月	—	小学生を対象に、開港から現代までの南区 の歴史をふりかえる冊子を作成	—
	5	横浜開港150周年みなみ 探訪ウォーク	9月12日	横浜弘明寺商店 街さくら橋など		—
	6	南なんデー	10月4日	大岡健康プラザ	子どもから高齢者まで多くの区民が集まる健 康福祉まつりの会場で、開港150周年や横浜 の歴史についての展示やスタンブラリー等 を実施しました。	15,000

	7	第34回南区文化祭	10月31日～ 11月8日	南公会堂、大岡地区センター	ステージイベントや作品展示	4,500
港南	1	京急電鉄杯 第31回港南区健康ランニング大会	平成22年1月17日	野庭中学校	区内で毎年行うランニング大会。誰でも参加できるように、長短コースを設定して実施。	1,000
	2	こうなんストリートダンスコンテスト2010	平成22年3月	ひまわりの郷	高校生が主体的に進める恒例のダンスコンテスト。市内高校生を対象に実施。	500
	3	港南区綱引大会	11月22日	港南スポーツセンター	区体育指導員連絡協議会による綱引大会(新規イベント)	1,000
	4	講演会『地域で考える(介護)心豊かに安心して暮らせるまちへ』	9月26日	港南公会堂	タレントの小山明子氏による講演。民生委員活動のPRやアンケートもあわせて実施。	500
	5	港南区ひまわり管弦楽団第15回定期演奏会『第九演奏会』	9月21日	みなとみらいホール大ホール	区民公募のコーラスとひまわり管弦楽団のコラボレートによる第九コンサート	2,000
	6	区民文化祭	10月11日	公会堂・ひまわりの郷・福祉保健活動拠点	文化交流協会主催の各種文化芸術の祭典。複数の会場で様々な発表や展示を実施。	1,550
	7	港南区制40周年記念式典ひまわりカーニバルIN港南ふれあい公園	10月10日	港南ふれあい公園	区制40周年を記念する式典と、区民表彰	2,000
保土ヶ谷	1	たねまるイルミネーション	4月1日～6月13日	天王町スカイハイツ	天王町スカイハイツ(高層マンション)の壁面にLEDを使用した「たねまるイルミネーション」を点灯	近隣住民ほか不特定多数
	2	開港150周年ウォーキング	5月下旬～	(保土ヶ谷区を中心に周辺区を歩く、全7コース)	今年度、作成中の横浜開港と保土ヶ谷区の歴史を訪ねるマップによりウォーキングを実施。	400
	3	保土ヶ谷かるた	7月～	区内	開港150周年を機に保土ヶ谷の魅力・伝統・歴史を生かし、かるたを作成し、地域行事等でかるた大会を実施。	250
	4	ブルガリアン・コスミック・ヴォイセス合唱	7月2日	保土ヶ谷公会堂	保土ヶ谷区とソフィア市との都市間交流協定に基づき合唱団を招聘し開港150周年記念イベントとして開催	500
	5	ほどがやバンドバトル	9月19日	保土ヶ谷公会堂	開港150周年を盛り上げるため、高校生・大学生によるバンドイベントを区青少年指導員連絡協議会が開催。	370
	6	保土ヶ谷区手作り紙ヒコキ大会	7月5日	保土ヶ谷スポーツセンター	幼稚園児から大人までの保土ヶ谷区民を対象にした滞空時間を競う手作り紙ヒコキ大会を実施し、開港150周年をPRしました。	300
	7	たねまるモニュメント・花フェスタ	5月16日	へそ広場	保土ヶ谷花フェスタにおいて、来場者に協力してもらい「たねまるモニュメント」を作成。	1,000
	8	区民大合唱	4月～3月	区内ほか	区の歌並びに横浜にちなんだ楽曲をほどがや区の歌合唱団を中心に区内イベント等で開港150周年イベントとして実施。	10,000
	9	ほっしいーのわいわいフェスティバル	11月8日	星川地域ケアプラザ	大道芸、フリーマーケット、模擬店	2,000
	10	うすいまさと発達障害コンサートのつどい	12月17日	上菅田小学校	3人の発達障害児を持つシンガーソングライター、うすいまさとさんが贈る発達障害啓発ライブとトークメッセージイベント	800
旭	1	ズーラシア駅伝	2月14日	ズーラシア	駅伝競技を通じて健康増進を図るとともに基礎体力及び競技技術の向上を推進することを目的として、よこはま動物園ズーラシアを会場とした駅伝競走大会を開催しました。	1,200
	2	第1回あさひフォーラム	2月21日	旭公会堂	地域福祉保健計画の活動団体と区民活動団体の発表を同日に実施しました。第2回を平成22年2月に開催予定です。	350
	3	松本梨香とたねまるファミリーコンサート	3月22日	サンハート	旭区役所の協賛で、相鉄グループ開港150周年記念事業の一環として、アニメ「ポケットモンスター」シリーズの主人公サトシ役でおなじみの声優 松本梨香さんと開港150周年公式キャラクター「たねまる」のファミリーコンサートを開催しました。	300

4	春のあさひ いけばなと呈茶席	4月1日～17日	旭区役所1階特設会場	新年度の最初の記念イベントとして、区民の皆様が、自由にいけばなを鑑賞しながらお茶を楽しむことで、第20回全国「みどりの愛護」のつどいを歓迎し、記念年を祝いました。	350
5	リレー植樹	4月19日～	ズーラシア隣接地区	第20回全国「みどりの愛護」のつどいを契機に、地域の方々による植樹をリレー形式で進め、良好な環境作りに取り組む。各地区において植樹とともに、「区誕生40周年リレー植樹」などを表示したプレート、樹名板等を設置しました。 ◇5/9 シンボル植樹	1,100
6	旭あさがおいっぱい運動	4月～9月	区内各所	区内公共施設や区民の方々希望者に朝顔の種を配布し、区の花朝顔を広めます。また、横浜開港150周年・ズーラシア開園10周年記念共同企画として、ヒルサイド及びズーラシアにおいて、日比野克彦氏プロデュースによる朝顔苗植え・収穫等の特別イベントを行いました。	400
7	記念切手発行	6月	—	区内各所の四季折々の写真を切手シートにし、発行しました。 ◇1シート:80円切手10枚つづり1,200円×1,000シート	—
8	旭区民スポーツ祭	6月～11月	旭公会堂	6月から11月にかけて開催される区内19連合地区対抗のスポーツ祭を実施しました。11月には総合表彰式を行い、各種目で40周年記念賞を設けました。	11,000
9	プラチナ世代ペタンク大会	6月9日	南本宿公園	旭区誕生40周年記念とし、老人クラブ主催でペタンク大会を開催しました。	100
10	島山重忠公慰霊祭	6月22日	鶴ヶ峰本町 薬王寺	平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した武将でしたが、幕府の権力争いに巻き込まれ、鶴ヶ峰付近で討ち死にした島山重忠公をしのび慰霊祭を開催しました。	100
11	採れたて野菜フェア	7月4日ほか	区内各所	野菜の地産地消の奨励や食育を兼ね、区内農地での収穫体験、また区役所で試食及び直売を実施しました。	1,000
12	相鉄ジャストレイン	7月18日	特別運行電車 (二俣川～厚木往復)	旭ジャズまつりのPRも兼ね、記念事業、地域連携事業として実施。抽選により選ばれた市民を招待し、走る列車内で、ジャズライブ演奏を行いました。	100
13	ヒルサイド旭区デーステージ	7月20・21・22日	ヒルサイド	①旭ジャズまつりPRステージ:ジャズライブ演奏(20日) ②旭区民ミュージカル公開稽古&パフォーマンス:歌と踊りの披露(21日) ③竹と太陽のウェーブ:竹と太陽をテーマに三曲、インドネシア民族舞踊、ハワイアンフラダンスの披露(22日)	700
14	ジュニアボランティア育成事業	8月～12月	区内各所	区内小学校5.6年生(約200名)が「ジュニアボランティア」として、地域で行われるボランティア活動を体験することにより、地域福祉への理解と関心を深めました。	350
15	旭ジャズまつり	8月2日	こども自然公園野球場	今年20回目を迎える旭区の夏の風物詩。アマチュアステージとプロステージの2部構成で開催しました。	2,350
16	ベイサイド旭区デーステージ	8月8日	ベイサイド	区民ミュージカルPRパフォーマンス、ジャズライブステージ	300
17	プラチナ世代ゲートボール大会	9月15日	南本宿公園	旭区誕生40周年記念とし、老人クラブ主催でゲートボール大会を開催しました。	120
18	記念ウォーク	9月26日	ふるさと尾根道	グリーンロードおすすめコースを使ったヒルサイドまでのウォーキングなど、旭区の魅力を再発見するウォークを実施しました。	300

	19	旭記念コンサート	9月27日	旭公会堂	旭区に在住、活躍するプロの音楽家・小中学校・アマチュアの団体が集い記念演奏会を開催。	500
	20	あさひ安全安心フェア	9月30日	旭公会堂	功労者表彰やアトラクションを通じて、防犯・防災・交通安全に関する啓発を行います。	500
	21	旭区誕生40周年記念式典	10月17日	旭公会堂	旭区誕生40周年を記念して、区政の発展に貢献していただいた個人、団体等の方々に対して功績を称え、その労に感謝して表彰を行いました。	500
	22	旭区誕生40周年記念刊行物発行	10月17日	—	「ひと」や「まち」の魅力を再発見し、旭区の現在を次世代につなぐ架け橋となるような刊行物を発行しました。 ◇2,000部発行	—
	23	多世代学芸祭	10月17日	旭公会堂	こどもから高齢者までが参加し、お遊戯やダンス、合唱などを発表する学芸祭を開催しました。	500
	24	旭ふれあい区民まつり・健康フェア	10月17日、18日	旭公会堂ほか	区誕生40周年を記念し、2日間開催しました。	50,000
	25	対抗つなひき大会	10月18日	区民まつり会場	区内19連合地区対抗のつなひき大会を開催しました。	380
	26	区民ミュージカル「RISING SUN」	10月23日～25日	サンハート	公募により集まった区民(小1～シニア)約80名が、プロのレッスンを受け本格的なオリジナルミュージカルに挑みました。	1,500
	27	旭区民みんなのアトリエ	11月15日	旭公会堂	絵画・書道・水墨画・写真・いけばな・お茶といった芸術文化を、気軽に体験できるイベントを開催しました。	380
	28	プラチナ世代グラウンドゴルフ大会	11月27日	若葉台公園	旭区誕生40周年記念とし、老人クラブ主催でグラウンドゴルフ大会を開催します。	140
	29	旭区社会福祉大会	12月9日	旭公会堂		未定
磯子	1	第3回いそご蠟燭能	6月1日～9月30日	磯子公会堂杉田劇場区内希望小中学校	①第3回蠟燭能公演(7/4)開港150周年に華をそえる新作能「黒船」を企画②能楽パネル展(6月中旬)杉田劇場等で能面の展示を企画③能楽入門講座(6月)区内希望小中学校2校	4,454
	2	シンポジウム「もうひとつのミナト・ヨコハマ・・・根岸湾は飛行艇の海だった」	6月19日	杉田劇場	昭和15年に根岸地区鳳長埋立地の「大日本航空海洋部横浜支所」で大型飛行艇によるパラオ島ほか南洋諸島への日本初の海外定期航空便が始まりました。開拓者精神に溢れた乗員たちは島影を探りながら海上十数時間の困苦に耐え、またここで使用した飛行艇は戦後米国に渡り世界最優秀と評価されました。平和が続けば根岸からアメリカ行き、オーストラリア行き空路が誕生していたかもしれません。杉田の「日本飛行機」「石川島航空工業」も飛行艇・水上機や航空エンジンの生産で知られ、富岡の横浜海軍航空隊と合わせて根岸湾はまさに「飛行艇の海」でし	440
	3	N響メンバーによる磯子コンサート	6月20日	磯子公会堂	開港150周年を記念して、NHK交響楽団のメンバーによるクラシックコンサートを開催しました。港や海をイメージした曲目を演奏し、曲目や楽器の解説をするなど、単なる演奏会ではなく、初めてクラシックコンサートに訪れる区民でも楽しめる企画となりました。	420
	4	みんなでわいわい梅まつり Part II	7月1日～7日	杉田劇場 地域ケアプラザ他	その昔、観梅に来た人で賑わい、江戸の文化人の憧れだった梅の郷、杉田。多くの区民と梅について検証、体験してもらい、改めて地域の宝としての梅林復活に向けて梅と親しみました。 ①磯子と梅についてのパネル展示、梅製品の展示販売 ②梅干、梅ジュース等の体験教室 ③梅収穫体験 ④梅花飯をつくろう！梅料理教室 ⑤みんなでわいわい、梅まつり	650
	5	Y150 記念 磯子の夢・みんなの夢	7月1日～平成22年1月31日	夢たま 地域ケアプラザ等を予定	開港150周年のお祝いとして、地域が元気になるイベントや講座などを実施しました。 ・磯子ビデオフェスティバル ・夢に向かって、「夢宣言イベント」等を予定	450

	6	横浜開港 150 周年記念 汐見台夏まつり	8 月 22 日	汐見台商店街前広場	恒例の夏祭りイベントを開港 150 周年をテーマとして実施。(昨年はビンゴ大会とピエロショー)	600
	7	横浜開港 150 周年記念 第 3 回花火大会	8 月 23 日	岡村公園 野球場又は多目的広場	昨年、プレ開港 150 周年記念の下に、第 2 回花火大会を実施。過去 2 年とも非常に好評であり、今年も実施の希望が絶大である。また、花火は地元地域に限らず近隣区からの好評も得ている。地域の活性化・老若男女への憩いの時間の提供を目的に、今年も実施。尚、今後地域で行う大きな行事(賀詞交換会、梅まつり)に、同ロゴを使用。	1,000
	8	磯子まつり	4 月～11 月	日清オイリオグループ横浜磯子事業場、磯子区役所、杉田劇場など	日清オイリオまつり、磯子区健康づくりフェスタ、地区まつり等	48,978
金 沢	1	開港 150 周年記念サンドアート・フェス in 海の公園	9 月 20～23 日	海の公園	海の公園の砂浜を利用して、砂の造形を競った。(共催:臨海保全事業団)	5,000
	2	金沢まつり花火大会	8 月 22 日	海の公園	第 35 回金沢まつり花火大会(横浜開港 150 周年記念花火実施)	270,000
	3	金沢まつりいきいきフェスタ	10 月 17 日	海の公園	バサー・事業 PR コーナー、フリーマーケット、パレード等実施	155,000
	4	ペリー艦隊 小柴沖 碇泊記念碑	年内	海の公園	開港の契機となったペリーの来航を、開港 150 周年にあたり、金沢との関係を区民だけでなく、金沢を訪れる多くの市民に知ってもらうため、記念碑を設置する。	—
	5	ロイヤルウイング区民無料乗船	1 月 2 日～4 月 17 日	ロイヤルウイング	金沢区民を対象としたエンターテイメント・レストラン「ロイヤルウイング」クルージング無料乗船(飲食代は有料)。広報よこはま金沢区版(1月号)を提示すれば 5 名まで無料乗船可能。	5
	6	開港 150 周年記念クイズラリー (金沢七福神と同時開催)	1 月 10 日	横浜金沢七福神及び横浜八景島	毎年観光協会で開催している横浜金沢七福神「御開扉」にあわせ開港 150 周年を記念して、クイズラリーを実施。(クイズカードを配り「開国博 Y150」の文字を完成させる。)	1,000
	7	開港 150 周年記念書き初め大会 (どんど焼きと同時開催)	1 月 17 日	海の公園	毎年観光協会で開催している「どんど焼き」にあわせ開港 150 周年を記念して、書き初め大会を実施。(書き初めの手本は「開国博 Y150」、「横浜開港 150 周年」他)	1,000
	8	旧川合玉堂邸イベント	3 月 7 日 5 月 2 日 10 月 3 日	旧川合玉堂別邸	旧川合玉堂別邸において「野点」や「音楽イベント」を実施する。(計 3 回)	1,215
	9	世界遺産ライトアップ(称名寺、富岡八幡宮)	①4 月 26 日～5 月 7 日 ほか	称名寺・富岡八幡宮	区内の称名寺・富岡八幡宮において夜間一定期間ライトアップを行い、区民の地域文化・歴史的遺産への関心、愛着を深める ①4 月 26 日(日)～5 月 7 日(木) ②12 月 28 日(月)～平成 22 年 1 月 3 日(日)…称名寺 * 大晦日は午後 5 時から翌朝まで ③11 月 5 日(木)～11 月 8 日(日)…富岡八幡宮	未定
	10	子育て講演会 「子どもが元気に育つ子育て支援てなかに？」	6 月 29 日	金沢公会堂	子育て支援の推進と充実のため講演会を開催。(講師:秦野 悦子氏(白百合女子大学児童文化学科発達心理学専攻教授) 内容:「子どもが元気に育つ子育て支援てなかに？」～最近気になることもたち・子どもの育ちとかかわり～)	143
	11	塩田による塩づくり	7 月 26 日	海の公園	金沢区の独自産業であった塩田による塩づくりを学び、体験し、文化伝承と地域愛着を図りました	85
	12	健康横浜 21 と食の安全 (健康づくり月間)	11 月 11 ～15 日	能見台イトーヨーカドー センターコート	健康づくりと食の安全パネル展示(5 日間)・野菜を使った料理の試食(1 日)等	1,500

	13	金沢区物忘れフォーラム・認知症講演会	11月27日	金沢公会堂	厚生労働省の「認知症を知り地域をつくる10ヶ年」キャンペーンに基づき、多くの区民のみなさんに、認知症について正しく理解していただき、認知症になっても安心して暮らせるまちをつかっていくことを目的として、認知症についての講演会や、関係者によるシンポジウム、区民の方々による寸劇、認知症サポーターの会「かなざわささえ隊」などの活動紹介、展示等。	400
	14	金沢文庫駅西口 歩行者空間整備事業	6月18日～14日	金沢文庫駅西口	金沢文庫駅西口歩行者空間整備事業の完成に伴い、開通式を実施。	—
	15	金沢区第38回ロードレース大会 第18回小学生駅伝大会	2月11日	海の公園・八景島	スポーツの普及・啓発、体力向上に寄与し、併せて区民の交流を図るため、区内在住・在勤・在学者を対象に小学生駅伝及びロードレース21種目を実施	1,812
	16	フォーラム KANAZAWA	3月7日	能見台地区センター	金沢区内の「街の先生」と生涯学習団体が一堂に会し、相互交流や区民との交流により、金沢区において生涯学習をはじめのきっかけ作りと生涯学習活動のネットワーク作りに寄与しました。	670
	17	称名寺薪能	5月3日	称名寺境内特設舞台	歴史的遺産である称名寺を舞台に区民と協働で薪能を実施。能『橋弁慶』 櫻間右陣ほか・狂言『附子』野村萬斎ほか	1,033
	18	区内木遣りと囃子の競演	5月16日	金沢公会堂	区内に伝わる木遣りと囃子が一堂に会し、開港150周年を祝賀しました。	500
	19	第21回金沢区区民文化祭	9月16～20日 10月18日～ 12月13日	金沢地区センター 金沢公会堂	公募による区民の作品展(絵画全般・写真・書道・文芸・手工芸)	未定
	20	アメリカン・アンカレッジ～横浜・金沢もうひとつの開港150周年～	4月28日～9月27日	横浜八景島、海の公園	◇開港、開国の紹介金沢区の紹介 ◇アンカレッジの紹介 ◇写真、パネル展 ◇環境保全体験、海のふれあい学習	30,258
	21	国史跡称名寺境内平橋・反橋完成記念渡り初め(教育委員会)	4月4日	称名寺境内反橋前広場	「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録候補遺産である「称名寺境内」において、平成19年度から2ヶ年にわたり改修工事をすすめていた「平橋」「反橋」が完成したので渡り初めを行いました。	—
	22	「開港150周年の森づくり」植樹イベント(環境創造局)	6月11日 10月17日	旧小柴貯油施設	旧小柴貯油施設等において、開港150周年を記念し、150万本植樹行動の一環として、市民から寄せられた苗木を用いた植樹イベントを実施しました。	800
	23	旧伊藤博文別邸復元事業(環境創造局)	10月31日	野島公園内旧伊藤博文金沢別邸	野島公園内で現在復元された、旧伊藤博文金沢別邸の竣工に合わせ完成記念式典を行いました。	70
港北	1	記念式典	9月13日	公会堂	ステンドグラス竣工式や記念式典を開催	450
	2	区民提案記念事業	～12月20日	港北区内	アニバーサリー提案事業として、20年度公募により選定された実施団体への補助する。	—
	3	出張なんでも鑑定団	7月5日(収録)	公会堂	なんでも鑑定団を招致し、区内PRを行い区制70周年記念を盛り上げました。	600
	4	記念誌作成事業	～8月	港北区内	「鉄道に見る港北区の発展」をテーマにした記念誌を発刊し、配布しました。	—
	5	未来へつなごう!「光のメッセージ」製作事業	9月13日(除幕式)	新田地区センター	伝統文化を再認識し後世につなぐため、横浜マイスターの協力を得て区民の手でステンドグラスを製作し、区庁舎に設置しました。	630
	6	広報PR事業(キャラクター・ロゴ作成)	通年	港北区内	区版やタウンニュースなどの媒体を活用するとともに、キャラクターやロゴを利用し、啓発活動を行い、区制70周年の意識を高めます。	—
	7	ペットボトルロケット大会	9月5日	鶴見川樽町公園多目的広場	地域の青少年指導員による、ペットボトルロケット地区対抗戦や変り種ロケットの発表会を開催しました。	1,800
	8	ふるさと港北ふれあいまつり	10月17日	新横浜駅前公園少年野球場	ふるさと港北の意識高揚を図るイベント、「ふるさと港北ふれあいまつり」開催しました。	80,000

	9	地区健民祭	9月～10月	区内各地域	地区連合町内会単位で地域住民が自主的に開催する健民祭を開催しました。	1,500
	10	広報よこはま特別版 PR紙	—	港北区内	区版やタウンニュースなどの媒体を活用し、港北区制70周年・開港150周年記念事業を盛り上げました。	—
	11	フラッシュダンス事業	4月12日	菊名小学校体育館	公募で集まった中・高校生により結成されたダンスユニットが、プロの振付家の指導のもと、レッスンを積み重ね発表しました。	400
	12	中学生ジャズコンサート	5月9・10日	港北区内施設等	区内高校の吹奏楽部を中心に、ビッグバンドを結成し、プロのミュージシャンの指導のもと、ジャズ公演を開催	175
	13	フェスタ・ムジカレ(コーラス大会)	9月6日	公会堂など	港北芸術祭参加型事業である「港北区コーラスの集い」	500
	14	芸術文化振興事業	～12月13日	港北区内施設等	参加型事業やデーモン小暮、赤い靴など鑑賞型事業を実施します。	未定
	15	小机城址まつり	4月5日	小机城址	150年前の衣装を纏ったパレードとイベントを開催しました。	15,000
	16	大倉山観梅会	2月28日～3月1日	大倉山梅林	開港150周年記念ステージ、開港歴史パネル展、港北写真展	50,000
	17	福祉保健区民フォーラム	10月31日	公会堂	公会堂などで活動交流集会を実施し、区民や事業者等の福祉保健への活動意欲を維持するとともに、開港150周年・区制70周年を広報アピールし、区民意識を高めました。	1,500
	18	地産地消・区民フォーラム	～11月	公会堂など	「地産地消」をテーマとした区民フォーラムの開催や港北区の地産地消情報を集めた冊子を作成する。また、地場産物を使用した調理体験イベントを実施しました。	未定
	19	緑のカーテン事業	～12月	区内小学校など	地域や学校との協働により、ヒートアイランド対策のモデル的取組みとして校舎の壁面緑化を図る。	未定
	20	スポーツフェスティバル(ベタンク大会・グランドゴルフ等)	～8月30日	港北区内	港北区体育指導委員連絡協議会及び港北区体育協会への活動補助や区内スポーツ関係団体とのスポーツフェスティバルの共同開催などスポーツを通じて・区制70周年・開港150周年への機運を高めました。	500
	21	港北の観光写真コンクール	募集中～22年1月表彰・展示 22年2月	港北区役所 地下鉄新横浜駅	港北区内の「梅」をテーマにした写真と、史跡や文化財等観光スポットをテーマにした写真のコンクールを行い、港北区の魅力を掘り起こしました。	未定
緑	1	区制40周年記念事業	10月3日	緑スポーツセンター	幅広い層の区民参加による区制40周年記念式典を実施しました。	500
	2	廃食用油でゴミ収集車を走らせよう	10月18日	四季の森公園	①区内の〇〇地区で、廃食油を回収(区) ②回収油をプラントでディーゼル燃料化(委託) ③旧式ディーゼルのゴミ収集車で区内を試走(局)	未定
	3	「水と緑と花の回廊」	3～10月	【候補地】三保配水池(三保市民の森入口)[水道局]、梅田川沿い、長津田みなみ台西調整池、中山北緑道先	区制40周年記念植樹(150万本植樹行動)	未定
	4	緑区制40周年記念切手	5月	—	40周年を記念したオリジナルデザイン切手(80円切手)を1,000シート(10枚/シート)作成。	—
	5	区制40周年記念第1回「緑区ガーデニングコンテスト」	9月14日～18日	緑区役所1階エントランス及びロビー	①「戸建て編」「マンション編」等に部門を分け、区民から写真を募集。表彰。②みどり愛護のつどいの会場において「ハンギングバスケット」展示。表彰。	未定
	6	緑区民ロードレース大会	3月1日	十日市場小・中学校周辺道路	区内でのフルマラソンはコース設定上無理なので、3～5キロ程度の短い距離を設定して、ロードレースを実施。	482

7	40周年記念メニューの発売	10月	—	商店街などを通じて公募した区内の飲食店に、はまなしといった緑区の地場の品物を使用するなどした記念メニューを作ってもらい、それらの紹介パンフレットを作成、記念メニューのコンテストを開催しました。	—
8	みんなの社会科見学!	8月21日 9月5日	区内	白山ハイテクパーク内の小野測器等の企業や三保地区にあるJ-SATの衛星管制センター、雪印の横浜チーズ工場、区内の神社仏閣など、日頃見ることができない場所の見学ツアーを開催する。また、見学の様子や協力企業の紹介等を記載したパンフレットも作成しました。	未定
9	区民まつり事業	10月18日	四季の森公園	ステージイベント:区民参加による踊り・音楽演奏等 サブイベント:ストラックアウト(開港歴史ボードの的当て)、こども動物園・ウォークラリー・大道芸等 各種出店:ミニ地下鉄運行、展示PR・模擬店・ゲーム等	66,000
10	緑区制40周年記念誌発行事業	5月	—	記念冊子の発行:3000部(1000部配付、2000部販売(500円))	—
11	区制40周年PR事業	6月	—	タウンニュースへの掲載	—
12	みどり多文化フェスタ	10月11日	十日市場地区センター	世界の歌や踊りや遊び、スタンラリー、民族衣装の試着、物品販売やフリーマーケット。	1,000
13	緑区民音楽祭事業	6月21日 9月13日 12月6日	緑公会堂	区民が身近な場所で音楽に触れる機会を提供。	1,500
14	緑区コーラスのつどい事業	10月25日	緑公会堂	区内で活動しているコーラスグループが集まり、日ごろの練習の成果を披露し、交流を深める合同発表会。今年は、ゲストに女性デュオのふうりん、TBSこども音楽コンクールでの最優秀賞受賞実績もある玉川学園ハンドベル・クアアをお迎えし、「横浜市歌」等を一緒に歌いました。	500
15	みどり区民アート展	10月27日～ 11月1日	緑公会堂	開港150周年にちなんだテーマで募集した特別展を、「みどり区民アート展」に合わせて開催しました。	1,000
16	創造と森の声2009	7月～10月	横浜動物の森公園	森の自然を生かした美術作品の公開製作・展示やワークショップを行ないます。	1,000
17	緑・芸術祭その他事業	6・10・12・3月	—	サークルミニギャラリー、緑・芸術祭企画運営委員会の委員会運営経費等、参加イベント募集・支援	未定
18	グリーンフェスタ in 八朔	5月10日	北八朔公園広場	ステージ発表や開港150周年パネル写真展、八朔特産品の販売、模擬店の出店	2,000
19	子ども達の夢の緑区づくり事業	平成22年3月	—	「夢みどり50プラン」の中で子ども達が描いた10年後の緑区を実現するために、どのような取り組みをすればよいかを、子ども会議のメンバーを中心に検討するとともに、実現可能なものから適宜取り組んでいきます。また、その取り組みを多くの区民にPRし広める場として、「夢みどりフェスタ」を開催。	未定
20	緑区G30・ストップ温暖化フェスタ'2010	平成22年3月	緑区市民活動支援センター、中山子どものはらっぱ	より良い環境を未来の子ども達に残せるよう、緑区が取り組んでいる「G30」ごみの減量と、地球温暖化防止の啓発や発表をするとともに、リユース食器を全面導入し、ごみが出ない環境に配慮したエコイベントを実施。	3,000
21	未来へつなぐまちの魅力アップ事業(緑区ガイドボランティア養成講座)	年度	—	緑区の「緑と水の回廊ルート」を案内する市民ボランティアを養成	—
22	未来へつなぐまちの魅力アップ事業(緑区の魅力PRツールの作成)	9月	—	区内の魅力スポットをめぐるルートの紹介や、歩いて楽しめる観光施設・おすすめスポット等の情報を盛り込んだPR誌の発行等	未定
23	未来へつなぐまちの魅力アップ事業(なかやま駅えきちか☆ステージの開催)	7月、9月、11月、2月	中山駅	グリーンライン中山駅構内を利用して、地域と協働で、区民参加型のイベント・音楽コンサート・ダンスなどのパフォーマンスを実施	未定

	24	暮らしの衛生推進事業	8月	—	食の安全・安心をテーマに講演会を実施(緑をたっぷり召し上がれ事業と共催)	—
	25	健康づくり講演会	10月3日	緑公会堂	健康づくりをテーマに講演会・パネルディスカッションを実施	未定
	26	緑をたっぷり召し上がれ事業	11月	—	野菜摂取量増加のため緑区で収穫される野菜を使った料理メニューを募集、優秀な作品に表彰するイベントを開催します。応募作品のレシピ集を発行し、有償配付しました。	—
	27	四季の森公園まつり	4月27日	四季の森公園	野外ステージ、模擬店、PRテント	20,000
	28	長津田ジャズまつり	11月14日	長津田駅	緑区出身のボーカルも参加する、18人のビッグバンドが出演。	520
	29	鴨居駅コン	9月20日	鴨居駅	鴨居駅コンコースを利用してコンサートを開催	300
	30	中山商協大盆踊り大会	8月29日			10,000
青葉	1	青葉区制15周年記念誌発行	11月	—	区内の各種店舗を紹介するタウンガイドを青葉区商店街連合会にて発行しました。ガイドには青葉区特集として青葉区の特徴、歴史等、区制15周年の記念となる内容を掲載しました。(50,000部)	—
	2	青葉区制15周年・横浜市開港150周年記念 チューリップまつり事業	4月12日	横浜青葉スポーツ広場	横浜青葉スポーツ広場で色とりどりのチューリップ110,000本が咲き誇り、区民の皆様に、自然の素晴らしさを満喫していただくとともに、花摘みを体験していただく。子供向けイベントやフリーマーケットや、開港150周年ブースや花文字により区民への開港機運を高めました。	20,000
	3	横浜開港150周年・区制15周年記念 青葉区民まつり事業	11月3日	青葉区役所周辺	ふるさと意識の醸成と地域連帯を図るため「あおば区民まつり・健康フェスティバル」を開催。青葉区制15周年・横浜開港150周年記念イベントとして、ステージを設け、開港機運を高め、啓発等を大々的に行いました。	50,000
	4	150万本植樹	—	こどもの国国線	子どもの国線西側350mで小学生と植樹イベントを実施	—
	5	横浜北部美術公募展開催事業(あおばアートの風プロジェクト)	7月21日～8月2日	アートフォーラム あざみ野	地域における芸術文化活動振興の一環として、横浜北部地域(港北区、緑区、都筑区、青葉区)の市民が美術に親しみ創作する環境を醸成するため、横浜市民ギャラリーあざみ野との協働による公募展を開催。	3,000
	6	青葉区制15周年・横浜開港150周年記念「青葉音楽プロジェクト」事業	10月4日	こどもの国	平成21年(2009年)の周年事業として、区民の手による記念ミュージカルや、街角音楽祭など、音楽にあふれたまち青葉を象徴する「青葉音楽プロジェクト」事業に取り組みしました。	10,000
	7	郷土の歴史を未来に生かす事業	10月～	—	平成21年(2009年)が横浜開港150周年・青葉区制15周年に当たるのを記念し、郷土の歴史を振り返り未来に生かすため、記念誌の作成や記念事業の実施に取り組みしました。	2,000
	8	あおば音楽ひろば事業	年間を通じて	青葉区役所ほか	毎月1回区役所1回ホールで区内で活動している音楽家の演奏会を実施し、区民が気軽に音楽を楽しむ機会を提供。	2,500
	9	青葉音楽プロジェクト事業	10月4日 平成22年1月22日～24日	こどもの国 青葉公会堂	青葉音楽フェスティバル(10月)、青葉区小中学生ミュージカル開催(1月)	1,500
	10	タイムカプセル2009	～11月(受付)	区民まつり会場	親から子どもへの手紙を預かり、15年後の区制30周年に子どもたちに届けました。	—
	11	日本体育大学実演会区民招待	11月6日	ヨコハマアリーナ	日本体育大学で2年に一度開催している体操祭を区との共催事業として開催	1,000
	12	親子で行こうベイサイドエリア見学会	平成21年7月31日	横浜港およびベイサイドエリア	区民を横浜港および周辺施設に招待	80
	13	区制15周年記念式典	11月3日	青葉公会堂	区制15周年を節目の機会として、記念式典や伝統芸能を実践している団体を中心としたアトラクション等を実施	500
	14	あざみ野まつり	8月29日	小学校予定地(あざみ野1-15)	子どもの故郷意識を育み、地域住民相互のコミュニケーションを深めるため、体験型のまつりを実施。	20,000

都筑	1	区民まつり&アニバーサリーウィークウエルカムつづき	11月3日	センター南駅センター北駅みなきたウォーク	開港150周年とともに区制15周年にちなんだイベントを盛り込み、より多くの区民が楽しめる区民まつりとなりました。	150,000
	2	つづきウォーク&フェスタ	6月7日、11月23日	区内	区制15周年(11月)、開港150周年(6月)をテーマに親子で楽しめる催しを実施しました。つづき世界の市場と同時開催	3,000
	3	つづき世界の市場	6月7日	すきっぷ広場	在住外国人や外国人支援を行なっている日本人サポートボランティアによる各国の文化紹介を行ないました。つづきウォーク&フェスタと同時開催。	20,000
	4	都筑野菜の普及・促進	通年	都筑区役所	都筑区の特産である野菜を広く区民にPRするため、農家の協力を得て庁舎での直売会を開催。	—
	5	歴史的記録写真収集	随時	—	区内の風景写真・景観写真を広く収集・蓄積し、区の歴史的資料として保存・活用する。収集した写真をウェブページ等で広く紹介・周知する事によりふるさと意識の醸成を図る。	—
	6	記念植樹	11月	都筑区役所	区制15周年、開港150周年を記念し、区役所に「ローザ・つづき」を利用したバラガーデンを整備。	50
	7	都筑こどもエコ・フェスタ	11月14日	都筑公会堂 都筑区民ホール	区内保育園、小学校、中学校や区内立地企業等によるエコ活動の発表や展示、エコキャラクター大集合や白井貴子さんのトーク等を行ないました。	1800
	8	つづきジュニア編集局	随時	—	青少年が開港150周年や区制15周年関連行事などを取材し、区のホームページで記事を発信する事で、市政・区政への関心を高め、社会と関わることで人と人とのつながりの大切さを学ぶとともに、記念事業に関わることでふるさと意識の醸成を図りました。	40
	9	都筑区制15周年式典	11月7日	都筑区民ホール 都筑公会堂	区制15周年を記念し、記念式典を開催しました。 【第1部】 都筑区制功労者の表彰 中村礼子さんユニホーム寄贈式 スピーチ 【第2部】 記念コンサート(ダ・カーポ)	300
	10	つづきミュージックバトル	11月8日	都筑公会堂	中学生・高校生を対象にした音楽コンテストにおいて、音楽を通じた夢づくを支援しました。	570
	11	福祉農園	10月25日	JA横浜多目的広場	障害者と地域住民によるアトラクションといも堀体験	2,000
	12	都筑区民生委員児童委員協議会・都筑区制15周年記念講演会	11月14日	都筑公会堂	高齢者にとっての都筑区の魅力を語る。	500
	13	あったかハートつづき 安心・安全フェア	11月15日	すきっぷ広場	次世代の「つづきっ子」が夢や希望を持ち、都筑区が「安全・安心を実感できる街」となるよう、今後の消防の体制を区民にアピールしました。 ・ステージコーナー わんわん消防隊発足式、音楽隊演奏、救助演技、消防団寸劇等 ・体験コーナー 放水体験、煙体験、子どもレンジャー体験等 ・常設コーナー 車両展示、防災相談コーナー等	3,000
	14	区民の森(仮称)整備事業	11月23日	整備予定地	横浜市へ寄贈された約3,000㎡の樹林地を都筑区制15周年を記念する「区民の森(仮称)」として整備し、都市緑地として保全するため、関係者及び仲川小学校児童による植樹を行ないました。	63
戸塚	1	戸塚区制70周年記念式典	5月10日	戸塚公会堂	区民栄誉賞、区マスコットのデザイン・愛称優秀作品、70周年写真集優秀作品の表彰や区民オーケストラによる記念コンサートを行ないました。	500

	2	戸塚駅周辺魅力アップキャンペーン in 柏尾川	通年	戸塚小学校体育館・グランドおよび柏尾川河川敷	柏尾川の魅力を高め、皆が親しめるきれいな川にするための啓発イベントとして、展示やステージイベントを中心にを行います。	700
	3	戸塚フリーステージ	通年	戸塚駅東口遊歩スクエア(ペDESTリアンデッキ上)ほか	駅周辺の活性化のために、文化芸術イベントや子供とのふれあいイベントを行います。	20,000
	4	とつか夢結び応援事業～戸塚区制70周年・横浜開港150周年に向けた区民活動支援～	通年	区内各地	※補助金交付事業:戸塚区の魅力の再発見、創造、広報に関する事業や、区制70周年、開港150周年に関する事業等を行う区民組織等への補助金交付	—
	5	戸塚ふれあい区民まつり 戸塚ふれあい文化祭	11月3日 13～15日 21～23日	東戸塚小学校、戸塚公会堂、戸塚地区センター、戸塚図書館	区民まつりを開催しました。また、区民が日ごろの文化活動の成果を発表するとともに、文化活動を通じた地域住民との交流を図る文化祭を開催しました。	30,000
	6	戸塚っ子いきいきアートフェスティバル	8月、10月、1月	戸塚公会堂ほか	区内児童・生徒による音楽・美術の発表会を開催します。	1,600
	7	戸塚区民ゴスペルコンサート	11月28日	戸塚公会堂	公募により集まった市民クワイアーが、プロの指導を受けてゴスペルを練習の上、コンサート当日にプロのステージの一部に参加し、プロ・観客と一緒にゴスペルを歌いました。	500
	8	戸塚クラシックコンサート	10月17日、 平成22年3月	戸塚公会堂	オーディションによって選ばれた演奏家が10月と3月のコンサートに出演し、区民にクラシック音楽鑑賞の機会を提供します。	1,000
	9	とつかお結びフォーラム	6月27日	戸塚小学校	各分野で活躍する活動団体や企業などの交流イベントを行いました。	700
栄	1	キャンドルナイト in さかえ2009 夏	7月18日	本郷台駅前広場	地球温暖化防止等の啓発を目的に、「地球にやさしい広場」のシンボルイベントとしてキャンドルナイトを実施しました。	3,000
	2	横浜開港150周年記念栄区民絵画展	7月～	本郷中学校ファンケルギャラリー	昨年度に引き続き、「開国開港」をテーマに絵画を募集し、区民まつりやファンケルギャラリーに展示。区民まつりで表彰も行いました。	10,000
	3	横浜開港150周年栄区記念モニュメント製作事業「本郷台駅前に栄区の未来を描こう。」	7月～10月	本郷台駅前広場等	栄区内の小学生たちが、地球環境保護や未来の栄区をテーマに描いた150枚のタイルを本郷台駅前の花壇に設置・展示しました。	
	4	世界こどもスポーツサミット in 横浜	8月22日	上郷森の家	開港150周年を記念して、キッズを含めた国際トライアスロンを開催。参加する子どもたちが上郷森の家に宿泊するため、栄区の子どもたちと交流を図りました。	200
	5	栄区民まつり	10月31日	横浜市立本郷中学校	こどもから高齢者までの多くの区民が楽しみ、地域住民の「ふれあいの場」としての定着化と、幅広い区民の参加を推進するために、栄区連合町内会をはじめとする各種団体による実行委員会を組織し、区民による、区民のための「まつり」を行いました。	45,000
	6	夏休みコンサート	7月26日	栄公会堂	交響楽団による音楽を親子・家族で楽しむ機会を提供することにより、文化振興を図りました。	600
	7	栄区民芸術祭	10月11日～ 11月14日	栄公会堂 栄区民文化センター	栄区内で文化振興事業を目的として活動している個人、団体の技術の向上を支援するとともに、発表の場を作り、地域、文化交流のきっかけとしました。また、区民が音楽をはじめ、さまざまな芸術に触れる機会を増やし、栄区の文化振興の発展を図りました。	15,000
	8	横浜開港150周年記念区民プロデュース事業	7月～平成22年3月	栄公会堂他	区民の手によって企画された講座に、受講生として区民が参加します。	—
	9	各地区連合での盛り上げ事業	4月～	各地区	各地区連合自治会等で実施される記念事業の盛り上げに対して、のぼり旗や展示等により支援を行います。	—
泉	1	150記念ソフトボール大会	4月12日～5月31日	区内グラウンド	生涯スポーツであるソフトボールを通して、小学生からシニアまでの愛好者を対象に開港150周年記念大会を開催する。	7,000
	2	150記念自治体交流サッカー大会	7月25日～26日	神明台スポーツ広場	2002サッカーワールドカップ関連事業の一環として、同じ「泉区」という縁で、仙台市泉区を対戦相手として実施。	700

	3	150記念歴史パネル展	6月～	区内各施設	開港当時の泉区の歴史の変遷を地域が保有する資料や写真等の展示を通して開港と泉区の関りを再発見する。また、小学生を対象に泉区の歴史がひと目でわかるリーフレットを作成して配布。	3,000
	4	このよこはまにまさるあらめや	5月29日～30日	泉公会堂	舞踊発表会	600
	5	健康横浜21 野菜を多く食べよう	6月18日～19日	相鉄ローゼン	食育イベント	1,000
	6	150 いずみ盆踊り大会	7月23日	和泉遊水地	地域住民による納涼イベント	400
	7	150記念交通安全親子教室	7月29日	中田小学校	親子を対象とした150周年記念安全教室	300
	8	Y150 記念無線局開設	8月30日～31日	和泉遊水地	総務省より「8N1Y」というコールサインで特別局免許を取得。その開局式を挙げる。	80
	9	150記念 湘南の舞	9月19日	泉公会堂	舞踊発表会	700
	10	泉区横浜開港150周年記念中央イベント	11月3日	和泉遊水地	ステージショー、模擬店、体験コーナー	31,000
	11	150記念青少年フェスティバル	11月29日	和泉遊水地	ブルースバンドやマーチングバンド演奏、模擬店、昔あそび、紙ヒコーキ大会等	2,000
	12	150記念チャリティー芸能大会	12月5日	泉公会堂	カラオケと舞踊の披露	1,000
	13	150記念さわやかスポーツ大会	12月6日	和泉遊水地	区内30チームによるソフトバレー大会	100
	14	地区・団体開催イベント支援事業	通年	区内	区内の各地域において地区連合や各種団体が実施する150記念イベントに対して実行委員会が支援を行なう。	—
	15	150記念キャンドルナイト(主催:相模鉄道)	11月3日	和泉川地蔵原の水辺	キャンドル煌めく水辺での野外コンサートや家族で楽しめる飲食ブース等を開設。	15,000
	16	開港150周年の森記念植樹	11月16日	神明台処分地	神明台処分地において、開港150周年を記念し、150万本植樹行動の一環として、地元小学校が参加して、ドングリの苗を記念植樹しました。	250
	17	健康づくり活動フェア	11月11日～15日	イトーヨーカドー立場支店	身近な場所でお子様から大人まで体験できる健康チェックや野菜たっぷりメニューの紹介など	2,050
瀬谷	1	花いっぱい野外ギャラリー	3月14日～11月9日	瀬谷駅北口駅前広場	区民、事業者・団体等が協働で仮設花壇を設置し、区民ボランティアが花を育てます。横浜の西の玄関瀬谷駅を花で彩るとともに、様々な世代の人々・立場の人が交流することで地域活性化を図る。	900
	2	育苗モデル事業「花まるプロジェクト」	通年	瀬谷区橋戸3丁目(通称:育苗センター)	区民自ら花苗・苗木を育成して、地域に育苗のノウハウを伝承するとともに、花いっぱいの野外ギャラリー等に苗の供給を行う。	50
	3	瀬谷フェスティバル	11月1日	上瀬谷通信施設のはらっぱ	「セーフティせや」「エコ&健康」「やさしさ交流」を内容とする、「SEYAスタイル」の推進・区民への定着を図るとともに、瀬谷区制40周年・開港150周年をPR。	50,000
	4	せやキッズデイ	5月17日	二つ橋小学校	すべてのこどもたちが参加し交流できるイベント「せやキッズデイ」に、開港150周年区制40周年に関連するプログラムや展示ブース等を設け、お祝いの気運を高め、地域交流の活性化を図る。	3,000
	5	瀬谷区制40周年記念式典	10月3日	瀬谷公会堂	瀬谷区制40周年を記念して、多くの区民の皆さまとともに、区政40周年をお祝いしました。当日は、記念式典の他に、区内の小中学校、中学校による演奏会などを行ないました。	400
	6	スタンプラリー「せや魅力再発見！」	4月27日～平成22年3月31日	区内	区民に瀬谷区の魅力を再発見してもらうため、年間を通して様々な関連事業が対象となるスタンプラリーを実施。	10,000

チ マザーポートエリア

横浜駅周辺から山下・山手地区の都心臨海部で、開港 150 周年を契機に地域の魅力を高める取組を地域と連携して行うことにより、「おもてなし」の取組と回遊性を高める取組を行いました。各地域の商店街等が、新たな事業や他の地域との連携に取り組み、今後の継続に向けた機運も高まっており、都心臨海部の新たな魅力づくりにつながっています。

(7) 各商店街の取組

開港 150 周年を契機として多くの観光客が横浜に来るこのチャンスを集客に活かすため地元商店街が新たな取組を行いました。

事業名	団体名	開催日程	事業概要	開催地
開国博 Y150 開催記念 みなとみらい21タッチde ゲットMMさんぽ／プレ ゼントラリー&みなとみら い21クーポンブック	みなとみらい21SP推 進委員会	4/28 ～ 9/27	みなとみらいの参加各施設と、開国博 Y150 の 会場内、東急線渋谷駅にタッチポイントを設置 し、交通系ICカードや携帯電話を使用して、気 軽に参加できるキャンペーンとして、相互の集 客、回遊性の向上をはかりました。	みなとみらい21 地区／ランドマー クプラザ／クイー ンズスクエア横浜 ／開国博 Y150 会 場 外8箇所
横浜開港 150 周年プレミ アム アイスクリーム発祥記念 イベント2009	馬車道商店街協同組 合	5/7 ～ 5/9	馬車道あいす街頭プレゼント、アイスクリーム 発祥記念「馬車道マルシェ」、馬車道寄席、馬 車道シアター「幕末あいすくりん伝説 房蔵くん がゆく」開港 150 周年馬車道オリジナルフラ ッグの掲出	馬車道通り、馬車 道広場、関内ホー ル
ファイヤードラゴン	横浜ドラゴンボートレ ース協議会	5/30	山下公園前の海上にて、かがり火を点けたド ラゴンボート「ファイヤードラゴン」のパフォー マンスを行うことで開港 150 周年を祝うとともに、 新たなる100年に向かって新生横浜の未来を 照らす灯りとして、横浜における港湾活性化と 海洋環境の向上をめざしました。	横浜港 山下公園 前海上、山下公園 内
横浜開港 150 周年記念Z ANGIRIヘアショー	Y150 ザンギリヘア ショー実行委員会	6/2	開港 150 周年を記念し西洋理髪処発祥の地が 横浜で、あることを広く周知し、理容・美容業の 発展に寄与するとともに、商店街の振興を行 いました。	JRAエクセル伊勢 佐木、イセザキ・モ ール1・2St .
横浜開港 150 周年記念 事業祝賀パレード	セントラルベイYMC 協議会(中華街発展 会、元町SS会、山下 公園通り会)(横浜開 港 150 周年記念事業 祝賀パレード実行委 員会)	6/20	地元関係団体が連携し、開港 150 周年のパレ ードを実施しました。 山下公園→横浜中華街→横浜元町→山下公 園通り→山下公園 をパレード行進する。	山下公園 横浜中華街 横浜元町 山下公園通り
中華街文化フェア～灯籠 會	横浜中華街発展会協 同組合	8/12 ～ 10/12	開港 150 周年を記念して、「多文化の共存」の 願いを込めた、中華街の「混合文化」を過去の 写真や大型ランタン(灯籠)を用いて紹介しま した。またシンポジウムを開催し、横浜開港の 歴史に携わってきた中国人の役割を再認識す るとともに、今後の中華街の在るべき姿を考え ました。	横浜中華街 横浜開港資料館
大通り公園納涼ガーデン まつり	横浜開港 150 周年記 念「大通り公園納涼ガ ーデンまつり」実行委員 会(中区第一地区中 部連合町内会、(財) 緑の協会、(財)YCV B、(財)造園協会、商 工会議所、市)	8/17 ～ 8/26	「空調に頼らず涼風の中で夏の夕を過ごす」を コンセプトに、再整備を進めている大通り公園 を、環境をテーマとして有効活用することによ り、環境にやさしい夏の過ごし方を提案すると ともに、地域の活性化と開港 150 周年の盛り 上げを図りました。	大通り公園 石の 広場周辺
第31回ヨコハマカーニバ ル	ヨコハマカーニバル実 行委員会	8/22 ～ 8/23	「ハマこい踊り」などを通して、横浜の文化の創 造に寄与すること及び、横浜市等と連携し開 港 150 周年記念事業の一環として、横浜の元 気を全国に発信することを目的として実施しま した。	Y150トゥモローパ ーク会場外

横浜開港 150 周年記念 キッズマーチングパレード	Y150 キッズマーチングパレード実行委員会	9/5	開港 150 周年を記念し、日本初のマーチングバンドといわれている関東学院や神奈川県警察音楽隊の地元、横浜で、未来の横浜を担う子ども達の盛大なパレードを実施し、商店街の振興を行いました。	イセザキ・モール1 ～7St .
親子そろってそば祭り	神奈川県麺類生活衛生同業組合、伊勢佐木、山手、南第一、南第二、磯子、金沢、保土ケ谷、西、神奈川支部	9/6	市内商店街とそばや業界が開港 150 周年のにぎわいの中で活性化につながるイベントに参加して地域のはなやかさと各店舗の改革につなげました。「マザーポートエリア」内で回遊をしていただき賑やかさと楽しさを創出することを目的とし実施しました。	大さん橋大ホール
スローフードニッポン2009 国際スローフードウィーク in 横浜	スローフードニッポン実行委員会	10/16 ～ 11/1	開港 150 周年を記念して、ベイエリアの各所に舞台を設定して展開される、スローフードの国際的なイベント。スローフードをテーマに、マーケットやピクニック、エクスカッション(遠足)、映画祭、期間限定の特別ディナーなどおいしくて楽しいイベントを開催しました。	横浜市内各所
横浜開港 150 周年記念 ヨコハマ関外・大通り公園 ジャジーフェス「トライアル」	ヨコハマ関外・大通り公園ジャジーフェス実行委員会	10/24	近隣の町内会が声掛けあい、大通り公園をステージに、開港 150 周年を記念して、ジャズやブルースなどライト・ミュージック系の演奏ステージのほかアートなどとのコラボレーションや地元学校生徒との交流など、のびやかに気軽に楽しめる市民イベント広場の開設にトライアルしました。	JRAエクセル伊勢佐木、イセザキ・モール1・2St .
開港 150 周年記念 ガス灯の魅力PRイベント	馬車道商店街協同組合	10/31	・開港 150 周年を機に横浜の開港の歴史的資源であるガス灯を観光都市横浜として PR しました。 ・馬車道まつりの一環のガス灯点灯式や観光資源であるガス灯を効果的に活用しマザーポートエリアの回遊性・集客性を図るイベントを実施しました。	馬車道通り 馬車道広場 関内ホール
横浜開港 150 周年記念 元町ショッピングストリート Xmas イルミネーション	協同組合元町エスエス会	11/7 ～ 12/25	開港 150 周年を記念して、煌めくホワイトLEDイルミネーションを追加！スノーシャワーイルミネーションやLEDスポットライトの導入によってイルミネーションに動きを付加します。またストリートツリーはデザインを一新し20台がモール全体にとびきりの美しさを演出しました。元町に訪れるお客様のために素敵なホワイトクリスマスをプレゼントしました。	元町商店街

(イ) 横浜開港資料館ライトアップ・オープンカフェ事業

横浜の歴史を見つめてきた“開港場よこはま”のシンボルであり、たねまるのモデルにもなった横浜開港資料館中庭にある『たまぐす』と、横浜市指定文化財である『旧英国総領事館』をライトアップし中庭を夜間開放し、あわせて、喫茶室「Aujardin de Perry (ペリーの庭で)」も夜間営業を開始し、くつろぎある空間を提供しました。

<ライトアップ・中庭夜間開放>

平成 21 年 4 月 28 日～9 月 27 日

(ウ) 臨時案内拠点の設置

開国博 Y150 や横浜・神奈川デスティネーションキャンペーンによる観光客をお迎えし、マザーポートエリア内の回遊性を高めるために、臨時の観光案内拠点を設置し、周辺のイベントや観光情報等を発信しました。

「馬車道駅観光案内デスク」

所在地： みなとみらい線馬車道駅構内

設置期間： 4月28日(火)～9月27日(日)

業務内容： 開国博 Y150 に関する情報提供、会場周辺の観光案内

対応実績： 37,893 人

「伊勢佐木町観光案内デスク」

所在地： 旧横浜松坂屋本館 1 階

設置期間： 6月2日(火)～9月27日(日)

業務内容： 開国博 Y150 に関する情報提供、イセザキモールの店舗情報提供
周辺の観光案内

対応実績： 16,575 人

(I) 横浜ちよこっと観光インフォメーション

～コンビニエンスストア 3 社との連携～

財団法人横浜観光コンベンション・ビューローと横浜市で、開港 150 周年を契機に、観光やコンベンションで横浜を訪れる方の「顧客満足」を高めるため、平成 17 年 2 月から推進している民間観光案内所事業を拡充しました。

コンビニエンスストアほか参加事業者を増強し、特に開国博 Y150 で来訪されるお客様向けの案内情報を提供するため、マニュアルの作成および研修を実施し、観光のご案内、周辺の道案内、また観光客がトイレ利用できるよう協力をいただきました。

[参加事業者] 平成 17 年 2 月事業開始時 21 事業者 26 か所

→平成 21 年 5 月 1 日現在 87 事業者 182 か所

[内：参加コンビニエンスストア]

・スリーエフ：13 店舗 ・セブンイレブン：15 店舗 ・LAWSON：28 店舗。

(オ) ヨコハマまち歩き 150 (Y150 マザーポートまち歩きコース)

開国博 Y150 開催期間に合わせ、ボランティアガイドによる「まち歩き」ガイドツアーを実施しました。

・実施期間 21 年 4 月 27 日～9 月 27 日 参加人数：1, 675 人

【実施コース】

◎ JR 桜木町駅 ↔ 開国博 Y150 赤レンガ会場

・横浜魅惑のアート満喫コース [1 時間 2.5km コース]

・迫力満点、ヨコハマの産業遺産 [1 時間 2.3km コース]

・横浜トワイライト夜景コース [1 時間 2.3km コース]

◎ JR 関内駅 ↔ 開国博 Y150 赤レンガ会場

・横浜もののはじめコース [1 時間 1.9km コース]

・横浜レトロな建物コース [1 時間 2.1km コース]

・横浜トワイライト夜景コース [1 時間 2.3km コース]

◎ JR 石川町駅 ↔ 開国博 Y150 赤レンガ会場

・ニーハオ横浜中華街から港へ [1 時間 2.6km コース]

・ハイカラ元町・外国人居留地コース [1 時間 2.4km コース]

◎ JR 石川町駅 ↔ 元町ショッピングストリート

・あこがれ山手を逍遥コース [2 時間 3.9km コース]

(カ) マザーポートエリア クリーンアップ作戦

- ・実施日 21年5月30日(土)
- ・参加人数：3,612人

開港 150 周年を迎える横浜を訪れる多くの観光客をおもてなしの精神で迎えるため、横浜の顔とも言える、マザーポートエリアを美しく、過ごしやすい街にするべく、横浜を愛する市民ボランティアをはじめ、地元商店街・町内会、企業、高校等との協働で、5月30日「ごみゼロの日」にマザーポートエリアを一斉清掃しました。

地元商店街、町内会等の方には担当エリア内の清掃を実施していただき、一般の参加者には、マザーポートエリア内に観光名所を巡る 20 コースを設け、まち歩きを楽しみながら清掃活動を実施していただきました。

当日は、3歳～70歳まで幅広い年齢層の方々や、横浜総合高校が授業の一環として参加するなど、計 3,612 人が参加され、3,380kg のごみを集めました。

ツ 地域や民間主体の取組

基本計画で位置づけた事業以外にも、地域や民間が主体となり、多くの開港 150 周年記念事業が実施されました。こうした主体的な取組は、横浜市の魅力を外内に発信するとともに、地域力の向上に大きな力となりました。

(7) 150 円商店街

横浜市商店街連合会が主体となり、市内の多くの商店街が連携し、「150 円商店街」に取組みました。この取組は、次年度以降へも継続が決定しています。

- ① 主催 (社) 横浜市商店街総連合会
- ② 開催日 平成 21 年 6 月～平成 22 年 2 月までの偶数月第 2 土曜日
(6月13日、8月8日、10月10日、12月12日、2月13日)
- ③ 会場 開催商店街 各店舗店頭
 - ・開催商店街数：第 1 回 113 商店街、第 2 回 115 商店街、第 3 回 116 商店街
(※市商連加盟商店街数：317 商店街)
 - ・開催店舗数：第 1 回 参加 2,848 店/構成 4,949 店=57.5%、
第 2 回 参加 3,023 店/構成 5,230 店=57.8%
- ④ 内容 同一日に、市内商店街各店舗が一斉に、「開港 150 年」にちなんだ「150 円」の商品やサービスを店頭で陳列、販売を実施。同時に、「150 円」商品をお買いあげのお客様にポイントカードを発行し、開港 150 年にちなんだプレゼントが当たる抽選会を実施しました。

(イ) 外国人学校発表会 ～Y150 ベイサイド市民協催

県内には多くの外国人学校があります。横浜の開港と同時に外国人とともに外国の先進的な文化も入ってきました。開港 150 周年を機に県内の外国人学校が合同で、自慢の民族文化を披露しました。

- ① 主催 かながわ外国人ネットワーク
 ② 開催日 平成21年9月1日(火)
 ③ 会場 開国博 Y150 赤レンガ会場(赤レンガ倉庫1号館3階ホール)
 ④ 出演 エスコラ アカレア ブラジル(厚木市下川入)
 ホライゾンジャパンインターナショナルスクール(横浜市鶴見区)
 横浜インターナショナルクリスチャアカデミー(横浜市中区)
 神奈川朝鮮中高級学校(横浜市神奈川区)
 横浜朝鮮初級学校(横浜市神奈川区)
 川崎朝鮮初級学校(川崎市川崎区)
 南武朝鮮初級学校(川崎市高津区)
 ⑤ 出演者数 243人 来場者数 432人

(ウ) 開港 150 周年後援事業

横浜市開港 150 周年・創造都市事業本部及び財団法人横浜開港 150 周年協会では、数多くの民間主体の開港 150 周年記念事業に対して後援しました。

※開港 150 周年・創造都市事業本部と財団法人横浜開港 150 周年協会の後援の合計

ジャンル	19 年度 件数	19 年度 主なイベント
	20 年度 件数	20 年度 主なイベント
	21 年度 件数	21 年度 主なイベント
文化芸術	59	JAZZ BY THE SEA、横浜ジャズチャリティーコンサート、横浜レゲエ祭 2007、Asia Art Festival 2007、アートリンク他
	98	10,000 SAMBA!、サザンオールスターズ「真夏の大感謝祭」30 周年記念 LIVE、第 28 回 YOKOHAMA 本牧ジャズ祭他
	58	戸塚混声合唱団第 12 回演奏会、横浜スカーフ展、横浜市歌制定 100 周年を祝うコンサート、都響スペシャル「横浜公演」他
スポーツ	8	ヨコハマ・スポーツ・ワールド 2007、黒船物見遊山 2007、日産スタジアム駅伝大会他
	41	横浜開港記念特別ゲーム 2008、プロ野球オールスターゲーム 2008、「横浜港ポート天国」横濱開港 150 周年記念横浜 AA カップ他
	16	第 3 回 YSCC 横浜開港記念ミニサッカー大会、日米青少年ベースボールキャンプ 2009
歴史	10	近代水道創設 120 周年記念講演会、「日本近代漫画の始祖チャールズ・ワーグマンとジョルジュ・ビゴーが見た幕末・明治のニッポン」展他
	29	井伊直弼と開国 150 年祭歴史講演会 & 近江みちの国講座、ハワイ日系人歴史絵巻展、横浜開港 150 周年記念横浜開港と宣教師ー翻訳聖書の誕生ー他
	17	横浜開港 150 周年記念講演会「近代横浜を生きた女たち」、慶應義塾創立 150 年記念「福澤諭吉と神奈川」、横浜中華街 150 年 落地生根へ歲月他
その他イベント	46	国際花火大会、ワールドフェスタ インターナショナル ポートショー、イベント JAPAN 2008、横浜・開港キャンドルカフェ 2007、春の大道芸
	138	国際花火大会、横浜国際マリンエンターテイメントショー、世界こどもサミット in 横浜、第 9 回横浜健康散策他
	68	開港 150 周年祝賀パレード、〈地球環境と子供の未来を考える〉「氷山ルリの大航海」、DAYS 横浜国際フォトジャーナリズム・フェスティバル他
合計	588	

(4) 次世代育成・人材育成プロジェクト

横浜の将来を担う、国際性を持った人材、科学技術の振興や産業界の発展を導く人材を育てていくとともに、地域社会全体で子育てを応援するような仕組みづくりを行いました。

ア 小中一貫英語教育の推進

地域特性を活かした語学教育戦略を進めるために、国語教育を充実するとともに、小中学校で一貫した英語教育を推進し、国際都市・横浜の未来を担う人材をの育成に取り組みました。

○ 2009(平成21)年度中に、全小学校で「横浜国際コミュニケーション活動(Y I C A・Yokohama International Communication Activities)」を開始します。

○ 小学校のY I C Aの授業の中で、児童は、外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付け、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を身に付けます。その素地が、中学校の外国語科におけるコミュニケーション能力の基礎を学ぶ学習につながり、将来、国際都市・横浜の未来を担う人材として育ていくことが期待されます。



○ コミュニケーション能力の育成及び国際理解教育の一層の推進を図るため、全小学校に、英語指導助手(A E T)を配置しました。

英語で外国の生活や文化を紹介する国際理解教室の中で、小学校段階に相応しい体験的な英語活動を取り入れながら、児童の国際性を養うために、全小学校に外国人非常勤講師(I U I)を派遣しました。

イ 横浜開港150周年記念副読本発行事業

～小学生用副読本『わたしたちの横浜』、中学生用副読本『わかるヨコハマ』～

(ア) 趣旨

横浜開港150周年を迎えるのを機に、横浜の子どもたちが、自分たちのふるさと「よこはま」の価値を確認する取組を教育委員会として企画しました。

進取の気質に満ちた優れた先人を輩出した都市、環境行動都市として今も具体的な行動に取り組む都市の一員としての自覚を育むための冊子とし、未来に前向きな展望をもった進取の気質に溢れた子どもの育成及び環境行動都市横浜の一員として自覚をもった行動ができる子どもの育成を図りました。

(イ) 実施内容

○ 民間とのタイアップ(かながわ検定協議会、横浜銀行の協賛)により、対象学年(小3～小6、中1～中3)への児童・生徒全員への個人配布を行いました。

○ 横浜が目指す子ども「公」「開」に示した子ども像の具現化に資する副読本を作成しました。

- 「横浜の時間」「社会科」「理科」等の副読本として活用できる内容構成を図りました。
- 中学生用は、「かながわ検定横浜ライセンス」公式ガイドブックとして、一般書籍として販売しました。（学校配付用と体裁が異なる）
- 小学生用副読本の編集委員会の構成は、横浜市教育委員会指導主事、横浜
市立小学校長・副校長・教諭とし、外部識者による監修を依頼しました。
- 中学生用副読本の編集委員会の構成は、検定協議会が委嘱した有識者を中
心に執筆し、市教委指導主事が監修しました。

(ウ) 反響・成果

- ・ 小学生用副読本は、これまでの各区版（モノクロ）に代わって、オールカラ
ー、郷土横浜の歴史、社会、自然を網羅した多彩かつわかりやすい内容となり、
配布後、市民の方からも購入したいという希望が多数寄せられています。（現
在非売品）
- ・ 中学生用副読本は、平成 18 年度まで発行していた『横浜の歴史』を中心に、
現代の横浜の社会、自然分野を加えたもので、郷土横浜を総合的に理解するこ
とのできる副読本で、大人でも読める多彩な内容であり、一般書店で購入する
ことができます。
- ・ 小学生用、中学生用とも、社会科、理科、『横浜の時間』（総合的な学習の時
間）の副読本として、学校の各授業において多方面に活用できるものとなりま
した。

ウ 横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備

- ・ 平成 21 年 4 月 5 日 開校

横浜サイエンスフロンティア高等学校は、日本で初めて「サイエンス」の名のつ
いた理数科の高等学校として、開港 150 周年の平成 21 年 4 月に横浜市鶴見区に開校
し、1 年生 238 人が入学しました。

はまぎんこども宇宙科学館館長で東京大学名誉教授の和田昭允博士、ノーベル物
理学賞受賞者で（財）平成基礎科学財団理事長の小柴昌俊博士、（財）神奈川科学技
術アカデミー理事長で東京大学特別栄誉教授の藤嶋昭博士など 5 人の世界的な科学
者が、スーパーアドバイザーとして、教育内容、
教育方法の指導・助言、生徒への講義などを行
っています。

また、研究機関、大学、企業の研究者、技術
者の方々に、科学技術顧問として、出張講義や
研究指導に御協力をいただくなど、先端科学技
術の知識を活用して、世界で幅広く活躍する人
間を育成することを教育理念として、学校での
教育を行っています。



エ 子育て家庭応援事業「ハマハグ」

子育て家庭応援事業「ハマハグ」は、妊娠中の方や小学生以下の子どもがいる家庭の方が、協賛店や施設で登録証を見せると子育てを応援する様々なサービスが受けられます。市内 1,944 件の店舗・施設が協賛しています。(2009 年 12 月時点)

「ハマハグ」は、ヨコハマの「ハマ」と抱きしめるという意味の英語「hug (ハグ)」をつなげており、子ども達がたくさんの人にあたたく見守られて育てほしいという気持ちが込められています。

イメージキャラクターは、子どもたちに人気のアンパンマンです。市内のお店・施設でぜひ、アンパンマンのステッカーを見つけて下さい。



©やなせ・F・N

● サービス内容

ちょっとした心配りから、設備・備品の無料提供、割引や優待などがあります。
(サービス内容の例)

ベビーカーのままでの入店への配慮、荷物一時預かり、離乳食メニュー・お子様メニューあり、授乳スペース設置、おむつ替え台設置、粉ミルク用のお湯提供、育児相談・育児情報の提供、おもちゃなどのプレゼント、ポイントサービス、宅配無料・割引 等

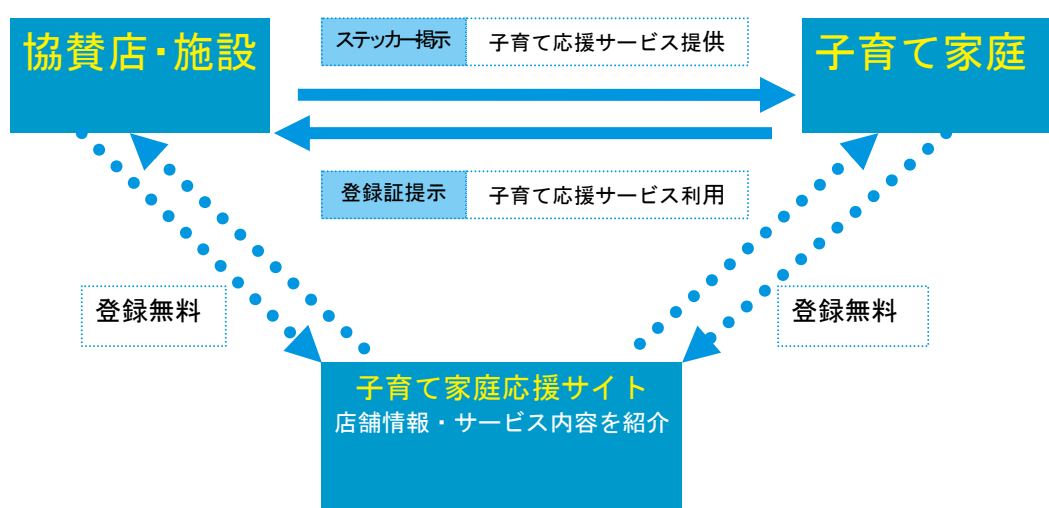
● 対象

- ・サービス利用者：小学生以下の子どもがいる家庭の方及び妊娠中の方
- ・サービス提供者：横浜市内に店舗・施設等を有する事業者

● 利用者登録方法

パソコンや携帯電話で、横浜市のホームページから申し込み

(検索キーワード「ハマハグ」) <http://www.hamahug.jp/kyosan.html>



(5) さらなる国際的な発信力を高めていくための都市戦略の取組

進取の気風と開放性に富んだ市民性を最大限に活かしながら、環境・経済・国際貢献などの分野の大型国際コンベンションを積極的に誘致・開催し、国際都市・横浜を世界に発信するとともに、より国際性豊かな都市へのステージアップにつなげる取組を行いました。

ア 横浜クリエイティブシティ国際会議 2009

横浜市がこれまで進めてきたクリエイティブシティ・ヨコハマの取組を国内外に発信するとともに、今後の創造都市の新たな方向性及び戦略を国内外の多様な参加者で検討する国際会議を開催しました。

- ・ 会議開催 平成 21 年 9 月 4 日（金）～9 月 6 日（日）
- ・ 会 場 関内ホール、横浜開港記念会館、ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター他
- ・ 会議参加者 約 2,000 人

(ア) 会議テーマ

～創造性が都市を変える～

(イ) 趣旨

- ① 横浜市のこれまで 5 か年の創造都市の取組と、国内外諸都市の取組課題を踏まえて、創造都市の次の方向性、戦略を検討する。
- ② 国内外の市民、NPO、大学、行政など多様な創造の担い手による人材育成、まちづくり、経済の活性化をはかるネットワーク形成をはかる。
- ③ 創造都市横浜の取組を国内外に発信する。

(ウ) 構成

基調講演、パネルディスカッション（2回）、分科会（6回）、全体会議総括として横浜市長から「横浜宣言」を最終日に発表

(エ) パネリスト、コメンテーター等スピーカー

国内外 20 都市、68 人（海外からは 11 の国と地域から 17 人）

(オ) 主なパネリスト

ピーター・ホール氏（ロンドン大学パートレット校教授）

モンテ・カセム氏（立命館アジア太平洋大学学長）

青木保氏（前文化庁長官・青山学院大学大学院特任教授）、

伊東豊雄氏（建築家）

フォルカー・シュタイン氏（フランクフルト市副市長）

リン・チュン・チェ氏（台北市都市再開発本部本部長）

ローラン・トロンタン氏（リヨン広域行政区経済・創造産業顧問）

森源二氏（金沢市副市長）、篠田昭氏（新潟市長） ほか



(カ) 主な議論

- ・ 創造性はすべての都市にとってかけがえのない価値であり、それぞれの都市に生活する知恵と工夫により豊かな都市の個性を引き出すことが可能
- ・ 都市をとりまく環境の変化に対応した都市ビジョンを示し、都市における文化を生成する戦略を持つべき
- ・ 市民一人ひとりが創造性を持ち、市民・NPO・産業界が創造都市の主役となるべき
- ・ これらの行動を都市に対する愛着や自負につなげていくことが重要

(キ) 「横浜宣言」骨子

- ・ 開港の地である横浜都心臨海部の再生と、郊外部への展開
- ・ 横浜を、創造性を持った人々にとってチャンスのある街にしていく
- ・ 行政と市民やNPO・企業等との協働の新たな展開
- ・ アジアをはじめとする内外の都市との創造界隈拠点を中心とした交流、横浜から提案する創造都市を世界に発信する

イ 2009年シティネット横浜大会

- ・ 開催日 平成21年9月7日(月)～9月11日(金)
- ・ 会場 パシフィコ横浜会議センター、神奈川県民ホール
- ・ 参加者数 約2,000人

横浜市が会長都市を務める「シティネット(正式名称:アジア太平洋都市間協力ネットワーク)」の4年に一度の大会が横浜で開催されました。シティネットは、アジア太平洋地域の都市問題の改善・解決を目指す、都市・団体等の会員間の国際組織です。大会では、「未来のために都市が奏でるハーモニー」をテーマに、アジア太平洋地域54都市の代表やNGO、国連機関から多数の海外参加者を迎え、気候変動、防災、インフラ整備など都市が抱える様々な課題に対する一層の都市間協力の推進について議論を深めました。



9月8日の開会式では、シティネット会長・開催都市市長として林文子横浜市長が「開港150周年の記念の年に12年ぶりに横浜でシティネット大会を開催するのをうれしく思う」と国内外からの大会参加者を歓迎するスピーチを行いました。

開会式に続いて、作家C・W・ニコル氏の記念講演「都市・人・自然の共生」や末吉竹二郎氏をモデレータとする「アジア太平洋都市フォーラム『気候変動が都市を襲う』」が行われました。フォーラムでは温暖化など気候変動を背景に、都市と国際機関との協働、都市間ネットワークの可能性、市民のとるべき行動などのテーマ

で活発な議論が展開されました。フォーラムに参加した女優で国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）スペシャル・サポーターの菊川怜さんは、自身がアフリカの難民キャンプ等を訪問した経験から「気候変動問題を遠いところの問題ではなく、自分に直接関係する自らの問題と捉えていきたい」と述べました。

また、大会最終日に行われた公開セミナー「ヒマラヤから見た地球温暖化～地球のために今、できること」では、アルピニストの野口健さんが、エベレストでの清掃活動やヒマラヤの氷河が融解している現状を紹介されました。

公開プログラムにご参加いただいた多くの市民の方々に、地球規模で解決しなければならないより困難な課題に取り組む国際社会にどのように関わり、貢献していくことができるのか改めて考えていただく機会を提供するとともに、大会の開催を通じ、開港150周年を迎えた国際都市横浜を内外にアピールすることができました。

ウ 2010年日本APEC首脳会議の横浜開催の決定

横浜市では、平成20年6月から2010年に日本で開催されるAPEC（アジア太平洋経済協力）首脳会議の誘致活動を行ってきましたが、平成21年3月に横浜での開催が決定されました。

APEC首脳会議は、平成20年5月の第4回アフリカ開発会議に続く大型国際会議の開催となり、横浜の国際コンベンション都市としての地位を一層高めるとともに、世界に開かれた都市づくりの重要な一歩となります。

■ 会議開催時期

- ・ 最終高級実務者会合 平成22年11月7日～8日
- ・ 閣僚会議 平成22年11月10日～11日
- ・ 首脳会議 平成22年11月13日～14日

■ 参加国・地域

オーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、中国、中国香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、パプアニューギニア、ペルー、フィリピン、ロシア、シンガポール、チャイニーズ・タイペイ、タイ、米国、ベトナム

■ APECの概要

APECはアジア太平洋地域の持続可能な成長と世界経済の成長への貢献という理念のもと、域内21の国・地域が参加する経済フォーラム。世界全体の人口の約4割、世界全体のGDPの約5割を占めるAPECは、世界最大の地域協力といえます。

■ これまでの取組

- ・ 平成21年7月17日 「2010年APEC横浜開催推進協議会」設立
行政・経済界・国際機関など計44団体（会長：横浜市長）
- ・ 平成21年11月13日 2010年日本APEC横浜 開催1年前セレモニー実施

(6) 横浜開港 150 周年記念テーマイベント「開国博 Y150」

ア 開催概要

■事業名称	横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」
■愛称	開国博Y150
■主催	財団法人横浜開港150周年協会
■総来場者数	716万6,300人
・うち有料入場者数	123万9,325人 (ベイサイドエリア111万3,403人、ヒルサイドエリア12万5,922人)
・うちプレイベント	62万人
■総合プロデューサー	小川巧記(オガワ タクノリ)
■アートプロデューサー	日比野克彦(ヒビノ カツヒコ)

会場

B ベイサイドエリア 会期：2009年4月28日(火)～9月27日(日)10:00～22:00

※象の鼻会場は6月2日12:00～オープン

日本初登場となる、フランスの巨大スペクタクルアート劇団「ラ・マシシ」によるパフォーマンスや、日本を代表する映像作家・岩井俊二氏がプロデュースする新感覚SFファンタジー「BATON」の上映、開国・開港をテーマとした歴史体験やエンターテイメントイベント、ライブ、パフォーマンス、国際交流、市民協催イベントなど、ベイサイドエリア（横浜・赤レンガ倉庫周辺ほか）では、さまざまなプログラムを実施しました。

H ヒルサイドエリア 会期：2009年7月4日(土)～9月27日(日)9:30～17:30

※但し、8月の毎週土日及び9月19日から27日の9日間は、9:30～20:30

ヒルサイドエリアの会場となるよこはま動物園ズーラシア隣接地区では、横浜で伐採した竹で作った竹の海原等を会場に、市民自らが中心となって企画出展をする〈市民創発プロジェクト〉を展開しました。自然あふれる会場で、トークショー、ワークショップ、パフォーマンスなど、さまざまな参加体験ができるプログラムを実施しました。

M マザーポートエリア 会期：2009年の年間を通じて展開

横浜駅周辺から山下・山手地区でお馴染みの人気スポットを中心としたマザーポートエリアでは、周辺地域と密接に結びついた横浜ならではの魅力をお楽しみいただくため、横浜市民お薦め情報を盛り込んだエリア内回遊ルートマップ「たねまるマップ」の発行などを行いました。

イ ベイサイドエリア概要

新港地区から山下公園一带の「ベイサイドエリア」は、メインとなる3つの有料会場と4つの周遊会場（無料会場）で構成。有料入場施設は、新港地区に近接して3施設が設置され、また周遊会場として、赤レンガ倉庫から山下公園にかけて、4つの会場が設けられました。来場者は、横浜ならではの海と港、歴史的建造物などの景観を楽しみながら、有料入場施設と周遊会場を自由に回遊し、体験型展示、大型シアター、催事、市民参加型イベント、夜間演出、飲食、ショッピングなどを、楽しむことができる会場構成としました。



1 Y150はじまりの森
(新港地区8街区)

ENEOS ラ・マシ
横浜ものがたり
ENEOS 未来のエネルギー館
ENEOS ナイトピクニック
黒船レストラン



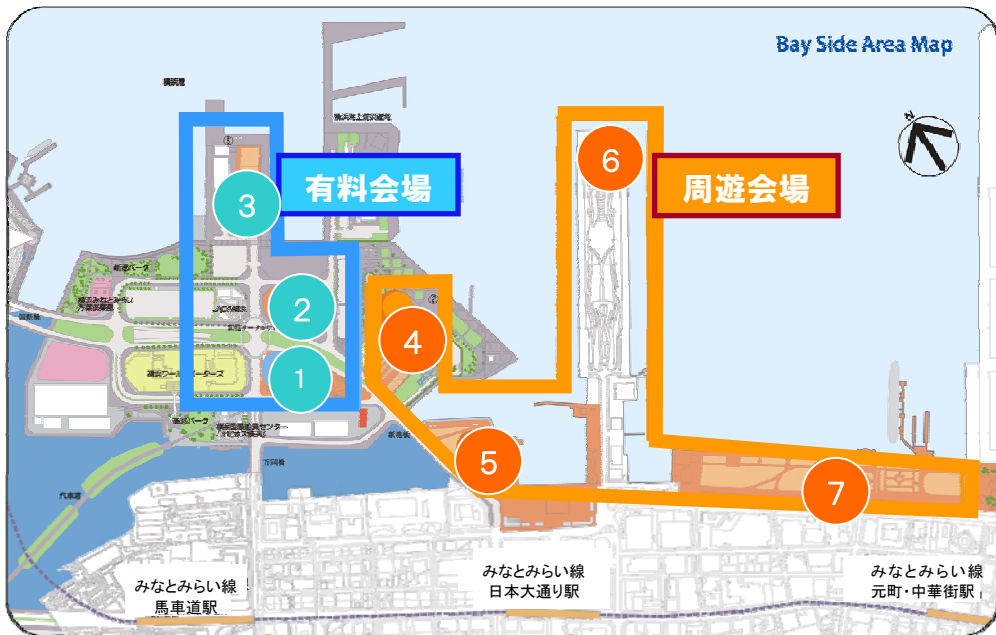
2

Y150トモローパーク
(新港地区7街区)
未来シアター「BATON」
トモローパークステージ
アースバルーン「HOME」



3

NISSAN Y150ドリームフロント
& スーパーハイビジョンシアター
(新港ふ頭)
NISSAN Y150ドリームフロント
スーパーハイビジョンシアター



4

赤レンガ会場(広場・1号館)
《開国・開港の街》
開港5ヶ国・5都市 常設展示
ワールドマーケット、都市交流広場
ワールドグルメ、公式記念品ショップ
ベイサイド市民協催
横浜18区紹介デー
横浜へつながる絹の道展(期間限定)



5

象の鼻会場
黒船トリックアート
灯台アートワーク



6

大さん橋会場
横浜FUNEプロジェクト
ベイサイド市民協催



7

山下公園会場
黒船来航イベント



© HTB-T2019

(7) Y150 はじまりの森

① ラ・マシンパフォーマンス

クリエイティブシティ構想を掲げ、創造都市ネットワークを拡大し、さらなる国際交流、芸術創造をめざす横浜が、フランスのナント市との連携を図り、スペクタクルアート劇団「ラ・マシン」を日本ではじめて招聘しました。

ベイサイドエリア 4 日間のプレイベントに続き、153 日間のイベントを展開しました。

- ・ 公演：1 日 5 回実施（11 時、13 時、15 時、17 時、19 時）
- ・ 延べ公演回数：756 回
- ・ 公演時間：1 回 20 分 延べ 252 時間の公演時間

② 横浜ものがたり

開港からの歴史をひもとく体験型の歴史ゾーンとして設置しました。

- ・ 展示構成：ペリー応接所再現セット、150 年年表、横浜開港物語シアター、はじめてワンダーランド

③ その他のコンテンツ

- ・ ENEOS 未来のエネルギー館
- ・ たまくすの学び舎
- ・ ENEOS ナイトピクニック
- ・ 黒船レストラン（フードコート）
- ・ 横浜ショーケース（タカナシ乳業、崎陽軒、ありあけ本館、KOHKA）
- ・ たねまる公式記念品ショップ
- ・ FUJIFILM フォトブース
- ・ 黒船トリックアート（6 月 2 日～）
- ・ ラ・マシン搭乗体験（5 月 30 日～）
- ・ スペシャルナイトプログラム（6 月 12 日～毎週金・土）
- ・ フェイスペインティング（5 月 23 日～毎週土日祝）



(4) Y150 トゥモローパーク

① 未来シアター

近未来アニメーション「BATON(バトン)」を上映するテント型シアター。「BATON(バトン)」はエピソード①～③の 3 話を会期を分けて上映しました。

- ・ 上映回数：3,109 回
- ・ 1 日の上映回数：20 回
- ・ エピソード① 4 月 28 日（火）～5 月 30 日（土）
- ・ エピソード② 5 月 31 日（日）～7 月 2 日（木）
- ・ エピソード②+夜間エピソード③ 7 月 3 日（金）～7 月 10 日（金）
- ・ エピソード③, ②交互上映 7 月 11 日（土）～9 月 27 日（日）

② トゥモローパークステージ

一般応募による出演のほか各区の区民デーや地元メディアとのタイアップなどのステージプログラムを開催しました。

- ・ 出演者総組数：481組（うち区民デー42組）
- ・ たねまるショー第1話：
4月28日（火）～7月25日（土）
- ・ たねまるショー第2話：
7月26日（日）～9月27日（日）

③ アースパルーン「HOME」

宇宙飛行士向井千秋氏監修の地球環境をテーマとした映像ストーリーを上映しました。

- ・ 上映時間 1日4回
(19時25分、20時00分、
20時35分、21時10分)
- ・ 上映回数 計611回上映
(8月7日のみ1回上映中止)



④ その他の展示・コンテンツ

- ・ スリーエフ Y150 店
- ・ キッズボート（7月18日（土）～8月31日（月））
- ・ 大道芸（実施日数112日間）
- ・ たねまるグリーティング
- ・ FMヨコハマ サテライトスタジオ「STUDIO SEAGULL Y150」

(ウ) NISSAN Y150 ドリームフロント&スーパーハイビジョンシアター

① スーパーハイビジョンシアター

世界最精細映像と37個のスピーカーを立体的に配置したマルチ音響による映像を上映しました。

- ・ 上映回数 4,667回

② 日産パビリオン

『横浜発、「地球への思いやり活動」を世界へ』をテーマに、これからの未来を創る子どもたちへのメッセージを映像等で発信しました。

- ・ 展示内容：PIVO LAB.（ピボ・ラボ）
- ・ コトバパーク

③ ドリームシップ

- ・ 宙（そら）の船（協力：JAXA 宇宙航空研究開発機構）（8月1日～）
再使用型ロケット実験機の展示やロケット発射映像等の上映
- ・ 海の船（協力：JAMSTEC 海洋研究開発機構）
しんかい6500の模型展示等
- ・ アートの船（横浜 FUNE プロジェクト）
横浜港の歴史を彩る実在の船をモチーフに製作したダンボールの船等

(I) 周遊会場

① 赤レンガ会場「開国・開港の街」

- ・ 開港5カ国・5都市常設展&企画展、都市交流広場、ワールドマーケット、ワールドワイン、ヨコハマグッズ「横濱001」ショップ、マザーポートエリアコーナー、「Y150 まちあるきステーション」「ワールドグルメレストラン」

② 象の鼻会場（6月2日～）

- ・ 黒船トリックアート（6月2日～）
カート・ウェナー氏による黒船・サスケハナ号のトリックアート
- ・ 灯台アートワーク（8月5日～9月27日）
応募デザイン数 101点
象の鼻会場制作・展示入選 10点
ドリームフロント会場展示 2点
- ・ 「種は船」展示（9月12日～26日）
- ・ 「出航」イベント（9月26日）
「Y150 横浜丸」進水式、「出航」セレモニー、歓迎式セレモニー

④ ベイサイド市民協催

多様な市民（個人、NGO・NPO 等各種団体）が、それぞれの活動を多彩な手法で表現する展示やステージイベントを展開しました。

- ・ 開催期間 4月28日（火）～9月27日（日）のうち75日間
[内訳]赤レンガ倉庫2階スペース 59日間
赤レンガ倉庫3階ホール 43日間
大さん橋ホール 14日間
- ・ 開催者 140団体（参加者実数7,511人、延べ人数11,047人）

⑤ 横浜 FUNE プロジェクト

横浜（港）の歴史を彩ってきた実際の船をモチーフにダンボールの「FUNE（船）」を、市民参加型のワークショップで150艘制作し、会期中2回に分けて、ベイサイドエリア大さん橋会場で展示しました。



- ・ ワークショップ（FUNE作り）
期間 平成19年6月16日（土）～平成21年8月30日（日）〔807日〕
会場 横浜市内の127会場（横浜市内の市民利用施設や中学校など）
延べ参加人数 18,248人
- ・ 展示イベント 35日間
会期 <第1期航海> 平成21年4月28日（火）～5月26日（火）
<第2期航海> 平成21年9月22日（火・祝）～9月27日（日）
会場 大さん橋ホール

⑥ 黒船来航イベント

黒船「観光丸」を誘致し、乗船体験ツアーや夜間ライトアップなどを行い、山下公園を会場に、マザーポートエリアの賑わい創出を行いました。

- ・ 黒船ウエルカムイベント 5月2日(土) 山下公園内
- ・ 乗船プログラム 黒船体験ツアー
 - 5月3日(日)～10日(日) 7,770人乗船
 - 6月13日(土)～26日(金) 14,144人乗船
 - 8月3日(月)～9日(日) 8,882人乗船
- ・ 黒船一般公開
 - 7月3日(金)～16日(木)
 - 17,276人乗船
- ・ 夜間ライトアップ 山下公園沖
 - 5月2日(土)～10日(日)
 - 6月13日(土)～26日(金)
 - 8月3日(月)～9日(日)



⑦ 船舶一般公開

横浜港サンクスプロジェクト事業として様々な船舶の乗船体験等を通じて、港の重要性や海の大切さについて理解を深める各種プログラムを展開しました。

開国博 Y150 期間中の来航船舶

- ・ 公開実施 延べ40日 計127,177人

保有団体名	船舶名	日程	開催場所	乗船人数
海洋研究開発機構	よこすか(潜水艇含)	6月13日(土)	新港ふ頭5号	4,002人
	なつしま(潜水艇含)	8月22日(土)	新港ふ頭5号	1,321人
	かいよう	9月12日(土)13日(日)	新港ふ頭8号	8,137人
	かいいい(潜水艇含)	9月12日(土)13日(日)	新港ふ頭5号	6,307人
	白鳳丸	9月27日(日)	新港ふ頭5号	4,295人
防衛省 海上自衛隊	護衛艦ひゅうが	9月6日(日)	大さん橋ふ頭	10,321人
	妙高軍帆船クワウテモック	5月28日(木)～6月5日(金)	新港ふ頭5号	30,181人
	護衛艦しらゆき	5月28日(木)～6月5日(金)	新港ふ頭8号	40,006人
	コロンビア軍帆船グロリア	7月4日(日)～7日(火)	新港ふ頭5号	4,556人
	護衛艦しらゆき	7月3日(土)～7日(火)	新港ふ頭8号	14,956人
東海大学	望星丸	6月4日(木)～7日(日)	大さん橋ふ頭	3,095人

⑧ 「絹の道都市間交流連携」

開港により横浜港から絹やお茶を輸出し、逆に横浜港から多くの西洋文明が日本に流入した歴史的な役割を学び、都市間の交流・連携の発展に資するため、関係都市と連携した絹の道展等を開催しました。

- ・ 赤レンガ広場テント内での物産展等
 - i 山梨(5/25～5/31) ii 相模原・八王子・町田(6/1～6/7)
 - iii 群馬・埼玉(6/8～6/14) iv 長野(6/15～6/21) v 横浜(6/22～6/28)
- ・ 赤レンガ1号館・横浜へつながる絹の道展
 - i 協賛企業(5/25～5/31) ii 相模原・八王子・町田(6/1～6/7)
 - iii 群馬(6/8～6/14) iv 長野(6/15～6/21) v 埼玉(6/22～6/28)
 - vi 山梨(6/29～7/5) vii 横浜市(7/6～7/12)

ウ ヒルサイドエリア概要

「ヒルサイドエリア」では、公募で集まった市民スタッフが中心になって創っていく「Y150つながりの森」を展開しました。「私からはじめるこれからの150年」をテーマに、市民の手で作り上げていく市民参加型の「市民創発プロジェクト」では、180以上の様々なプログラムが86日間にわたって展開されました。



【Y150つながりの森】

会場の中心には、竹の大屋根「竹の海原」。それを取り巻くように樹木や花壇などに囲まれたいくつもの広場を設け、地形と緑豊かな里山の風景を生かして、棚田や段々畑を作り、横浜の原風景を再現しました。

市民創発プロジェクト

ヒルサイドエリアのメインコンテンツ。「私からはじめるこれからの150年」をテーマに公募で集まった市民スタッフ自らが企画・出展を考え手がけ創り上げた180以上の「市民創発プログラム」を「竹の海原」や屋外の広場などの会場各所で実施しました。

自然や環境、共生などをテーマにワークショップやトークショー、パフォーマンスなど、見るだけでなく、対話して、参加して、体験ができる様々なプログラムを実施しました。

【プログラムの主なテーマ】

- | | | |
|--------|-------|-------|
| ・アート | ・福祉 | ・自分発見 |
| ・クラブ | ・交流 | ・教育 |
| ・ものづくり | ・国際理解 | ・スポーツ |
| ・文化 | ・伝統 | |
| ・環境 | ・歴史 | |
| ・自然 | ・シニア | |
| ・食 | ・若者 | |
| ・地域 | ・子ども | |
| ・まちづくり | ・遊び | |
| ・共生 | ・健康 | |



歴史や文化を学び、語り、楽しめる身近な場。アートや地域文化などのほか、つくって遊べる体験型もあり、様々なメッセージ性に彩られた多種多様なプログラムを発信しました。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ◆次世代とつながろう | ◆生き物とつながろう |
| ・秘密基地をつくらう | ・ぞうさん(糞)からのメッセージ |
| ・150年後の子どもたちへ、など | ・鯨の背中、など |
| ◆自然とつながろう | ◆みんなとつながろう |
| ・つながりの森の棚田で稲作体験 | ・世界と話そう、夏休みの子供達へ |
| ・横浜発 はなぐるま・花車で街角を飾ろう、など | ・私も変わろう、変わるプロジェクト |
| | ・視覚障害者のダンス・サークルメレンゲ、など |

(7) 市民創発プロジェクト

「私からは始めるこれからの150年」をテーマに公募で集まった市民スタッフ自らが企画・出展を考え、手がけ、創り上げた180以上の「市民創発プログラム」を「竹の海原」や屋外の広場などの会場各所で実施しました。

- ・ 応募者数 308 人
- ・ リーダー数 127 人
- ・ メンバー実数 10,168 人
- ・ 参加出演人数 17,928 人
- ・ プロジェクト数 182 プロジェクト

※ ヒルサイドエリアのメイン会場となる竹の海原製作のため、市内の竹林から市民参加で伐採を行う「竹の海原製作プロジェクト」を会期前に実施しました。
・ 参加者数 700 人

(4) 主催者コンテンツ

① つながりのダイアローグ

様々な関係＝「つながり」を創造する多分野のゲストによるトークを中心としたステージを実施しました。

- ・ 実施回数 47 回
- ・ 主な出演者（敬称略）
C. W. ニコル（作家、環境保護活動家）、白井貴子（ミュージシャン）、堀江謙一（海洋冒険家）、別所哲也（俳優）山口もえ（タレント）ほか

② ヒルサイドに巨大バッタあらわる

全長 50mの巨大バッタと劇団唐ゼミ☆と公募により集まった市民メンバーで構成される「飛蝗隊」による野外パフォーマンスを実施しました。

- ・ 実施日 全 15 日

③ セグウェイに乗ってヒルサイド体験

次世代の移動手段セグウェイに乗ってヒルサイド会場を観覧するツアーと試乗会を実施しました。

- ・ 実施日 全 13 日

④ Memorial Rebirth in ヒルサイド

1 分間に最大 1 万個のシャボン玉を発生させるマシン 50 台を使ったパフォーマンスを実施しました。

- ・ 実施日 全 6 日

⑤ 竹燈籠

市内から伐採した竹を使用し、3,000 本の竹燈籠を展示しました。

- ・ 実施日 全 6 日

⑥ 御柱祭 in ヒルサイド

信州・諏訪大社最大の行事、7年に1度の御柱祭をヒルサイドの会場で実施しました。

- ・ 実施日 9月23日（木）

(ウ) その他のコンテンツ

- ・ よこはま環境体験楽習展[横浜市環境創造局]
- ・ かみなり大王ごろごろ[横浜市環境創造局]
- ・ 座間の大凧
- ・ 旭区誕生 40 周年記念ヒルサイドステージ
- ・ 緑区制 40 周年記念緑区ステージ



エ マザーポートエリア概要

マザーポートエリア

Y150と横浜の街が一体となり来場者を迎えると同時に、イベントを契機とした集客力の向上や、横浜の街をPRする各種プランを展開

マザーポートエリア(横浜駅周辺～山下・山手地区)では、開港150周年の2009年に横浜を訪れる市内外からの来場者が、「開国博Y150」と同時に、横浜の街全体を楽しめる様々なプランを、行政・商店街・企業・市民が協働で考案、実施しました。

2009年1月から、地元横浜市民のお薦めスポット情報なども盛り込んだ、横浜の魅力を再発見できるエリア内回遊ルートマップ「たねまるマップ」を作成・配布するとともに、「開国博Y150」やエリア内観光の情報が入手できる多機能情報ステーション「たねまるポット」を設置しました。

【エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップ」(3回発行)】

横浜市民おすすめのマザーポート内回遊コースや情報が満載、情報ステーション「たねまるポット」や市内各所で無料配布。



▲エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップvol. 2」

▼「たねまるポット」



【情報ステーション「たねまるポット」】

マザーポートエリア内の回遊の目印として商店街、施設、観光スポットなど24ヶ所に設置。「たねまるマップ」や周辺情報チラシの配布、会期中は「たねまるスタンプラリー」のスタンプ台として活用。

●2009年1月17日(土)～9月27日(日) 16ヶ所

ザ・ダイヤモンド一番街広場インフォメーション(横浜駅西口)／地下街ポルティンフォメーション(横浜駅東口)／マリノスタウンオフィシャルショップ／横浜美術館／クイーンズスクエア横浜／野毛地区インフォメーションセンター／BankART1929(アイランドタワー)／野毛山動物園／ちえるる野毛／関内ホール／なか区民活動センター(ZAIM別館)／横浜市開港記念会館／横浜開港資料館／横浜港大さん橋客船ターミナル／China Town80／山手234番館

●2009年4月28日(火)～9月27日(日)

帆船日本丸／ベイサイドエリア会場内 ほか

オ 市民参加事業

開国博 Y150 では、市民に来場していただくだけでなく、自ら企画した事業を実施していただいたり、ボランティアとしてお手伝いいただいたりするなど、多様な市民参加に取り組みました。

具体的には、

- ヒルサイド市民創発やベイサイド市民協催での事業の企画・出展・出演
- 会場運営ボランティアとしての来場者の誘導案内や環境美化活動など
- 横浜 F U N E プロジェクトのワークショップへの参加

など、10 事業で実人数で約 3 万 4 千人、延べ人数で約 9 万人の方々に参加いただきました。

事業別参加者数

[単位：人]

事業名	実人数	延べ人数	実人数の積算
会場運営ボランティア	2,587	16,484	実人数：参加登録者数
ベイサイド市民協催	7,511	11,047	140 団体参加者数+18 区紹介デー
ヒルサイド市民創発	10,868	18,628	182 プロジェクト ID 発行数+竹伐採イベント参加者
横浜 F U N E プロジェクト	8,000	18,248	パスポート発行部数
DORAMA YOKOHAMA 150	500	18,674	活動登録者数
横濱・開港キャンドルカフェ	208	208	ボランティア登録者数
マザーポート	615	615	
道志村間伐材プロジェクト	166	339	プラットフォーム推進委員会事業
イベントをコアにするネットワーク	750	750	プラットフォーム推進委員会事業
地域 SNS 「ハマっち！」	2,800	2,800	プラットフォーム推進委員会事業
合計	34,005	87,793	

また、このほかにも、有料会場内で各区の区民デーを設け、横浜の様々な地域の特色や魅力をステージイベント等で情報発信しました。

・13 日間 合計 838 人

カ Y150 教育プログラム

「開国博 Y150」を教育プログラムの一環とし、校外学習として活用してもらうため、「Y150 教育プログラム推奨ツアー」を作成し、各コースに組み込まれる周辺施設を手配し、「歴史・港」、「環境・科学技術」、「生命・アート」、「経済・国際」の計 38 コースを設定しました。

教育プログラムに参加した学校は 549 校 210,878 名となりました。横浜市立学校は、ほぼ全ての学校が参加しました。

教育プログラム参加実績

		横浜市立	町田市立	相模原市立	八王子市立	横浜市内私学	合計
小学校	校数	345	12	3	8	2	370
	人数	130,620	1,144	342	588	604	133,298
中学校	校数	144		4	3	4	155
	人数	67,291		512	336	1,094	69,233
高等学校	校数	10				5	15
	人数	6,291				1,732	8,023
特別支援学校	校数	9					9
	人数	324					324
校数計		508	12	7	11	11	549
人数計		204,526	1,144	854	924	3,430	210,878

キ 広報宣伝活動

(財) 横浜開港 150 周年協会では、平成 19 年度より「開国博 Y150」の広報宣伝活動を開始し、各種媒体への広告の掲出を行うほか、広報事務局を設置し、各種メディアへの取材誘致等を行いました。

その結果メディアへの掲載数は 6,871 件、広告媒体に換算すると約 110 億円に相当する効果がありました。

【メディア掲載数】

	20 年度	21 年度	合計
新聞・フリーペーパー	2, 1 2 8	2, 9 8 7	5, 1 1 5
雑誌	2 5 9	4 7 8	7 3 7
テレビ	2 3 2	3 2 1	5 5 3
ラジオ	3 4	9 0	1 2 4
WEB	2 8	2 3 8	2 6 6
その他	1 7	5 9	7 6
合計	2, 6 9 8	4, 1 7 3	6, 8 7 1

【広告媒体換算金額】

(千円)

	20 年度	21 年度	合計
新聞 (フリーペーパー含)	922,268	1,502,533	2,424,801
雑誌	104,061	340,730	444,791
テレビ	937,441	5,191,985	6,129,426
ラジオ	90,213	365,234	455,447
WEB	32,151	177,497	209,648
交通広告	454,905	633,815	1,088,720
その他	17,395	244,887	262,282
合計	2,558,434	8,456,681	11,015,115

※ 算定期間は本格的に広報・宣伝活動を開始した平成 20 年 4 月から「開国博 Y150」が閉幕した平成 21 年 9 月まで。

ク 協賛金

協賛金獲得に関しては、平成 20 年秋のリーマンショックに端を発した世界同時不況の影響を受けた厳しい経済状況下で、目標を上回る協賛金を獲得することができました。

- ・ オフィシャル・パートナー (特別協賛参加) : 2 社
 - ・ オフィシャル・スポンサー (一般協賛参加A) : 6 社
 - ・ スポンサー (一般協賛参加B) : 32 社
 - ・ サポーター (事業協力参加) : 54 社
- 合計 94 社

ケ 有料入場者数

(7) 入場者実績

入場者数内訳

単位：人

入場者数	有料入場者数(単位:人)		
累計	累計		
		ベイサイド	ヒルサイド
7,166,300	1,239,325	1,113,403	125,922

有料会場入場者数内訳

単位：人

	ベイ	ヒル	小計	備考
一般	892,423	95,836	988,259	
教育プログラム (横浜市立校のみ)	183,412	21,114	204,526	児童、生徒
	10,400	1,241	11,641	引率教員
招待券等	27,168	7,731	34,899	協賛企業等
	1,113,403	125,922	1,239,325	

(イ) 有料入場者数

有料入場者数が 124 万人に止まった理由を特定することは困難ですが、次のような様々な要因が推測されます。

- ① 市街地における既存の土地利用状況をそのまま活かし、広域的にイベントを行うという都市型の分散会場方式で実施したことから、コンテンツが分散し来場者のスムーズな移動が不自由であったことで一体感に欠けたこと。
- ② 有料入場者数 500 万人の見込を発表した時点では、全会場（ベイサイド 6 会場、ヒルサイド 1 会場）を有料と想定していましたが、大さん橋会場や赤レンガ会場などは、会場施設側と調整の結果、既存のイベントの利用を優先し通期で利用できないこととなり、無料会場とせざるを得ず、最終的にベイサイドエリアでは有料会場 3 箇所と無料会場 4 箇所になったこと。
- ③ 分散会場方式のコンセプトを尊重し、無料会場でのコンテンツの充実も図ったため、来場者が既存の魅力ある観光スポットで展開した無料会場で満足されてしまったこと。
- ④ 多大な経費がかかることや、景観への配慮から有料会場全体を周囲から隔絶する目隠し等を設置できなかったため、有料会場で展開した主要なコンテンツの一部（くも・バルーン）が会場の外から一部観覧できる状況となり、有料会場への来場動機が抑制される一因となったこと。

- ⑤ 限られた予算のなかで、安全、安心のイベントを目指して、既存市街地に広域に展開する無料会場や都市型・分散会場に応じた安全対策への投資も行ったため、有料会場への投資を抑制する必要が生じ、コンテンツの魅力が乏しくなったこと。
- ⑥ 会場構成の変更によりコンテンツの決定が遅れ、主要なコンテンツの発表前（平成 20 年 6 月 2 日）に前売券販売開始となったことなどにより、企業・個人の購買意欲を鈍らせたこと。
- ⑦ 前売入場券の販売を開始（平成 20 年 6 月 2 日）した以降、世界的な景気低迷（平成 20 年 9 月 15 日 リーマンブラザースの倒産）が発生し、消費者の感覚が変化したこと。
- ⑧ 開会前日（平成 21 年 4 月 27 日）に世界保健機関（WHO）が新型インフルエンザの警戒レベルをフェイズ 4 に引き上げたため、感染を恐れ混雑している集客施設へ出かける人が少なくなったこと。
- ⑨ 会期前半は週末ごとに天候が悪化するという悪循環が続き、外出を控えた人が多かったこと。

（※「会場計画の変遷」「企画内容の変遷」は、巻末資料 P201～P203 参照）